

屋根を着替える、暮らしが見違える。



超高耐久次世代 ガルバリウム鋼板採用

カレッセ S 遮熱

施工マニュアル



www.taiheisangyo.jp



カレッセ

標準施工説明書

施工前に、この説明書を必ずお読みの上、正しく施工してください。
カレッセの施工は、必ず屋根専門事業者が行なってください。

安全上のご注意

事故防止のため、以下のことを必ずお守りください。
この説明書で使用しているマークは、次のような意味があります

 警告	この標示の欄は、「死亡または重症を負う可能性が想定される」内容です。
 注意	この標示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

警告

- 積雪・高所強風地域では、施工基準が異なります。それぞれの施工基準に従って施工してください。
- 雨などで屋根面が濡れている場合は、施工しないでください。滑り落ちる恐れがあります。
- 葺き上がった屋根面には、物を置かないでください。ルーフィング上に屋根材を置くときは、滑り落ちないように固定してください。

注意

- 施工前に屋根材を置くときは、堅固でフラットな場所に水平に置いてください。崩れ落ちると危険です。
- 取り扱いには手袋等を着用してください。
- カレッセを仮置きして施工する場合は、釘打ちの振動で瓦が滑り落ちる恐れがありますので、充分注意してください。

この施工説明書は、施工される方がいつでも見られるところに、必ず保管してください。

目 次

1.製品について	
■製品の特長・本体のディテール・本体の特性・テクニカルデータ	1
2.部材一覧	2
3.施工道具・施工材料	3
4.積算方法	4
5.下地について	
■野地の割り付け・下地の仕様	5
6.軒先・谷メタル及び防水シートの施工	6
7.本体の施工	
■割り付け・専用カッターの使用方法	7
■本体の施工	8
■エアードリルを使用する場合・本体を調整して使用する場合	9
8.各部の施工	
■ケラバ部	10
■陸棟部・片流れ棟部	11
■隅棟部・三ツ又部	12
■四ツ又部・谷部	13
■流れ壁際部・平行壁際部	14
■出隅部・入隅部・軒先壁当り部	15
■ケラバ壁当り部・陸棟壁当り部・隅棟壁当り部	16
■葺き降ろし部	17
■落ち棟部・半切り妻部	18
■陸隅曲がり部・陸棟曲がり部	19
■V谷部・ドーマー部	20
■煙突廻り（トップライト廻り）部・入母屋・斜めケラバ部	21
■腰折れ部・しころ部	22
9.特殊工事（オプション）	
■廻し棟の施工	23~24
■軒先メタル〔ゼロ〕の施工・デルタボードの施工	25
■カレッセ換気棟の施工	26
10.積雪地工法	
■雪止め金具の施工・谷部補強	27
■隅棟部補強・陸棟部補強	27
11.鉄骨造（硬質木片セメント板）仕様	29
12.鉄筋コンクリート造仕様	30
13.カバールーフ	
■事前調査・既存棟包み撤去	31
■軒先メタルの施工・防水シートの施工	32
■流れ壁際部の施工・平行壁際部の施工	33
■シングル・瓦棒	34
14.補修方法	
■補修塗料の使用方法・取扱上のご注意・本体がダメージを受けた場合の補修方法	35
15.使用上の注意点	
■養生・安全作業心得・使用不可能地域	36

1. 製品について

■製品の特長

自然災害に強い

●耐震性

何といっても躯体にやさしい、超軽量（日本瓦の約1/10）。しかも普通の瓦のような一枚一枚重ねる構造ではなく、屋根全体が面となり、ずれない、落ちない構造をもっています。

●耐風・防水性

毎年必ずやってくる台風。この激しい風と雨に耐えてこそ、本当に強い屋根材といえるのです。カレッセは、本体どうしをかみ合わせる確実なロック機構を採用、強風で軒先部がめくれたり、雨水が侵入する心配がほとんどなく、台風にも高いレベルで耐えることができます。

金属の短所を解消した、快適屋根材

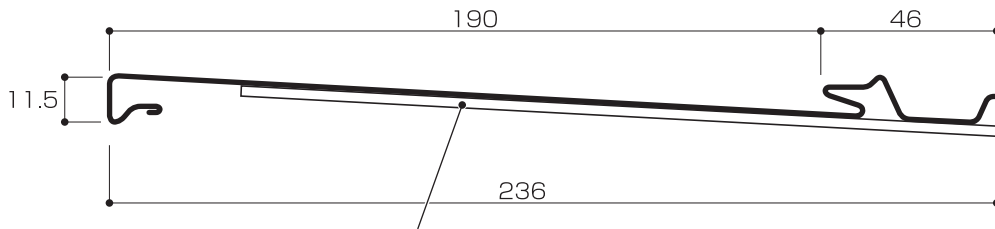
●防音・断熱性

本体の裏面に取り付けた耐熱特殊シートが、すぐれた防音・断熱性能を発揮します。

●防火性

ずれない、落ちない超軽量面構造のカレッセは、完全不燃ですから燃えることはありません。地震後の火災にも、火の粉の飛散にもより安心です。

■本体のディテール



耐熱特殊シート
(耐熱温度約140℃・熱伝導率0.0328kcal/mh℃)

■本体の特性

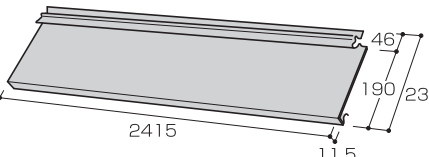
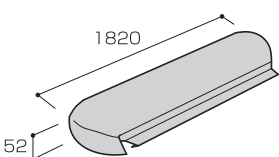
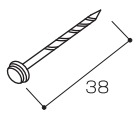
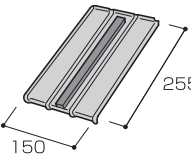
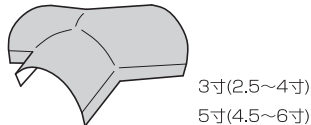
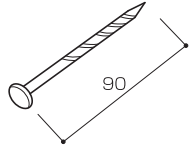
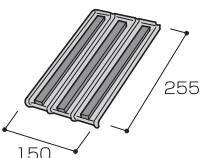
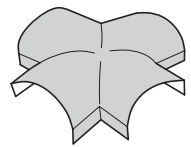
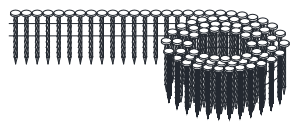
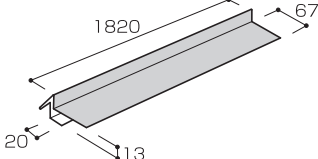
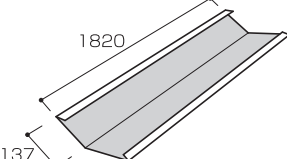
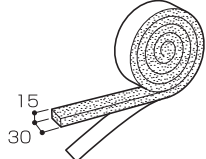
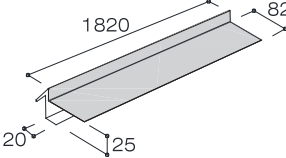
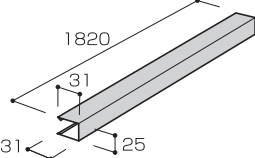
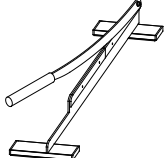
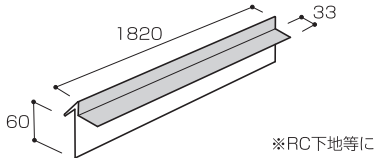
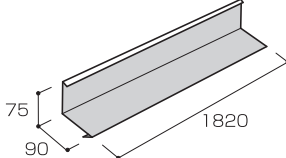
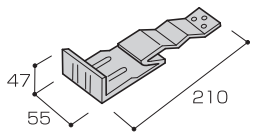
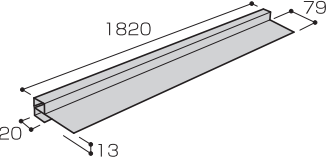
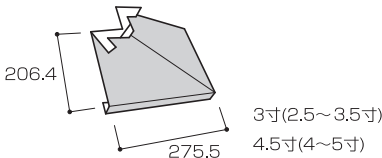
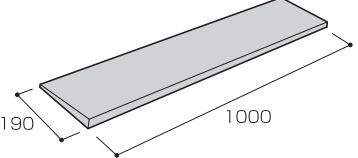
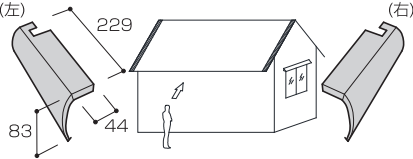
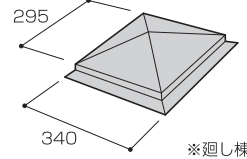
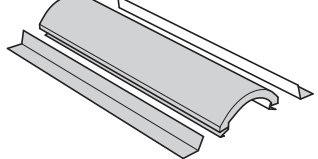
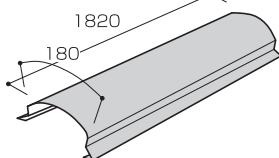
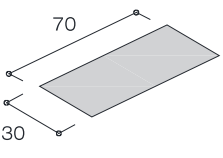
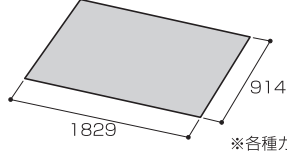
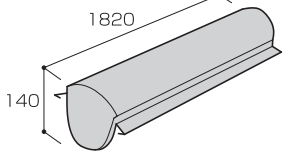
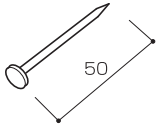

	カレッセS遮熱	カレッセTF遮熱plus
基材	ガルバリウム鋼板	
塗膜仕様	(ブラック・ブラウン・グリーン) 遮熱顔料・特殊骨材・ポリエステル樹脂 ※いぶし・遮熱顔料・ガラス繊維・ポリエステル樹脂	遮熱顔料・ガラス繊維強化フッ素樹脂
塗膜厚	18~24μ	30μ
平均板厚	0.35mm	0.4mm
働き寸法	タテ190mm ヨコ2,400mm	
m ² 当たりの必要枚数	2.2枚/m ²	
1枚当たりの重量	2.2kg/枚	2.54kg/枚
m ² 当たりの重量	4.84kg/m ²	5.59kg/m ²
屋根勾配	2.5寸以上	

■テクニカル・データ

	カレッセS遮熱	カレッセTF遮熱plus
防火性	国土交通大臣認定不燃 NM-8697	
表面(鉛筆)硬度	2H~4H	6H~9H
耐食性 ※塩水噴霧試験 (JIS Z 2371) 塗膜 フクレまでの時間	平面部	10,000時間異常なし
	クロスカット部	3,000時間異常なし
	4T曲げ加工部	3,000時間異常なし
耐湿潤性 ※50℃×98%RH プリスターまでの 時間	平面部	10,000時間異常なし
	クロスカット部	
	4T曲げ加工部	

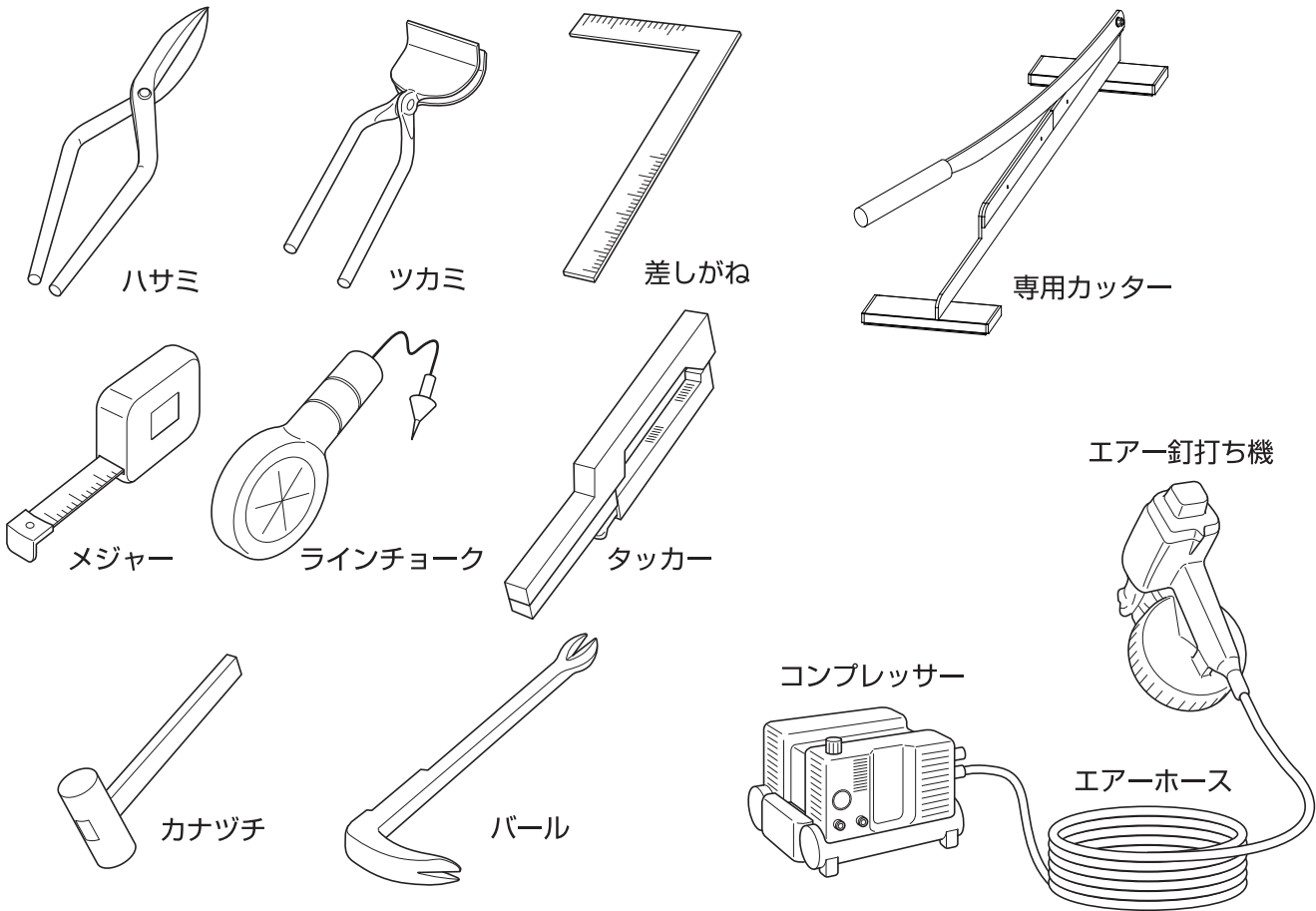
※素材鋼板メーカーの試験値であり、保証値ではありません。

2.部材一覧

<p>●本体</p> 	<p>●隅巴メタル</p> 	<p>●ステンレスカラー釘(パッキン付)</p> 
<p>●本体ジョイント</p> 	<p>●三ツ又</p> 	<p>●棟用釘</p> 
<p>●本体ジョイント(S)《オプション》</p> 	<p>●四ツ又</p> 	<p>●本体用ロール釘(L-45)メッキ処理釘</p> 
<p>●軒先メタル(コ型13)</p> 	<p>●谷メタル</p> 	<p>●棟用シーラー15×30</p> 
<p>●軒先メタル(25)《オプション》</p> 	<p>●谷コーナーメタル</p> 	<p>●専用カッター</p> 
<p>●軒先メタル(60)</p> 	<p>●壁際メタル</p> 	<p>●カラー雪止め金具</p> 
<p>●軒先メタル(ゼロ)《オプション》</p> 	<p>●廻し棟《オプション》</p> 	<p>●デルタボード《オプション》</p> 
<p>●ケラバメタル</p> 	<p>●四ツ又メタル《オプション》</p> 	<p>●換気棟《オプション》</p> 
<p>●棟メタル</p> 	<p>●板金片(30×70)(ルーフィング押え用)</p> 	<p>●3×6原板</p> 
<p>●丸巴メタル</p> 	<p>●本体釘 (焼入釘)</p> 	<p>●補修塗料</p> 

3. 施工道具・施工材料

■施工道具



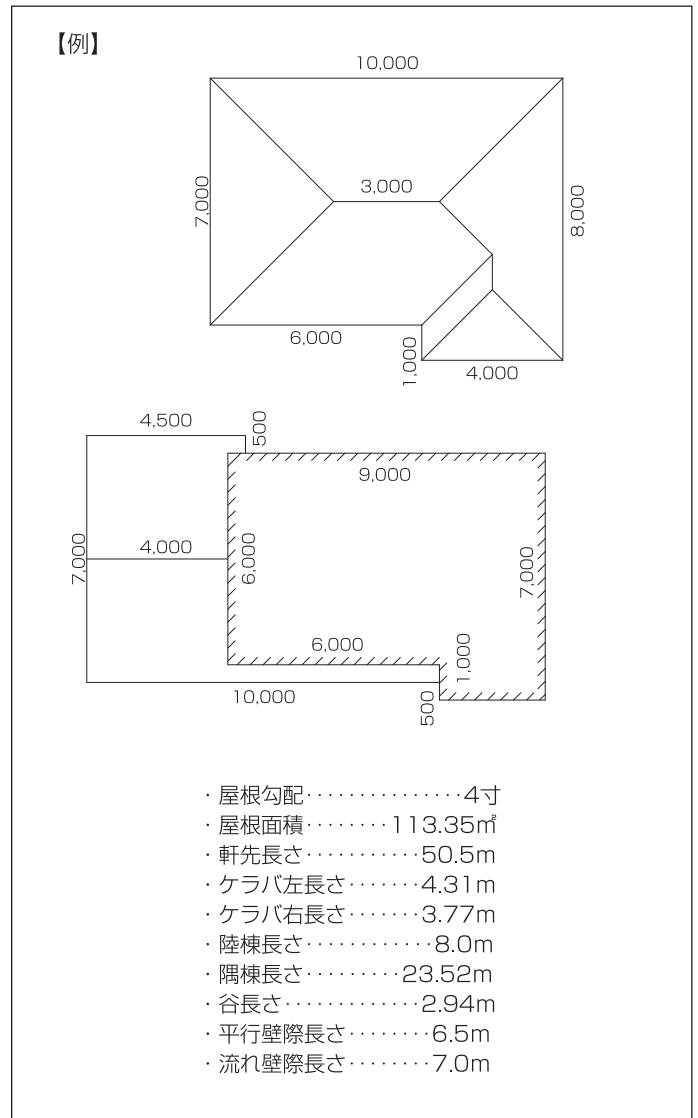
■施工材料

	材 料	必 要 単 位	規 格	
太 平 産 業 出 荷	本体	2.2枚/m ²	カレッセS遮熱 (高耐候性カラーGL鋼板 厚み0.35)	
	本体ジョイント・本体ジョイント(S)	2枚/m ²		
	軒先メタル (コ型13・60・ゼロ)	0.57枚/m		
	ケラバメタル (左) (右)	5.26枚/m		
	棟メタル	0.57枚/陸隅棟m-丸隅巴		
	廻し棟	3.8枚/隅棟m		
	丸巴メタル	1枚/箇所		
	隅巴メタル	1枚/箇所		
	壁際メタル	0.57枚/平行流れ壁m		
	谷メタル	0.57枚/m		
	谷コーナーメタル	1.14枚/m		
	三ツ又	1枚/箇所	カレッセTF 遮熱plus (タイムフロンGL鋼板 厚み0.4)	
	四ツ又	1枚/箇所		
	カラー雪止め金具 (ブラック・ブラウン・グリーン)			ステンレス
	デルタボード	5.3枚/m ²		発泡ポリスチレンフォーム
棟用シーラー15×30×2000		発泡弾性シーリング材 10巻/箱		
ステンレスカラー釘 (パッキン付)		ステンレス (ブラック) 100本/袋		
棟用釘	4.4本/陸隅棟m	ユニクロメートメッキ 100本/袋		
本体釘	15本/m ²	コンクリート焼入釘 400本/袋		
現 場 調 達	防水シート		アスファルトルーフィング 940以上	
	コーキング		シリコン系 (ブラック・クリア)	
	笠木	2m/陸隅棟m	30mm×40mm	
	ロール釘L-45	15本/m ²	メッキ処理釘 ※P-9参照	

4. 積算方法 (小数点以下は、すべて切り上げ)

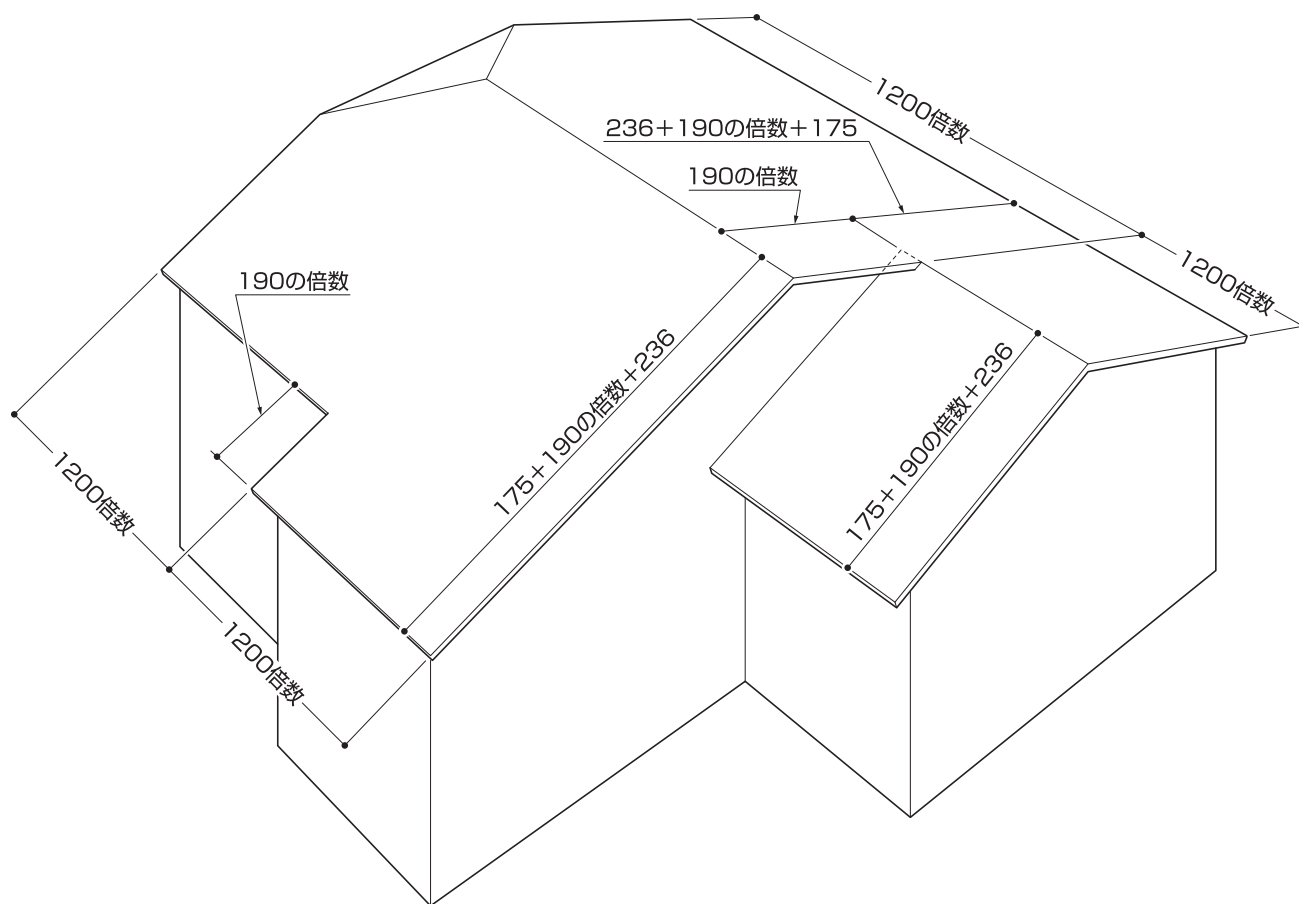
※ 計算式の下段は、右図の屋根を使った計算です。(数量についての口は、含んでおりません。)

- 本体の計算
 屋根面積×必要単位=数量
 $113.35\text{m}^2 \times 2.2\text{枚}/\text{m}^2 = 249.37$ 250枚
- 本体ジョイントの計算
 屋根面積×必要単位=数量
 $113.35\text{m}^2 \times 2\text{枚}/\text{m}^2 = 226.7$ 227枚
- 軒先メタルの計算(コ型13・60・ゼロ)
 軒先長さ×必要単位=数量
 $50.5\text{m} \times 0.57\text{枚}/\text{m} = 28.79$ 29枚
- ケラバメタル(左)(右)の計算
 ケラバ長さ(左右)×必要単位=数量
 (左) $4.31\text{m} \times 5.26\text{枚}/\text{m} = 22.67$ 23枚
 (右) $3.77\text{m} \times 5.26\text{枚}/\text{m} = 19.83$ 20枚
- 丸バメタル, 隅バメタル, 三ツ又, 四ツ又の計算
 必要箇所=枚数
 丸バメタル 1枚, 隅バメタル 5枚, 三ツ又 3枚
- 棟メタルの計算
 (陸棟長さ+隅棟長さ)×必要単位
 -(丸バメタル+隅バメタル枚数)=数量
 $(8.0\text{m} + 23.52\text{m}) \times 0.57\text{枚}/\text{m}$
 -(1本+5本)=11.97 12枚
- 谷メタルの計算
 谷長さ×必要単位=数量
 $2.94\text{m} \times 0.57\text{枚}/\text{m} = 1.68$ 2枚
- 谷コーナーメタルの計算
 谷長さ×必要単位=数量
 $2.94\text{m} \times 1.14\text{枚}/\text{m} = 3.35$ 4枚
- 壁際メタルの計算
 (平行壁際長さ+流れ壁際長さ)×必要単位=数量
 $(6.5\text{m} + 7.0\text{m}) \times 0.57\text{枚}/\text{m} = 7.7$ 8枚
- 本体釘の計算
 屋根面積×必要単位÷梱包単位=数量
 $113.35\text{m}^2 \times 15\text{本}/\text{m}^2 \div 400\text{本}/\text{袋} = 4.25$ 5袋
- 棟用釘の計算
 (陸棟長さ+隅棟長さ)×必要単位÷梱包単位=数量
 $(8.0\text{m} + 23.52\text{m}) \times 4.4\text{本}/\text{m} \div 100\text{本}/\text{袋} = 1.39$ 2袋
- ステンレスカラー釘の計算
 {(陸棟長さ+隅棟長さ)×2+(平行壁際長さ+流れ壁際長さ)}×必要単位÷梱包単位=数量
 $\{(8.0\text{m} + 23.52\text{m}) \times 2 + (6.5\text{m} + 7.0\text{m})\} \times 3.3\text{本}/\text{m} \div 100\text{本}/\text{袋} = 2.53$ 3袋
- 棟用シーラーの計算
 {(陸棟長さ+隅棟長さ)×2+平行壁際長さ+谷長さ}×必要単位÷梱包単位=数量
 $\{(8.0\text{m} + 23.52\text{m}) \times 2 + 6.5\text{m} + 2.94\text{m}\} \times 0.5\text{巻}/\text{m} \div 10\text{巻}/\text{箱} = 3.62$ 4箱
- 廻し棟の計算《オプション》
 隅棟長さ×必要単位=数量
 $23.52\text{m} \times 3.8\text{枚}/\text{m} = 89.38$ 90枚
- 本体ジョイント(S)の計算《オプション》※廻し棟仕様の場合
 {屋根面積-(廻し棟数量×0.04 m²/枚)}×必要単位+(廻し棟数量×必要単位)=数量
 $\{113.35\text{m}^2 - (90\text{枚} \times 0.04\text{m}^2/\text{枚})\} \times 2\text{枚}/\text{m}^2 + (90\text{枚} \times 2) = 399.5$ 400枚
- デルタボードの計算《オプション》
 屋根面積×必要単位=数量
 $113.35\text{m}^2 \times 5.3\text{枚}/\text{m}^2 = 601.76$ 601枚



5. 下地について

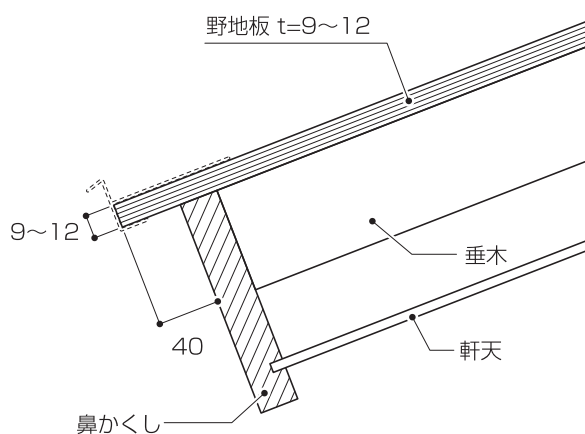
■野地の割り付け



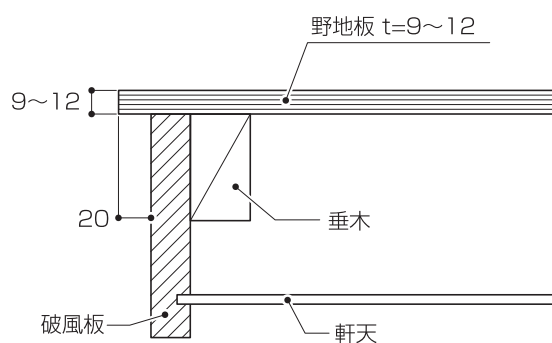
- 桁行寸法は1200mmの倍数で屋根寸法を決めてください。（野地板外々寸法）
- 流れ寸法は自由ですが、175mm+190mmの倍数+236mmで屋根寸法を決めてください。
- 葺き降ろし部は必ず190mmの倍数にしてください。
- 野地板厚み9~12mmで丈夫で良質なものを使用してください。

■下地の仕様

軒先部

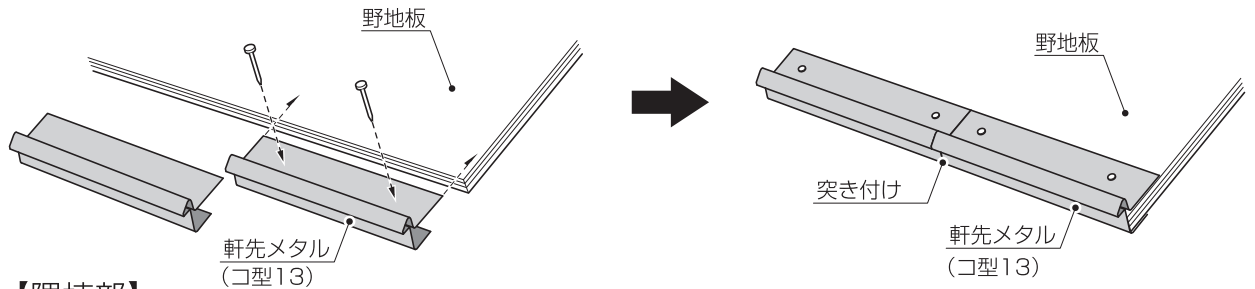


ケラバ部

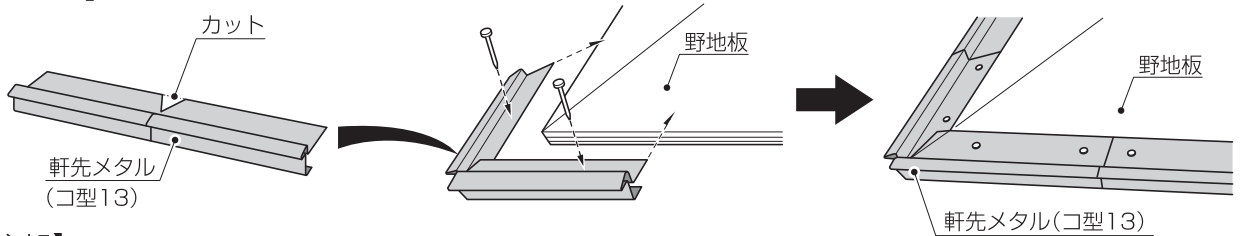


6. 軒先・谷メタル及び防水シートの施工

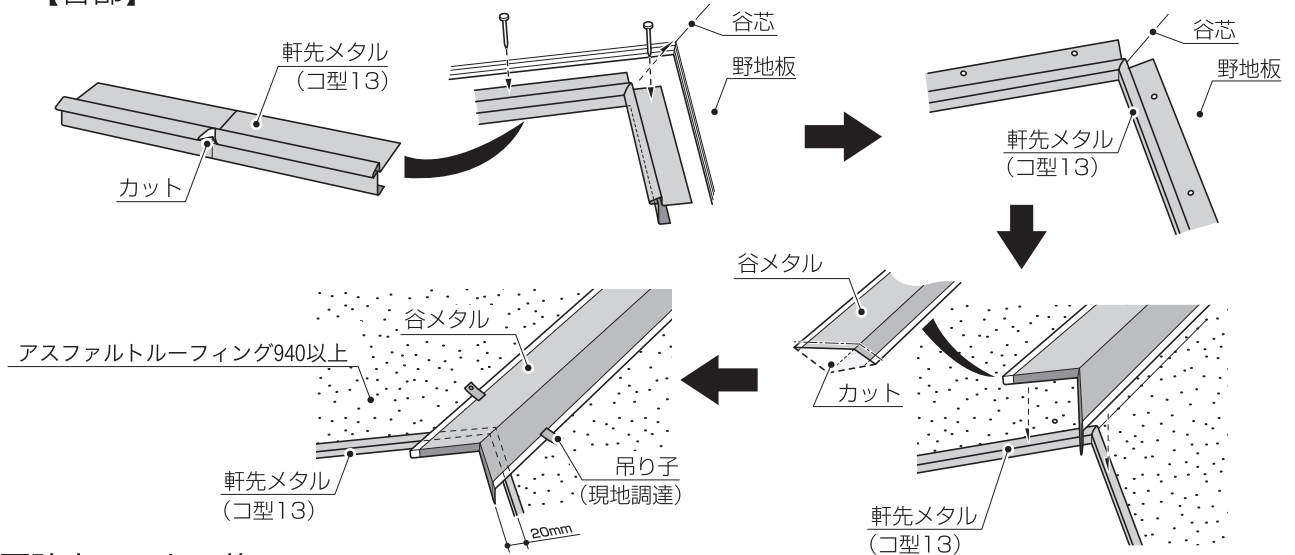
■軒先メタル・谷メタルの取付



【隅棟部】

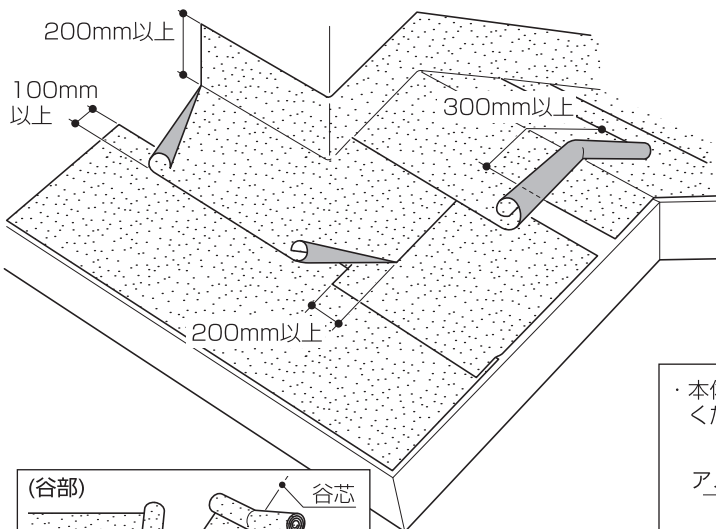


【谷部】

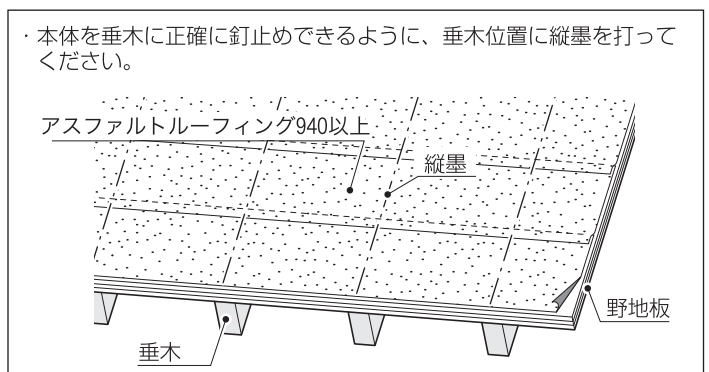
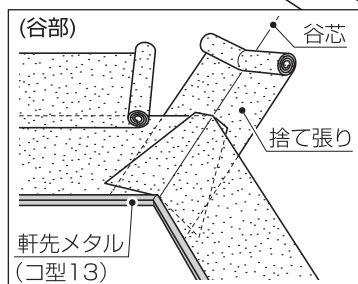


■防水シートの施工

- アスファルトルーフィング940以上を桁行方向に平行に張ってください。

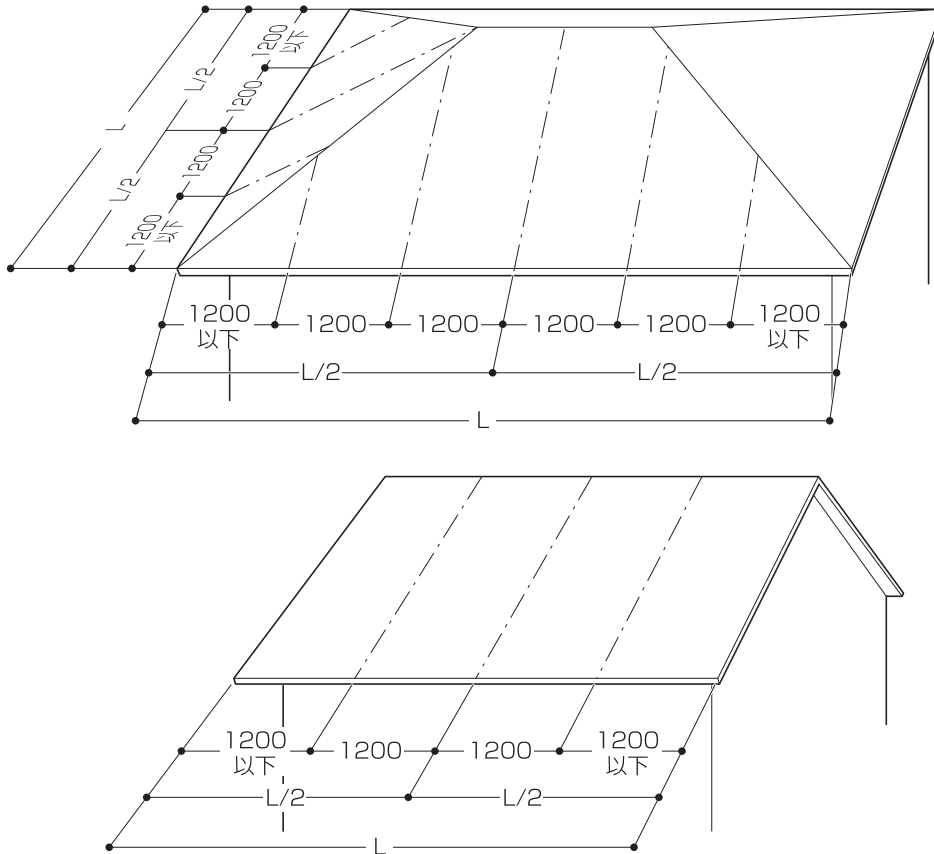


- ・ 以下のような要領で重ねてください。
- ・ 流れ方向 100mm以上
- ・ 桁行方向 200mm以上
- ・ 棟部 300mm以上
- ・ 壁際部では、200mm以上立ち上げてください。
- ・ 谷部では捨て張りをしてください。



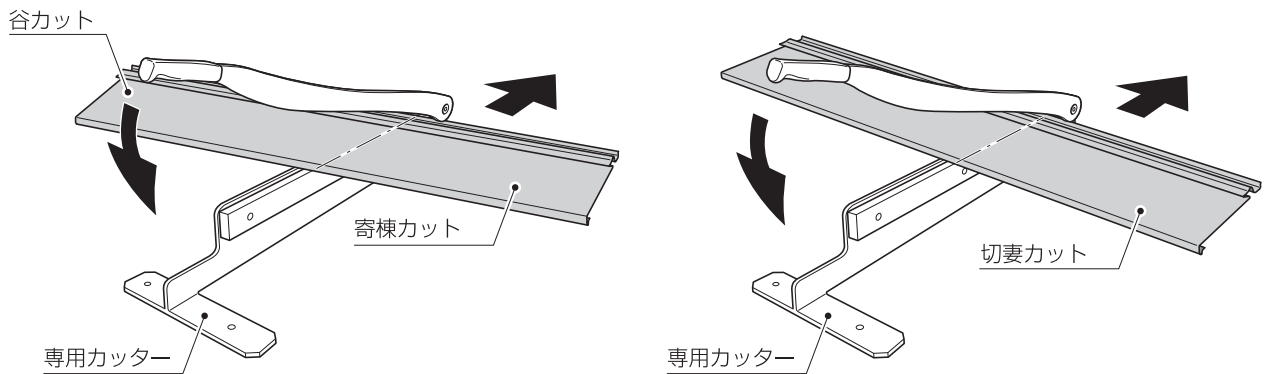
7. 本体の施工

■ 割り付け

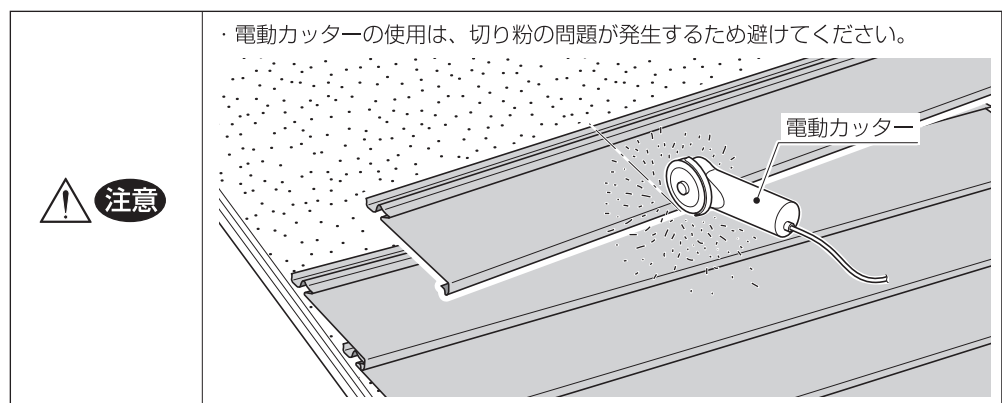


- 屋根面の桁行方向を中央で割り、両側に1200mm間隔で縦墨を打ち、割り付けを行ってください。
- 本体をこの墨に合わせ、1200mmの千鳥葺きを行ってください。

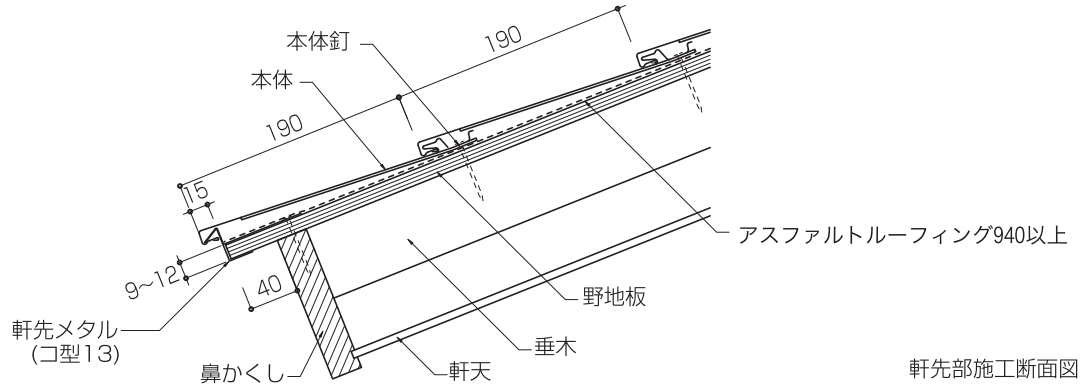
■ 専用カッターの使用方法



- 本体を切断位置に合わせ、前へずらしながらカットしてください。

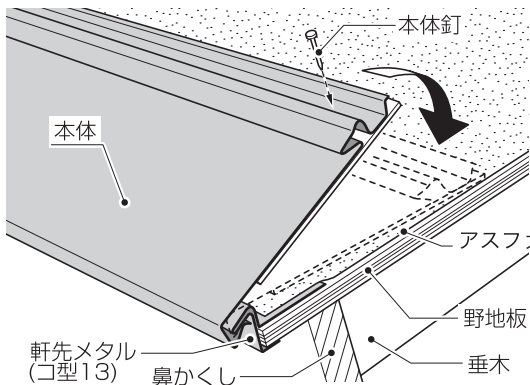


■本体の施工



軒先部施工断面図

【1段目】



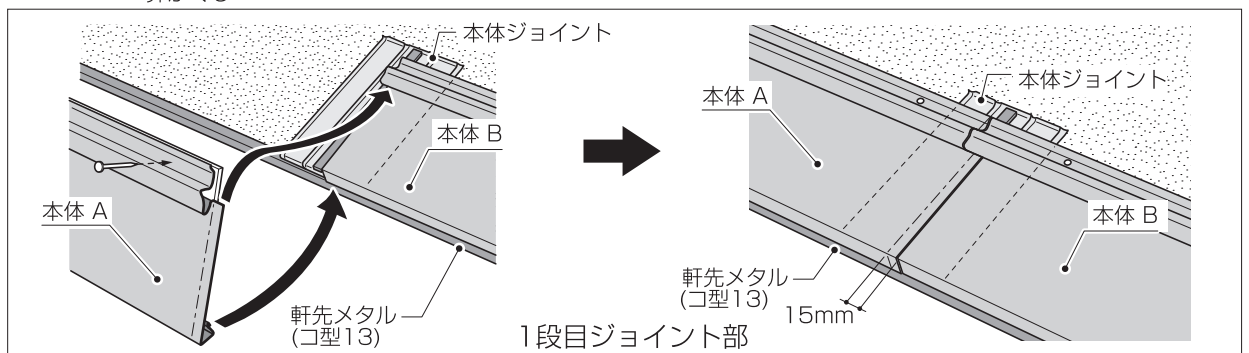
●1段目の本体は、軒先メタルにはめ込み、垂木位置に本体釘にて固定してください。

●本体同志をラップさせる部分には、本体ジョイントを軒先メタルにセットし、垂木位置に本体釘にて固定してください。



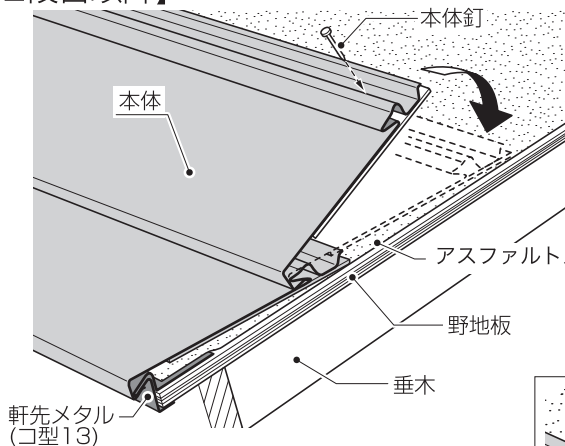
注意

本体ジョイントには、釘を打たないでください。



1段目ジョイント部

【2段目以降】



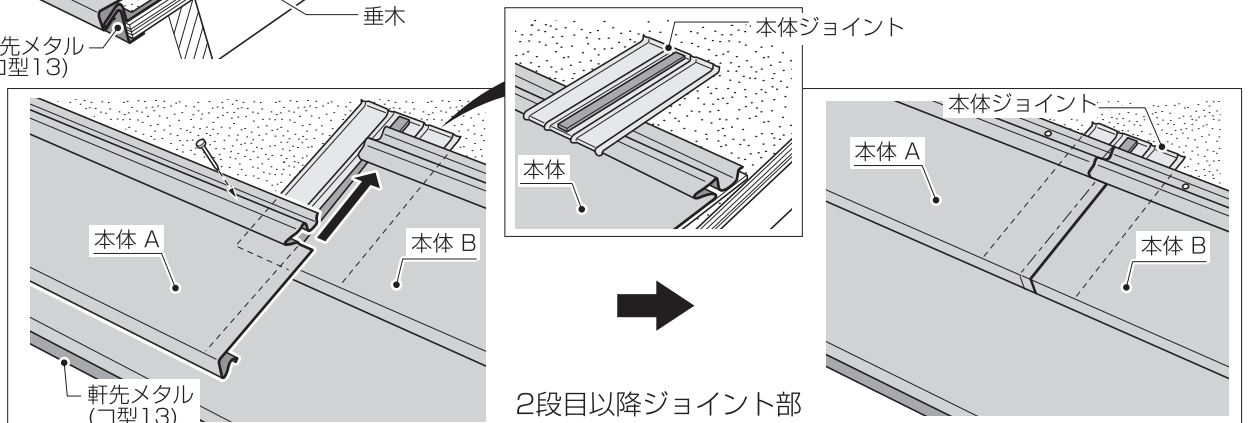
●2段目以降の本体は、本体同志をはめ込み、垂木位置に本体釘にて固定してください。

●本体同志をラップさせる部分には、本体ジョイントを本体にセットし、垂木位置に本体釘にて固定してください。



注意

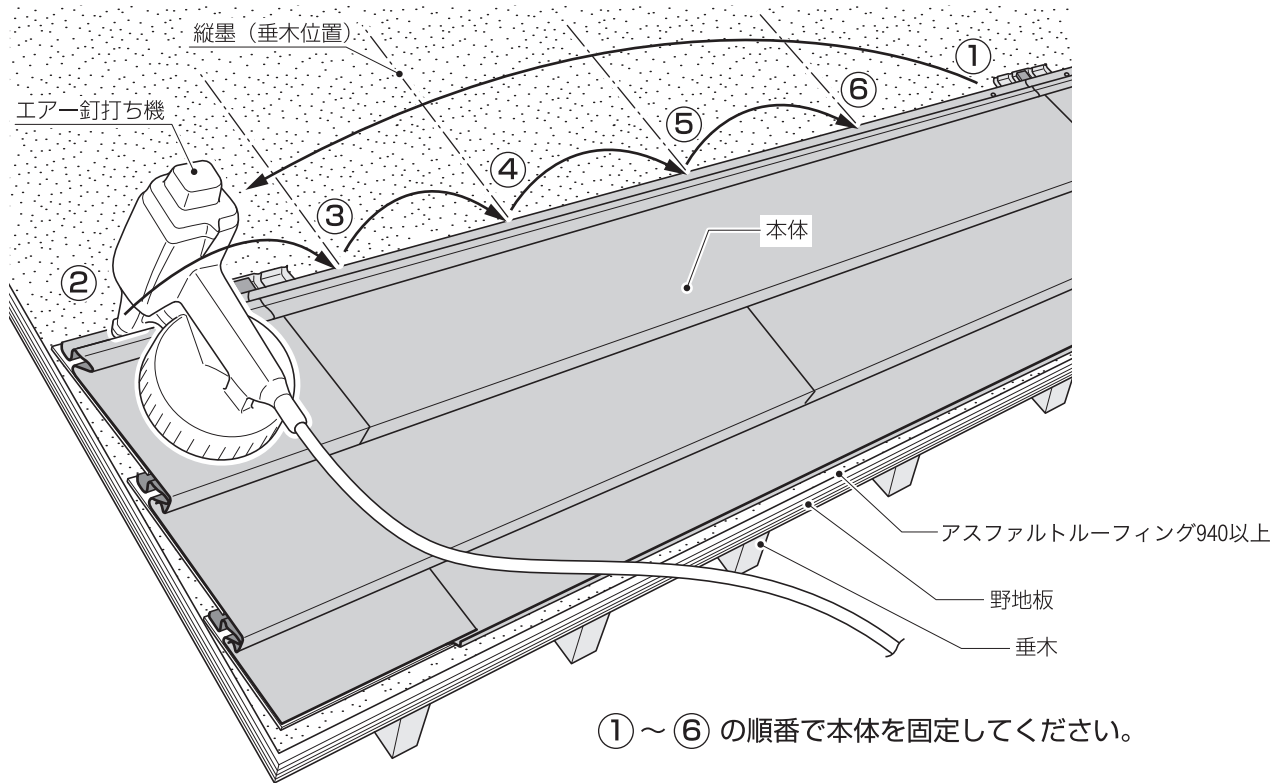
本体ジョイントには、釘を打たないでください。



2段目以降ジョイント部

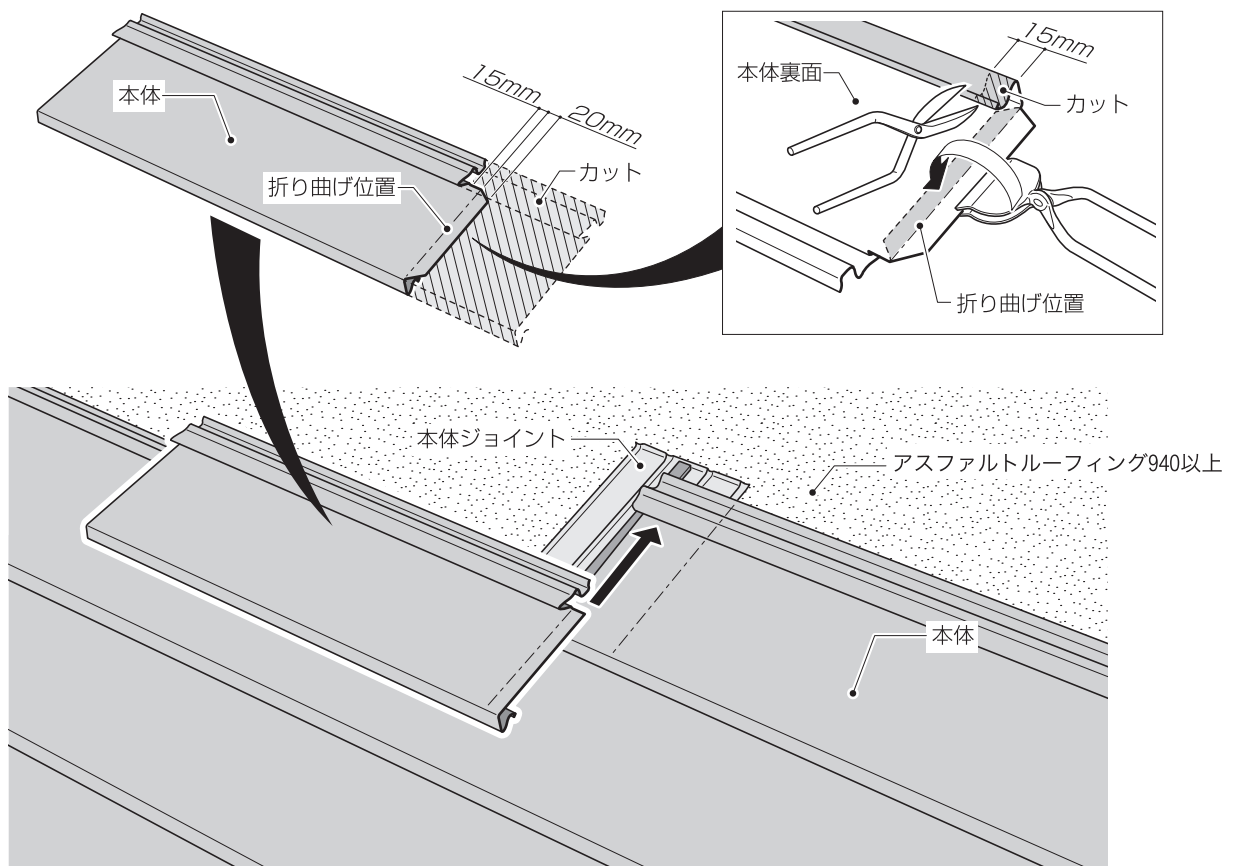
■エアー釘打ち機を使用する場合

- エアー釘打ち機を使用する場合は、垂木位置にロール釘 L-45（メッキ処理釘）にて固定してください。
※彩色石綿板へのかぶせ葺きの場合は、鋼板用釘 L-45をご使用ください。
- ※本体の両端は、中央部より上がる傾向がありますので働き寸法を確認しながら固定してください。



■本体を調整して使用する場合

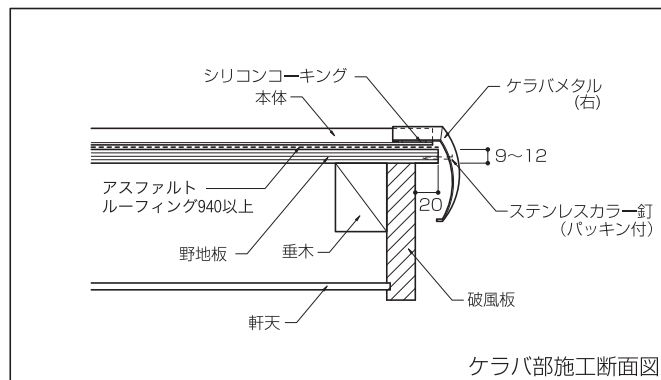
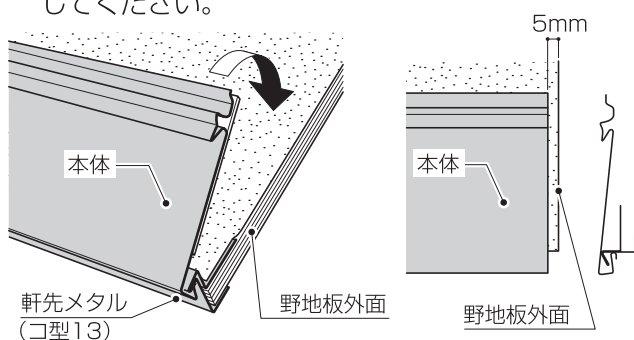
- 半端材にラップ部の加工をする場合は、必ず折り返しをもうけ段差部を15mmカットしてください。
- 裏面引っかけ部も、15mmカットしてください。



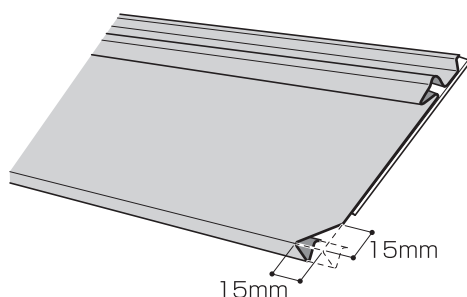
8. 各部の施工

■ケラバ部

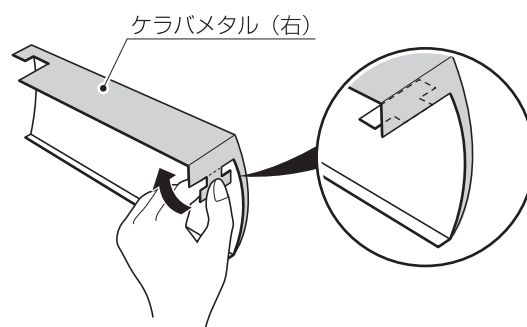
- 本体は、野地板外面より5mm程度控えた長さとしてください。



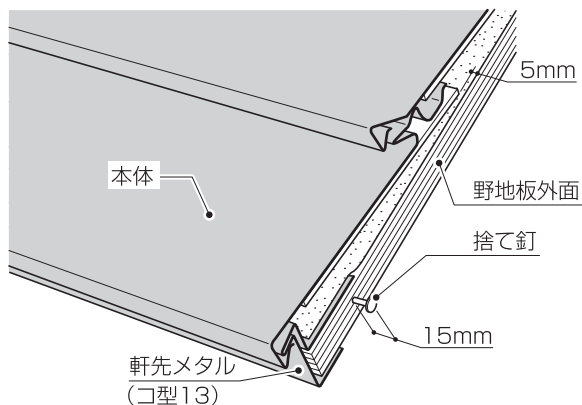
- 2段目以降の本体の鼻先部を板金バサミを使って15mm程度隔切りをしてください。



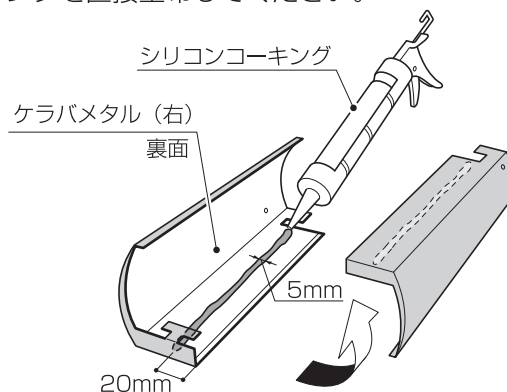
- ケラバメタルの鼻先部を折り曲げてください。



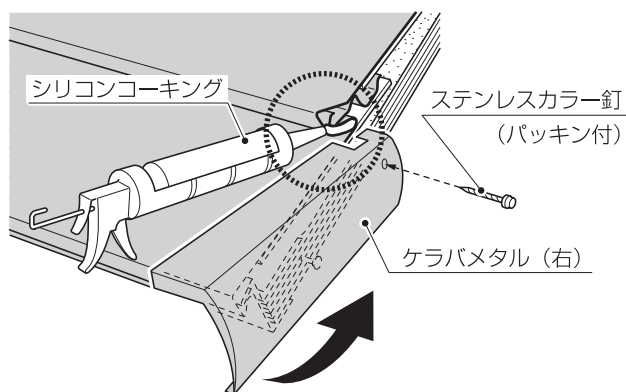
- 野地板外面より50mm入ったところで捨て釘を打ってください。



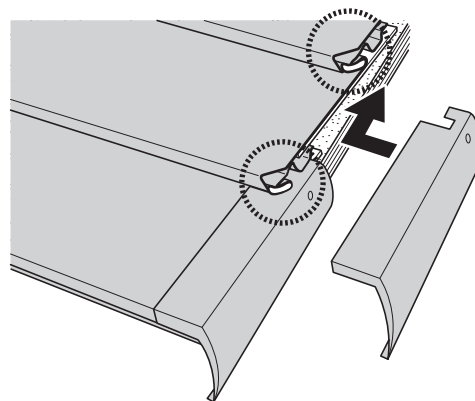
- ケラバメタルの裏面に5mm程度のシリコンコーキングを直接塗布してください。



- 本体隅切り部にもシリコンコーキングを塗布し、ケラバメタルを本体の上に差し込んで固定してください。



- 2段目以降も同様に施工してください。



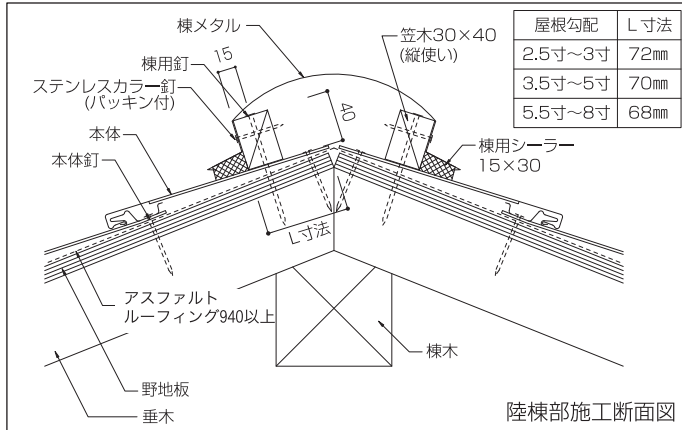
※ ☉部へコーキングを塗布することで、ケラバ部からの雨だれを防止します。



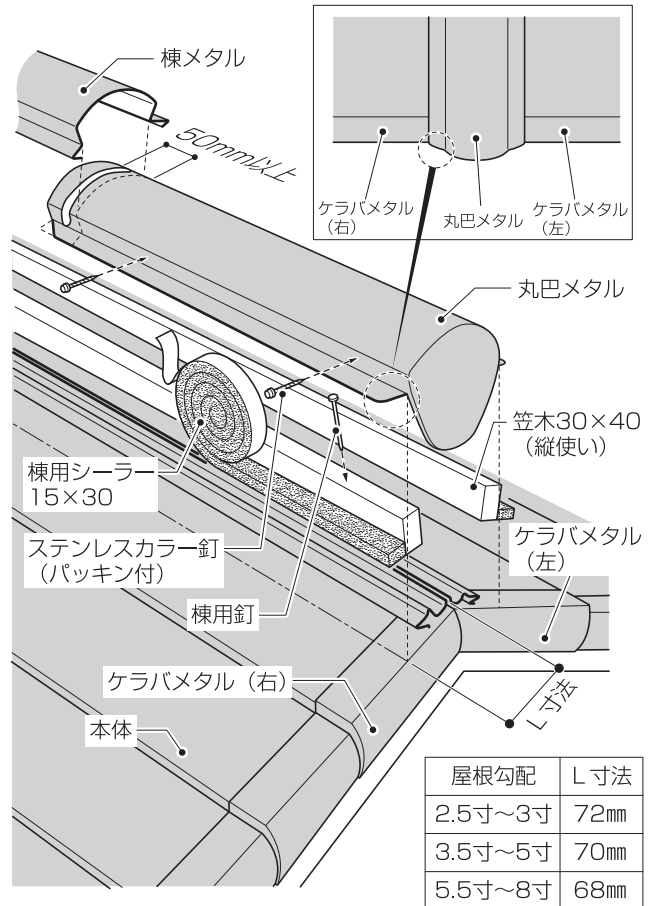
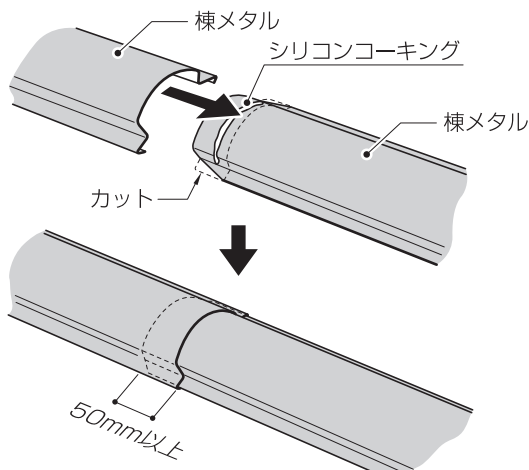
コーキングの硬化前は、ケラバメタル付近の本体を踏まなようにしてください。

■陸棟部

- 本体を棟際いっぱいまで施工してください。
- 棟芯よりL寸法の位置で墨を打ち、笠木30×40を縦使いで垂木位置に棟用釘にて固定してください。
- 笠木に沿って棟用シーラー15×30を貼ってください。
- 丸巴メタルを笠木にセットし、ステンレスカラー釘(パッキン付)にて300mmピッチで固定してください。
- 丸巴メタルのタレがケラバメタルより出る部分はカットしてください。

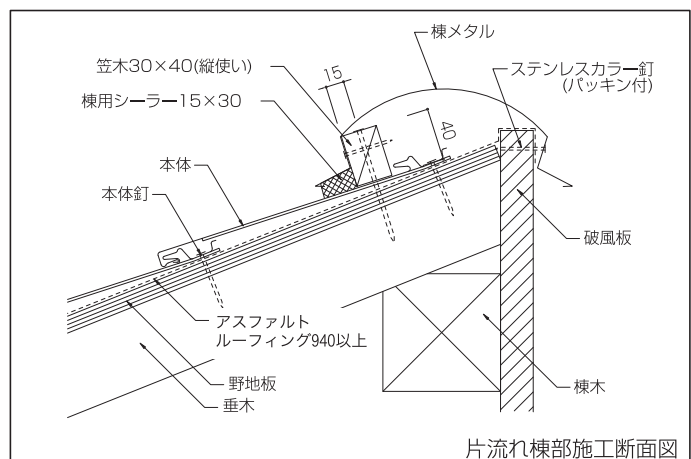
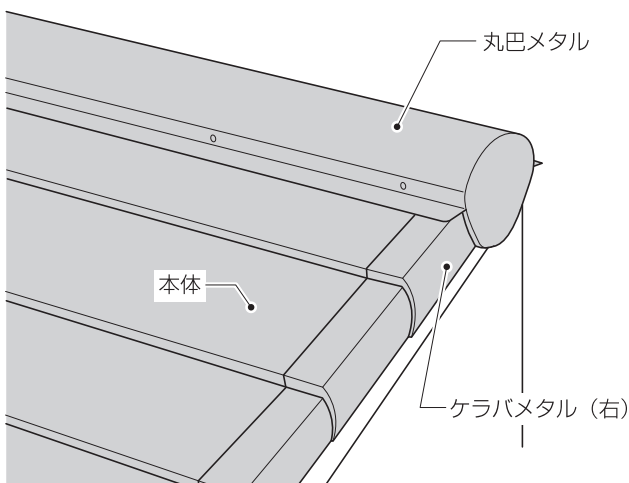


- 棟メタル(丸巴メタル)のジョイント部は、シリコンコーキングを施し50mm以上重ねてください。



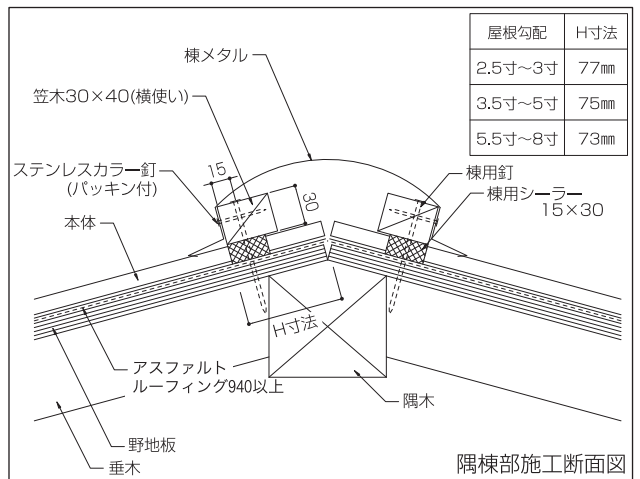
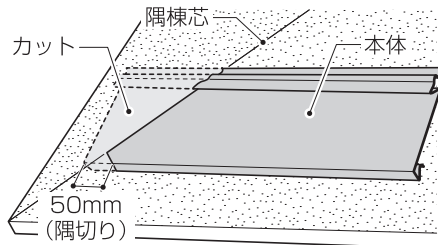
■片流れ棟部

- 陸棟部施工の手順と同様に施工してください。

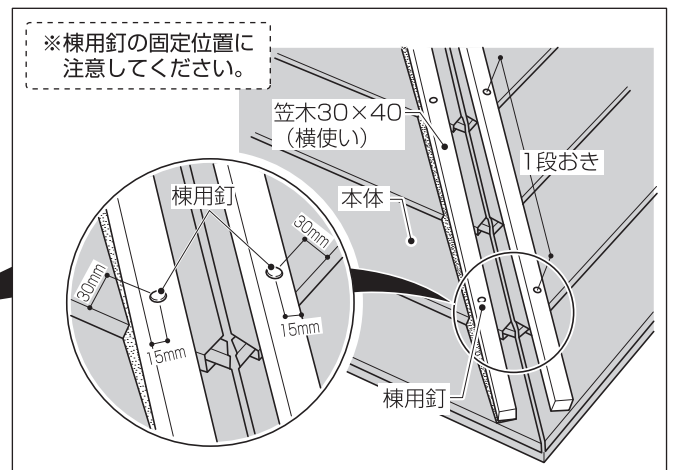
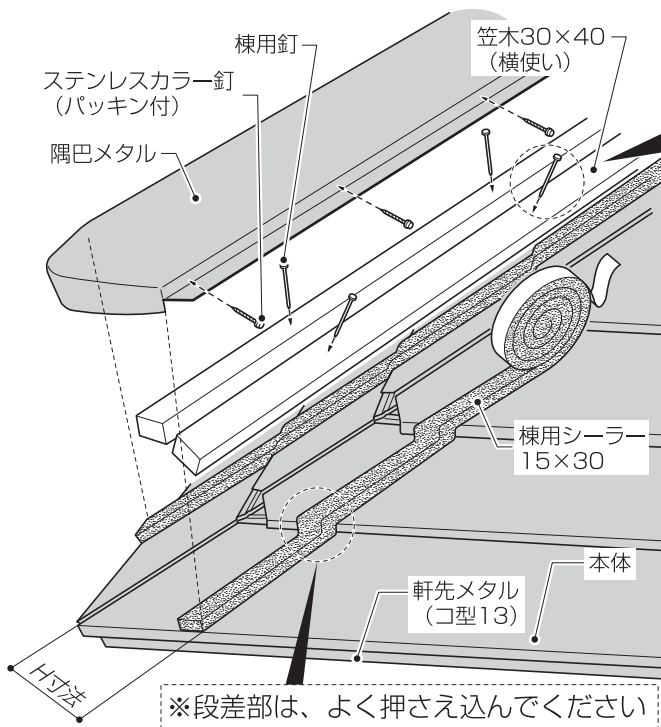


■隅棟部

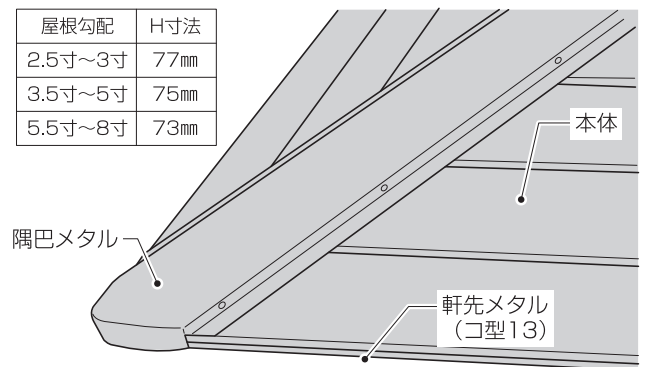
- 本体を隅棟芯に合わせカットし、隅切りをしてください。
- 隅棟芯よりH寸法の位置で墨を打ち、その墨に合わせ棟用シーラー15×30を貼ってください。
- 棟用シーラーに合わせ笠木30×40を横使いし、棟用釘にて本体1段おきに本体の釘打ち箇所へ固定してください。
- 隅巴メタルを笠木にセットし、ステンレスカラー釘（パッキン付）にて300mmピッチで固定してください。
- 棟メタル（隅巴メタル）のジョイント部は、シリコンコーキングを施し50mm以上重ねてください。



隅棟部施工断面図



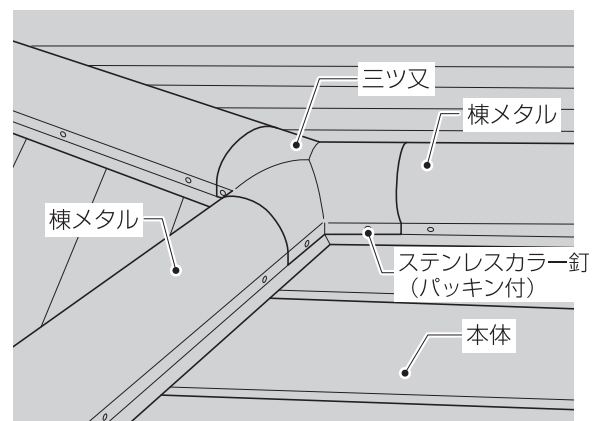
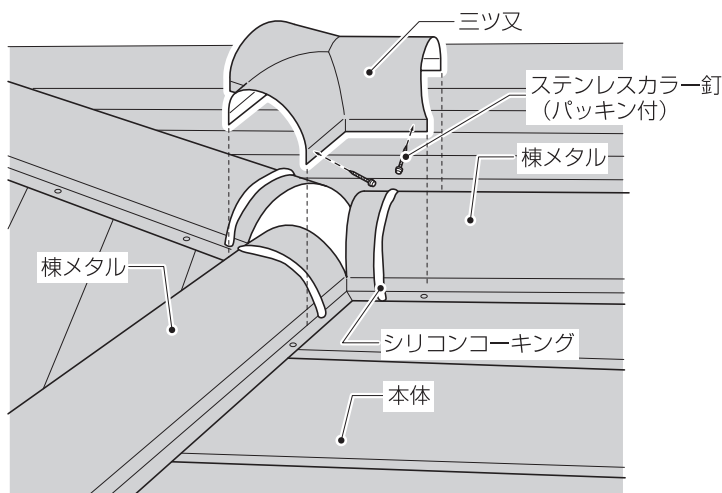
屋根勾配	H寸法
2.5寸~3寸	77mm
3.5寸~5寸	75mm
5.5寸~8寸	73mm



隅棟部 施工完成イメージ

■三ツ又部

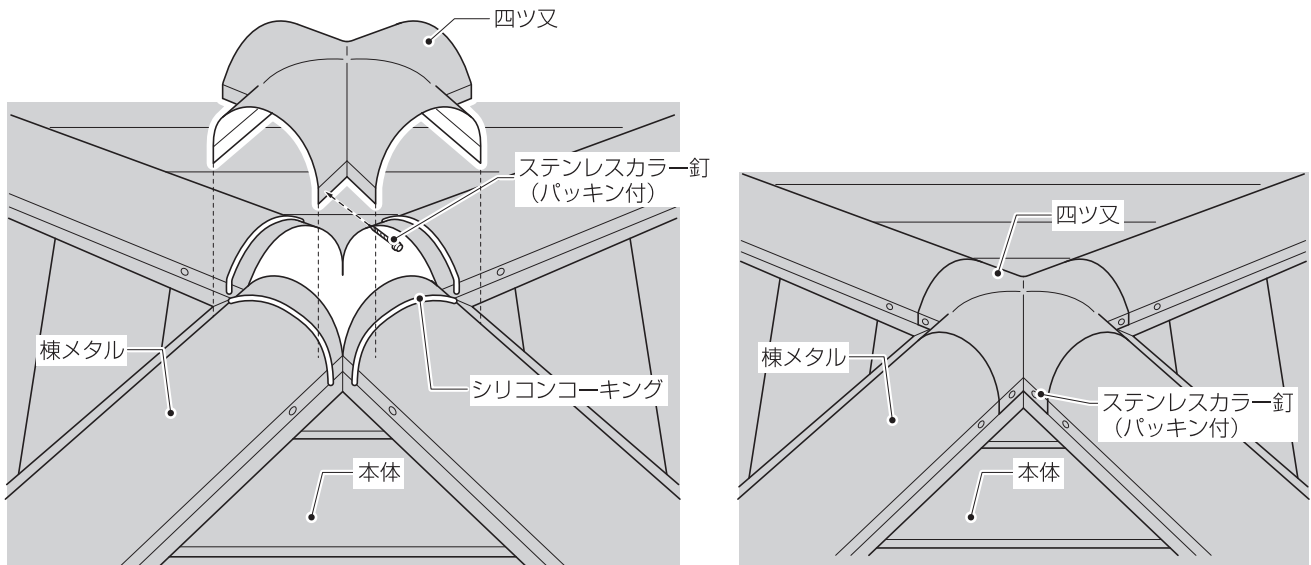
- 棟メタルにシリコンコーキングを施し三ツ又を重ね、ステンレスカラー釘（パッキン付）にて固定してください。



三ツ又部 施工完成イメージ

■四ツ又部

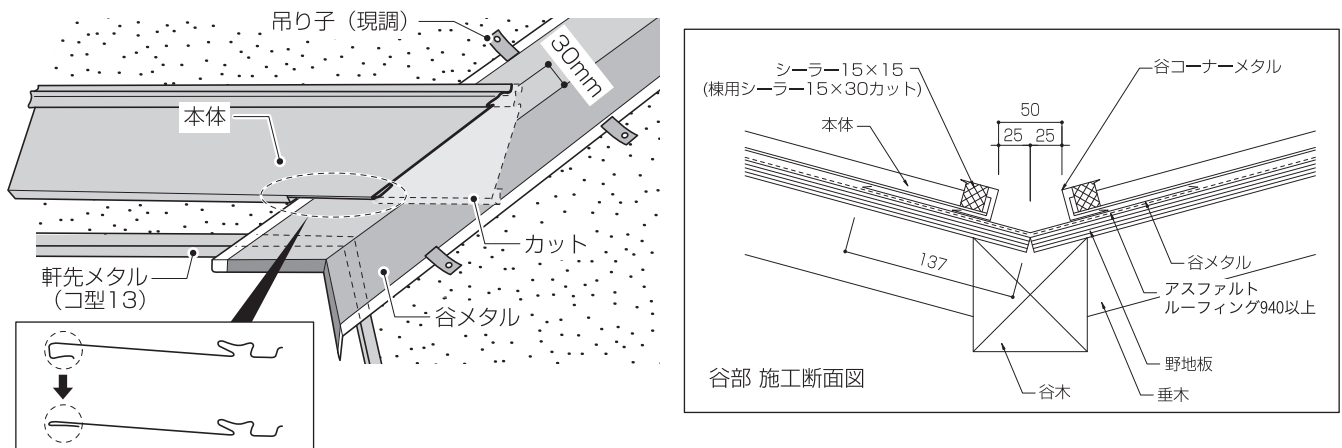
- 棟メタルにシリコンコーキングを施し四ツ又を重ね、ステンレスカラー釘（パッキン付）にて固定してください。



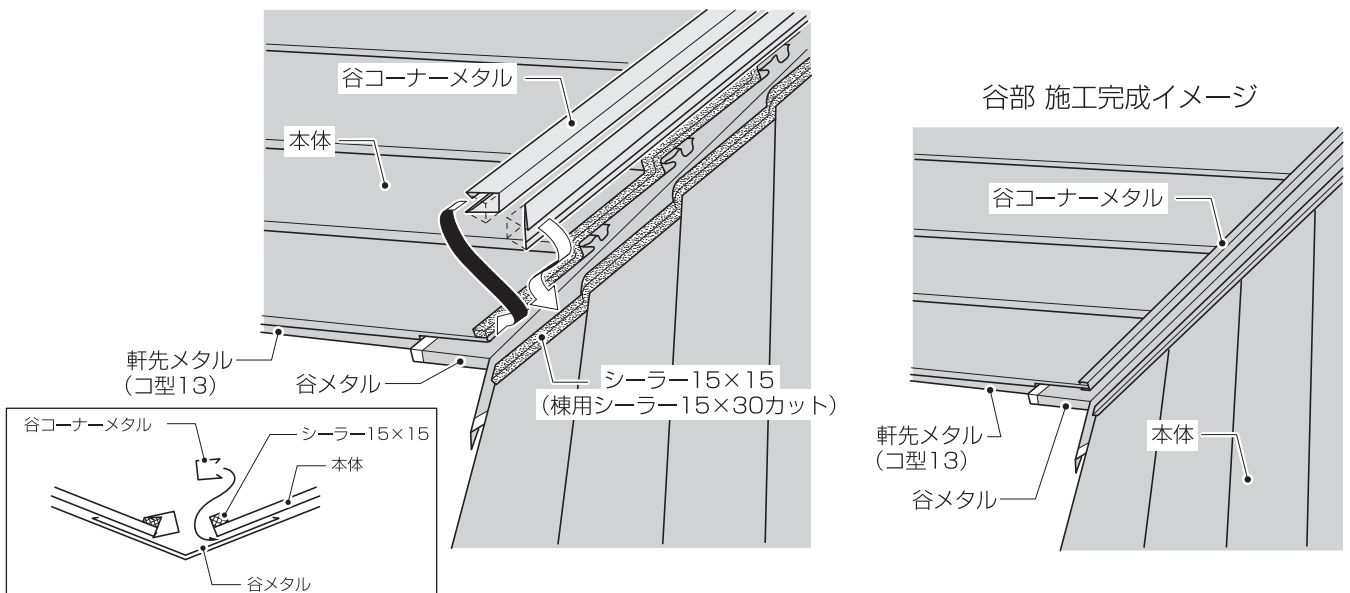
四ツ又部 施工完成イメージ

■谷部

- 本体を谷芯より30mmの所でカットし、固定してください。その際軒先1段目の小口は、谷メタル上で浮かないように切り込みを入れ、折り込んでください。

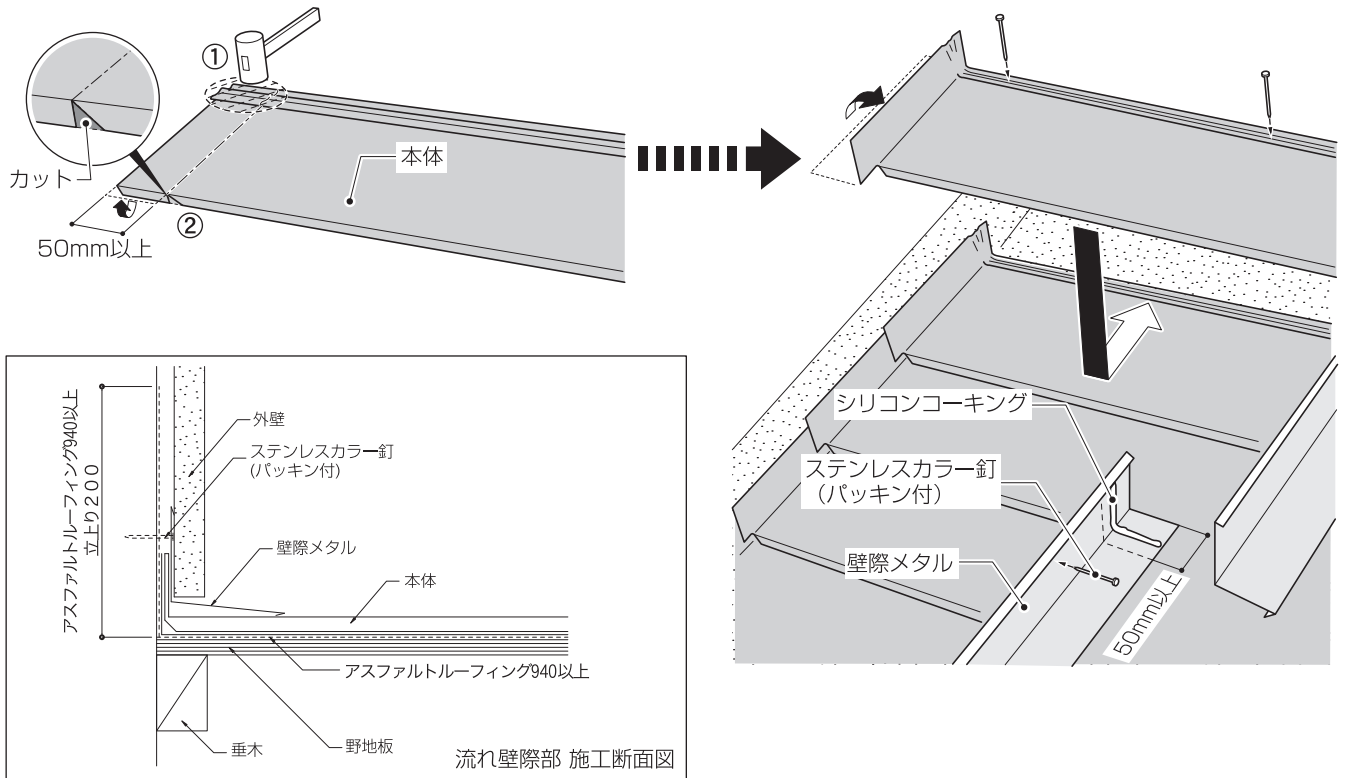


- 本体のカット小口に合わせ、シーラー15×15（棟用シーラー15×30カット）を貼りつけてください。
- 谷コーナーメタルを本体下端より差し込んで固定してください。



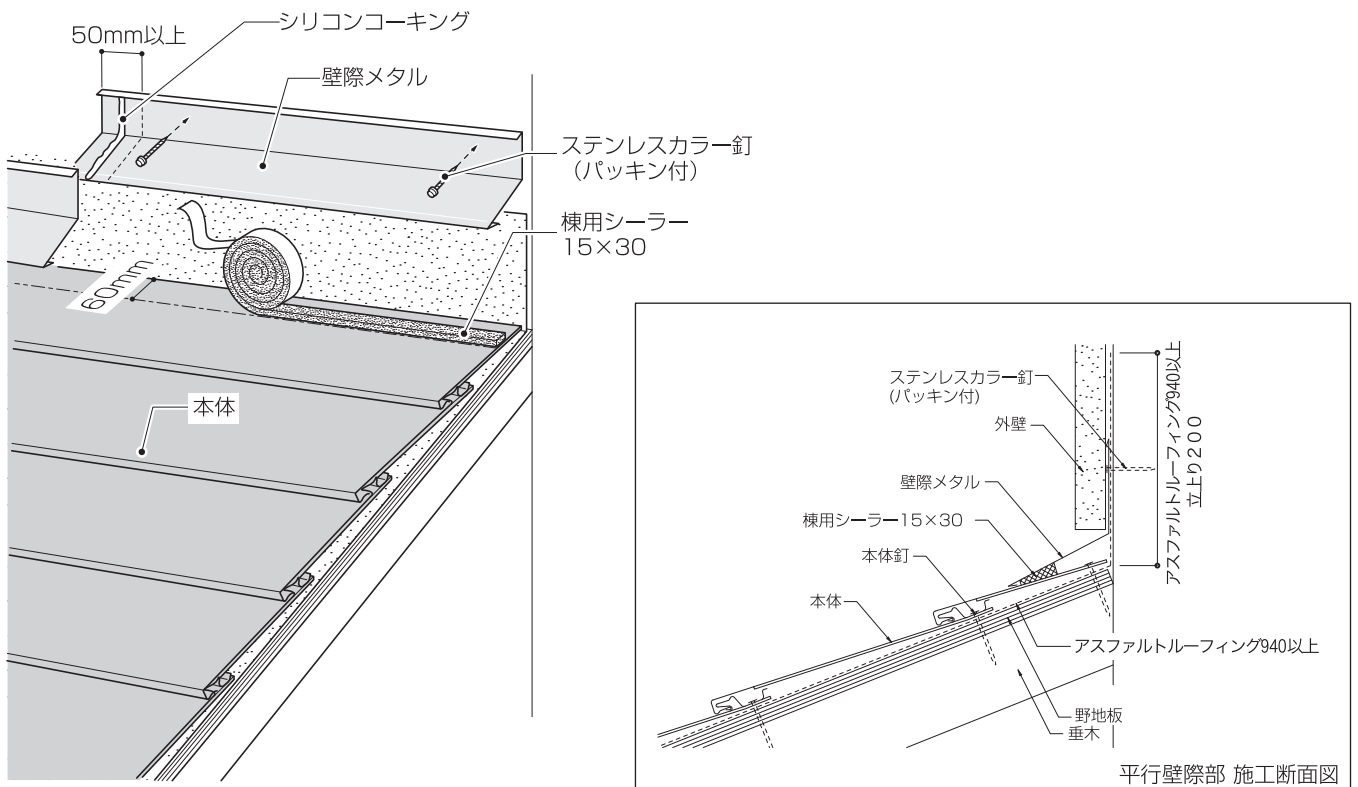
■流れ壁際部

- 本体立ち上げ部①の受け溝をつぶし、引っかけ側小口部②をカットし壁際に立ち上げて下段本体に十分はめ込み、本体釘にて固定してください。
- 壁際メタルをステンレスカラー釘（パッキン付）にて固定してください。

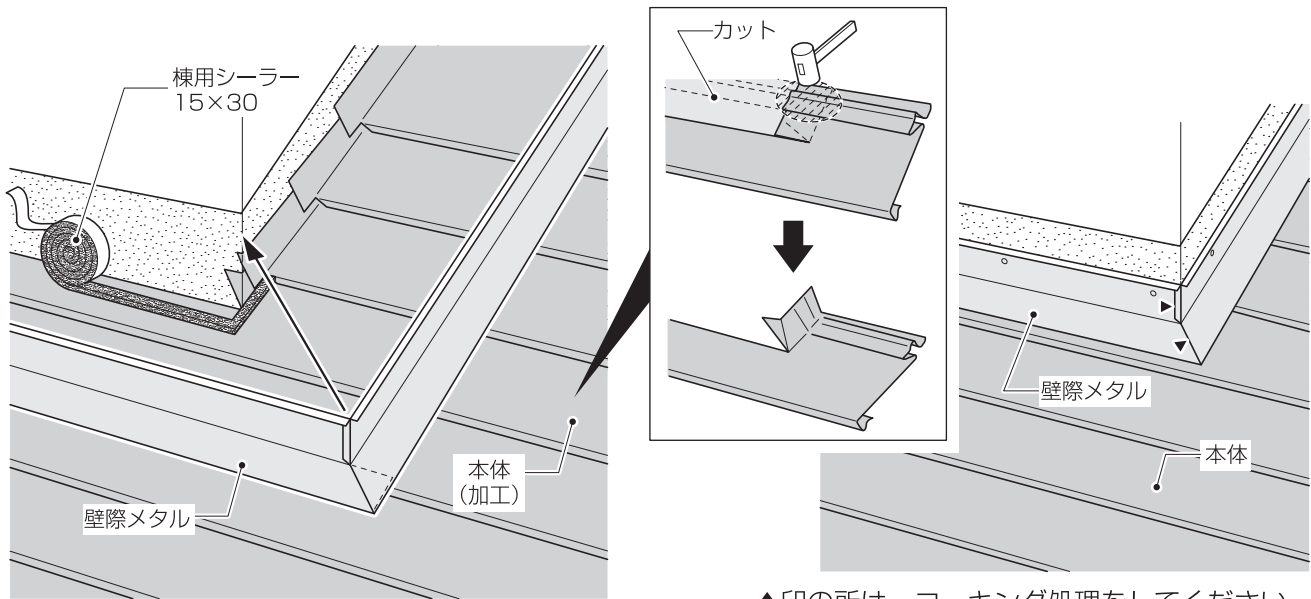


■平行壁際部

- 本体を壁際いっぱいまで施工してください、このとき割り付けが合わない場合は、本体をカットしてください。
- 壁際より60mmの位置で墨を打ち、棟用シーラー15×30を貼りつけてください。
- 壁際メタルをステンレスカラー釘（パッキン付）にて固定してください。

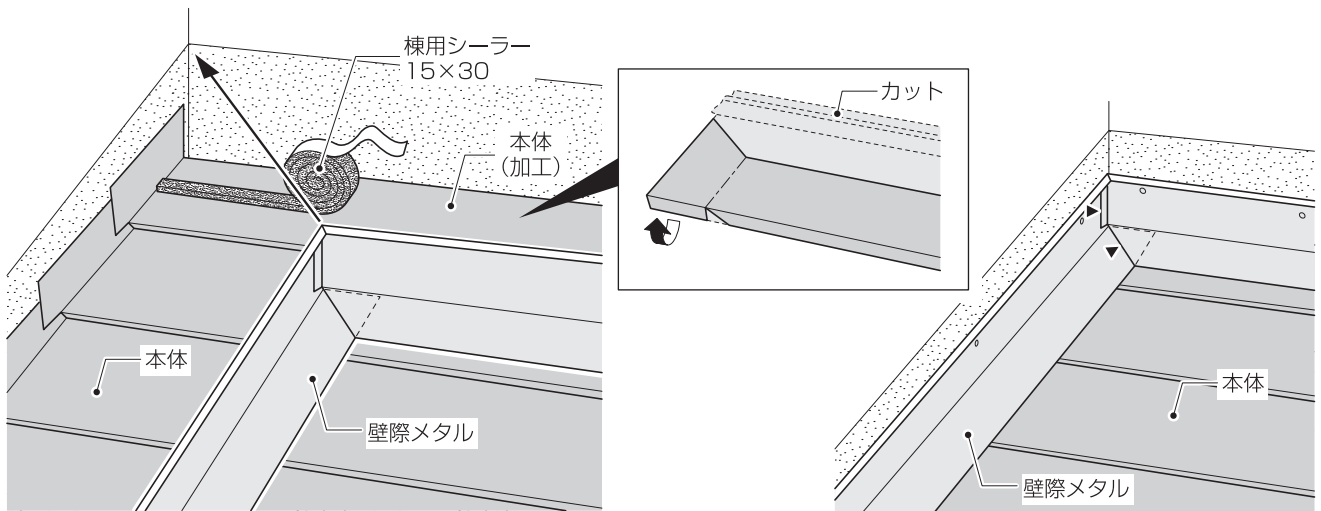


■出隅部



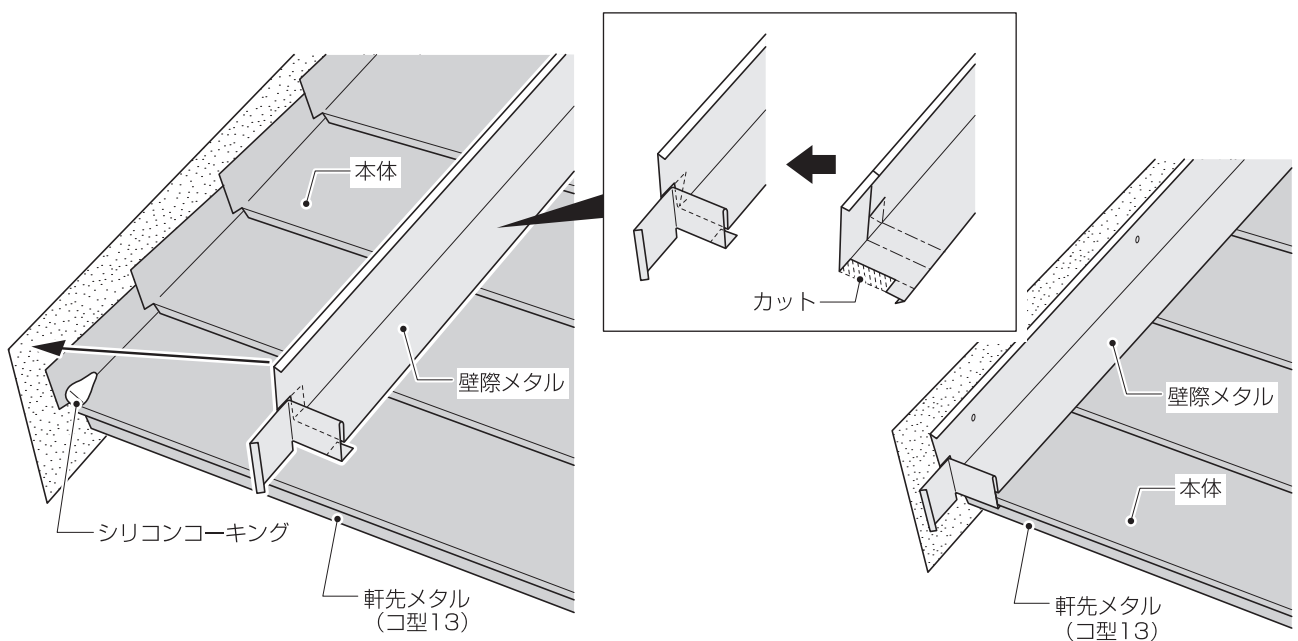
▲印の所は、コーキング処理をしてください。

■入隅部

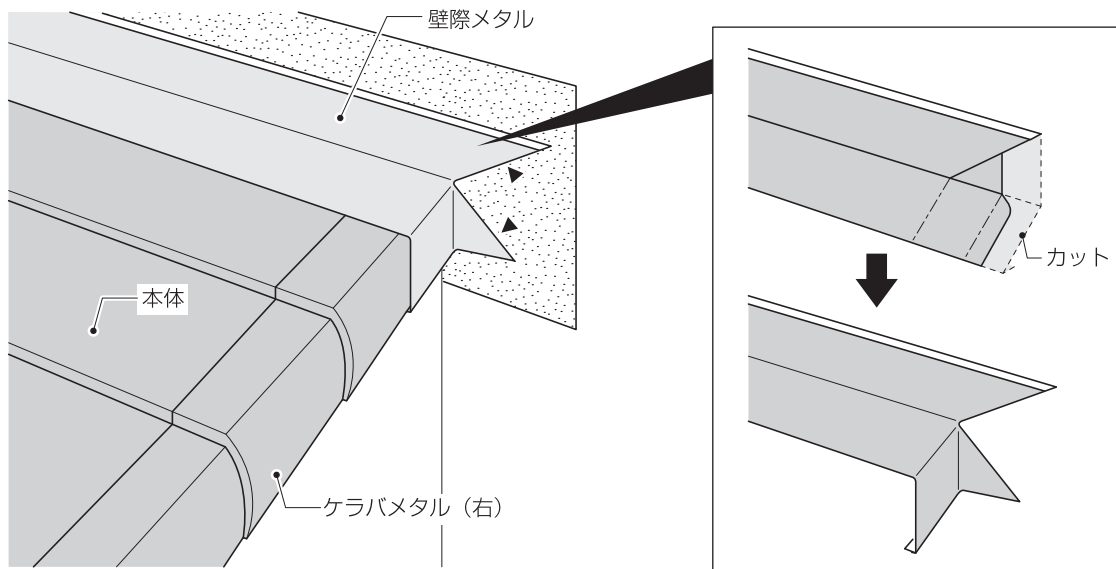


▲印の所は、コーキング処理をしてください。

■軒先壁当り部

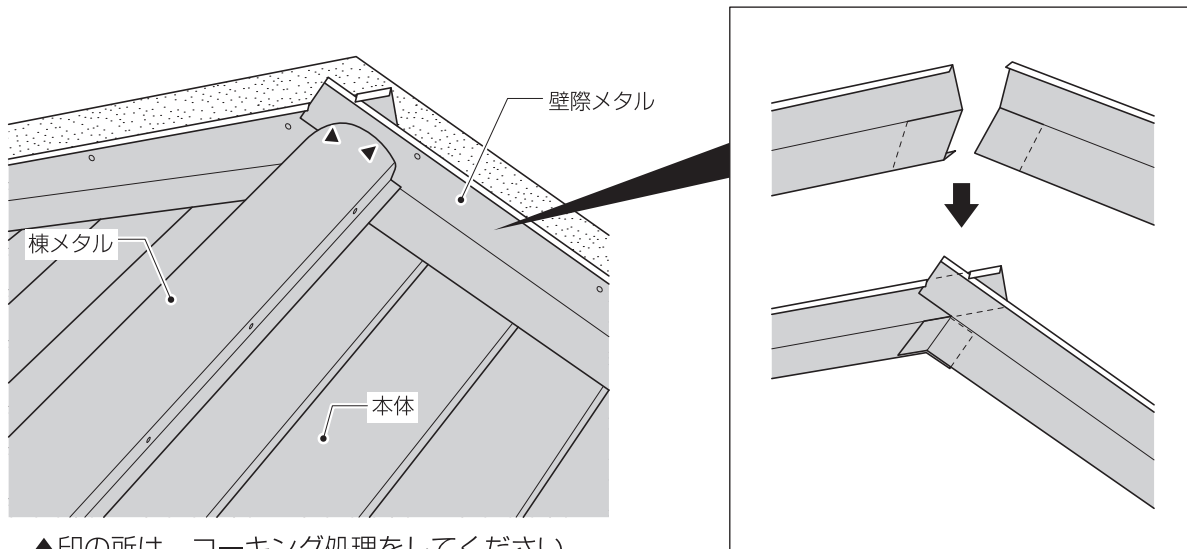


■ケラバ壁当り部



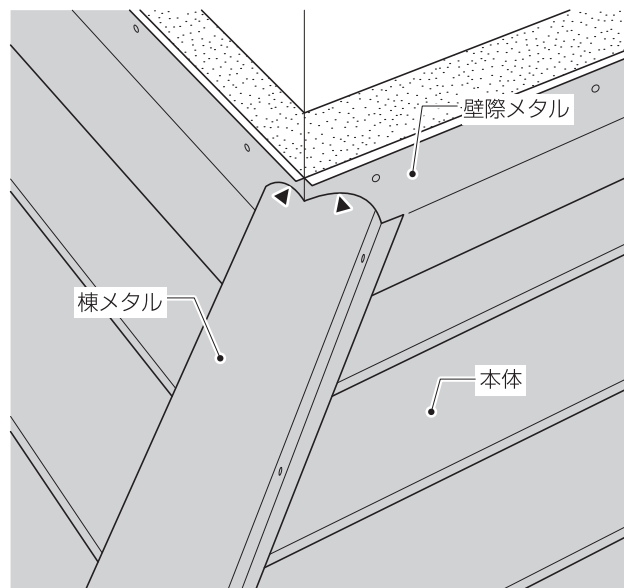
▲印の所は、コーキング処理をしてください。

■陸棟壁当り部



▲印の所は、コーキング処理をしてください。

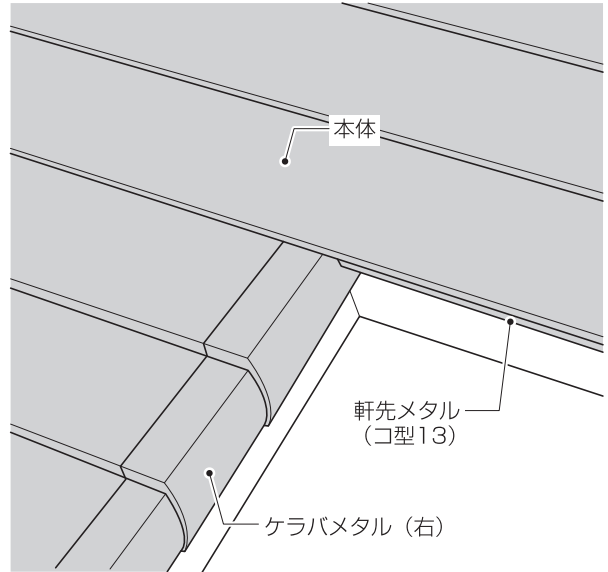
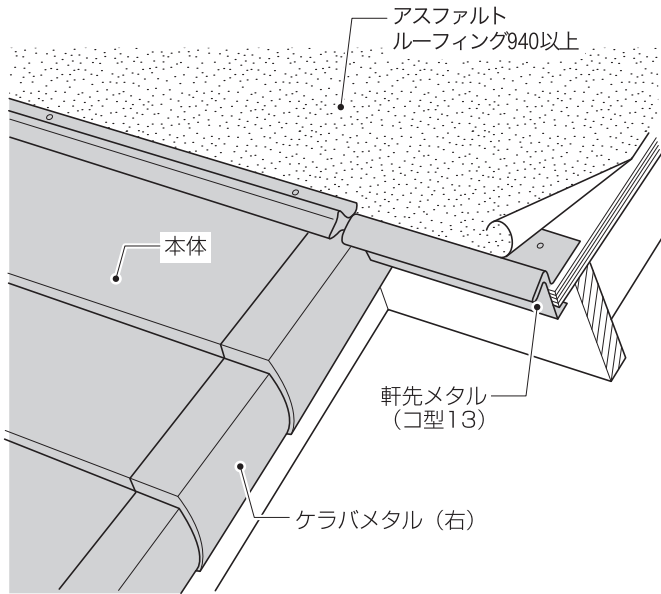
■隅棟壁当り部



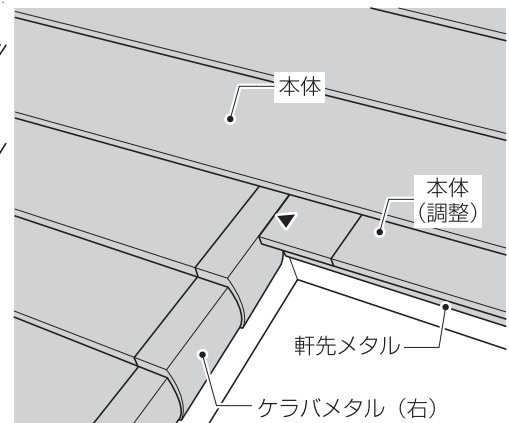
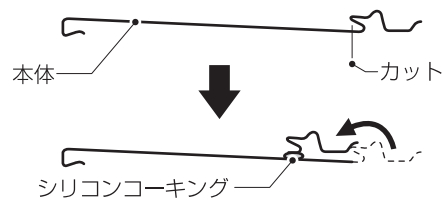
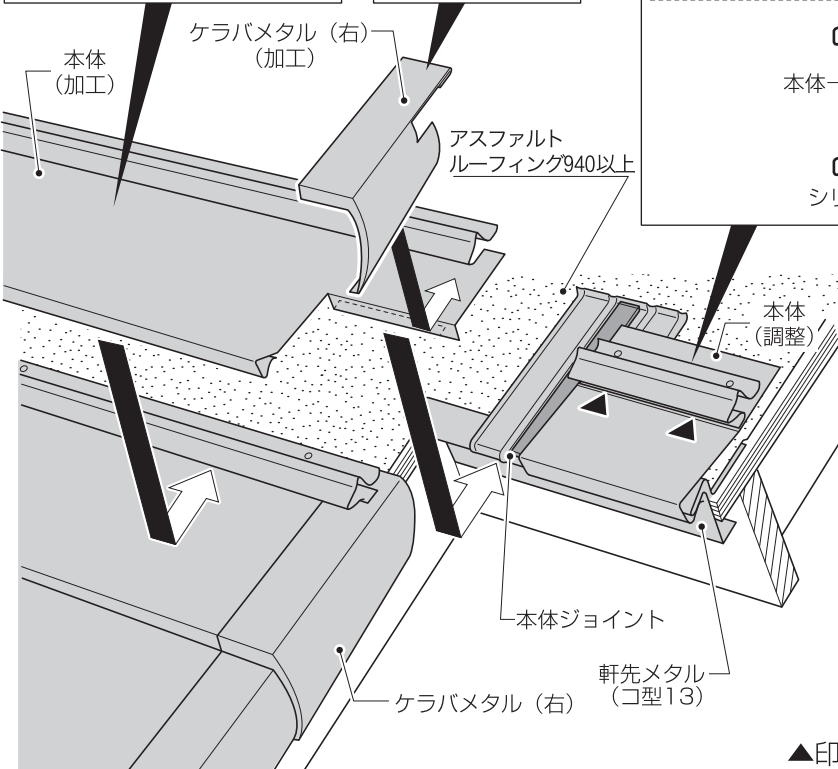
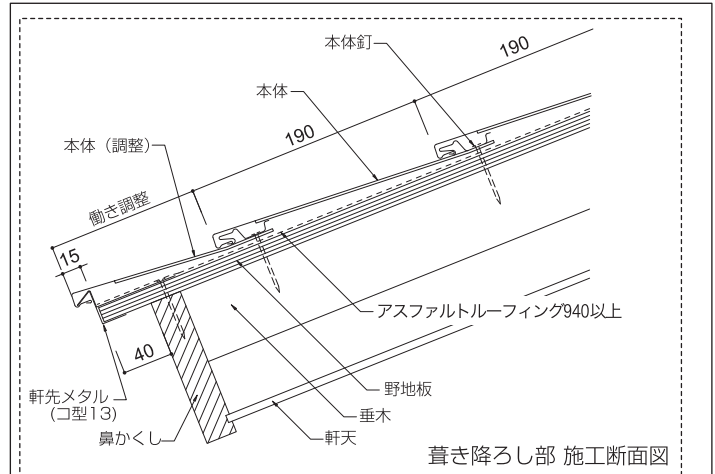
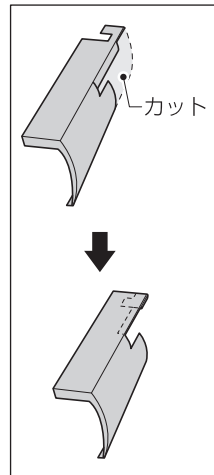
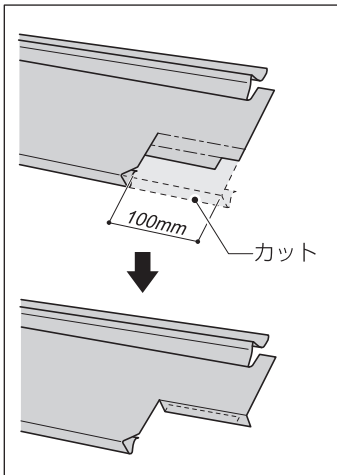
▲印の所は、コーキング処理をしてください。

■ 葺き降ろし部

- 軒先メタルと本体かみ合わせ部が揃う場合。

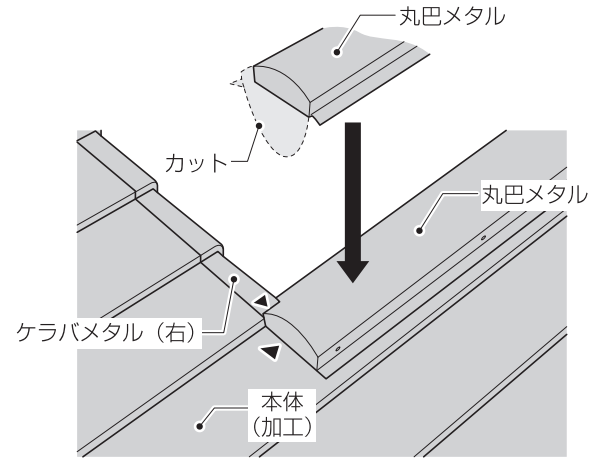
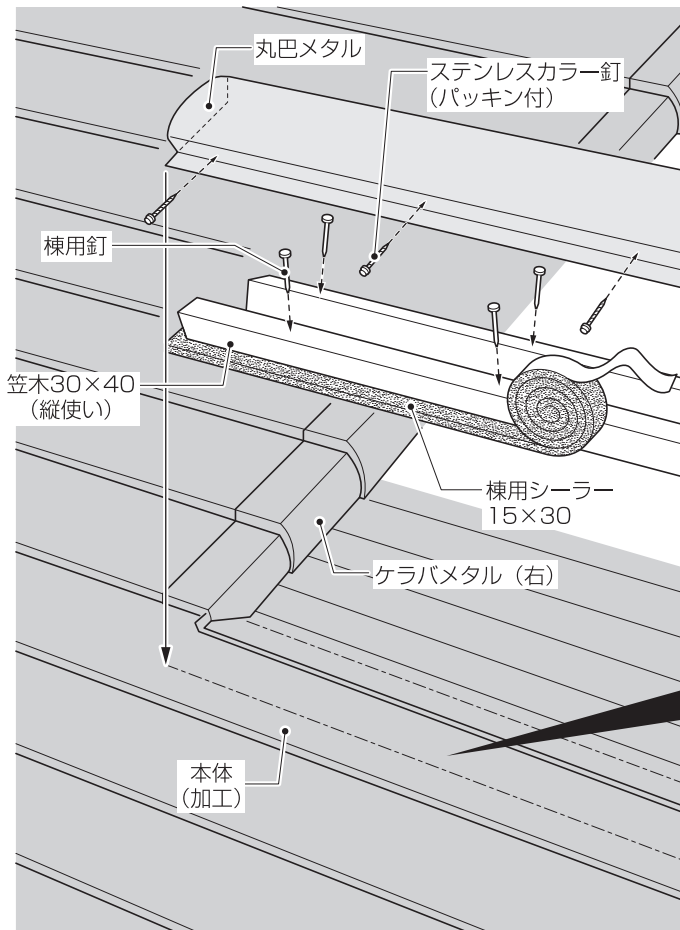


- 軒先メタルと本体かみ合わせ部が揃わない場合。

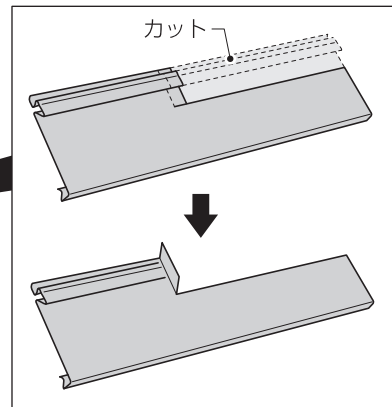


▲印の所は、コーキング処理をしてください。

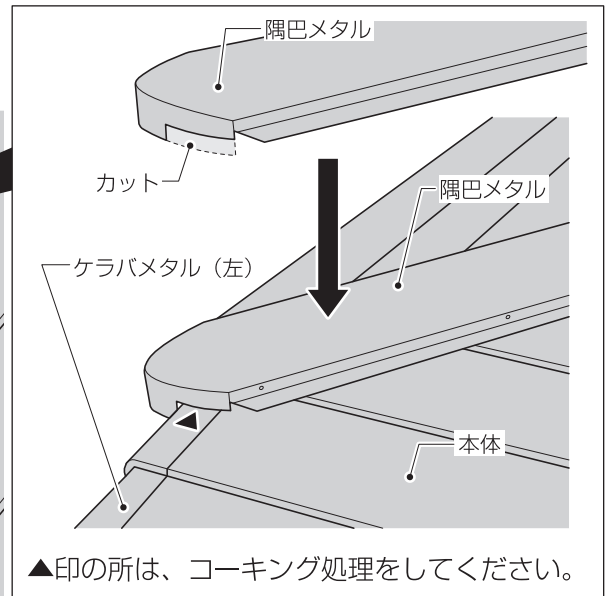
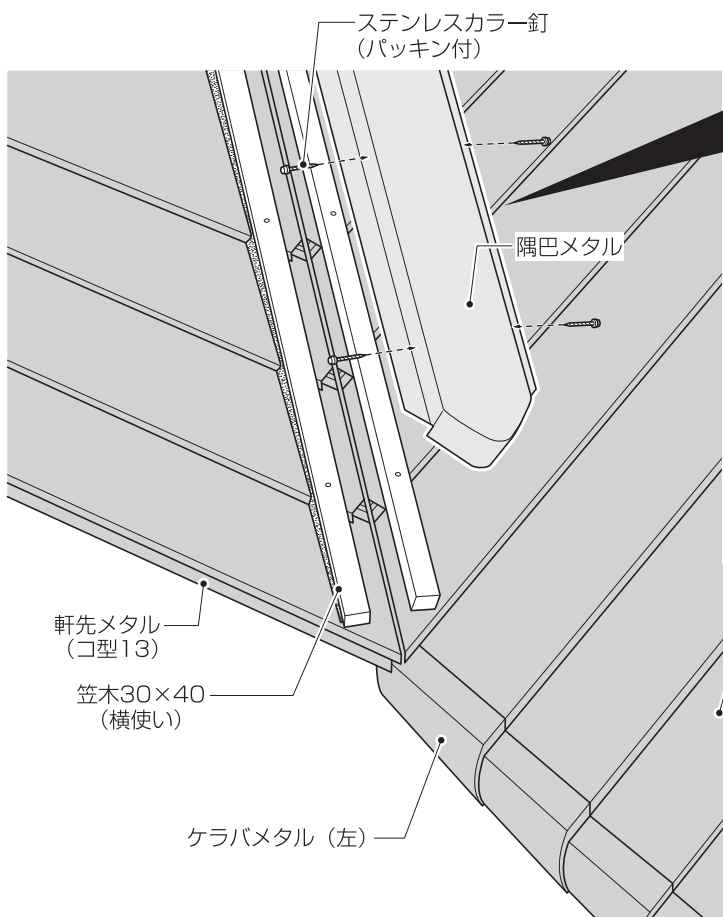
■落ち棟部



▲印の所は、コーキング処理をしてください。

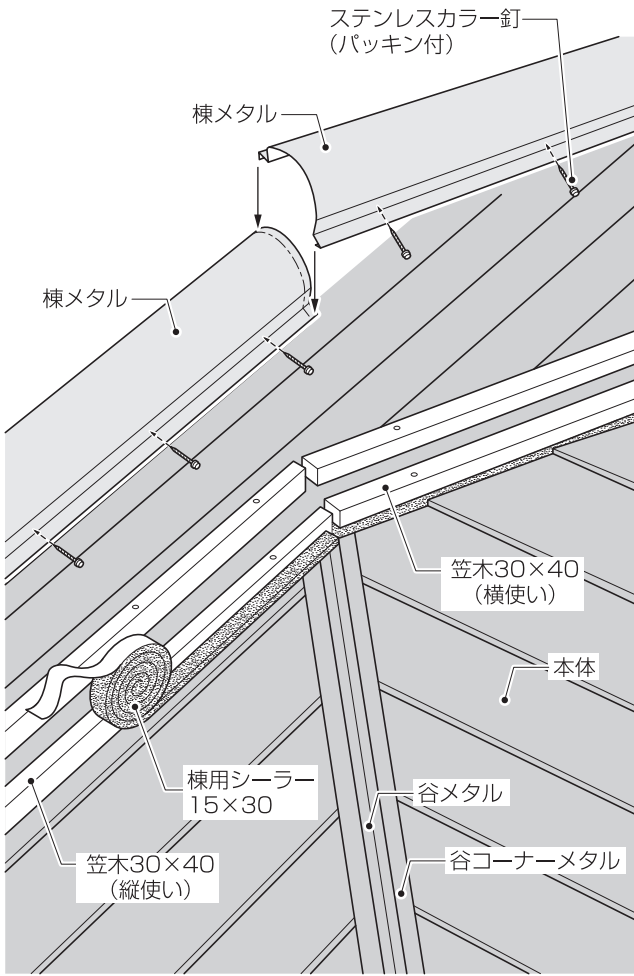


■半切り妻部

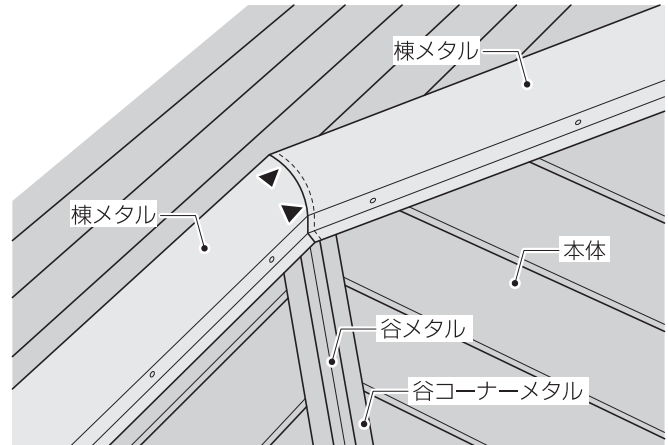


▲印の所は、コーキング処理をしてください。

■陸隅曲がり部

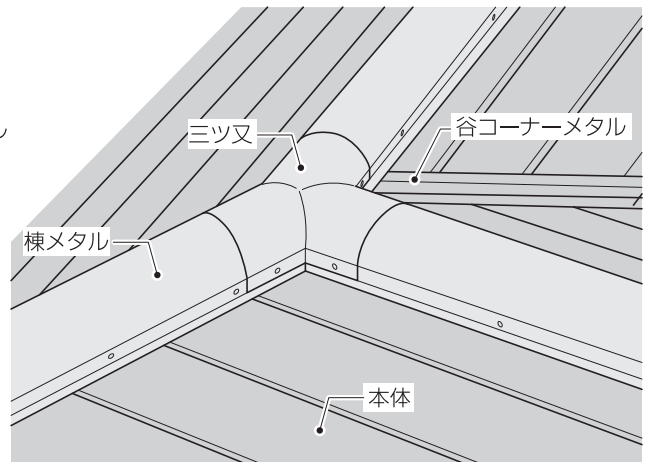
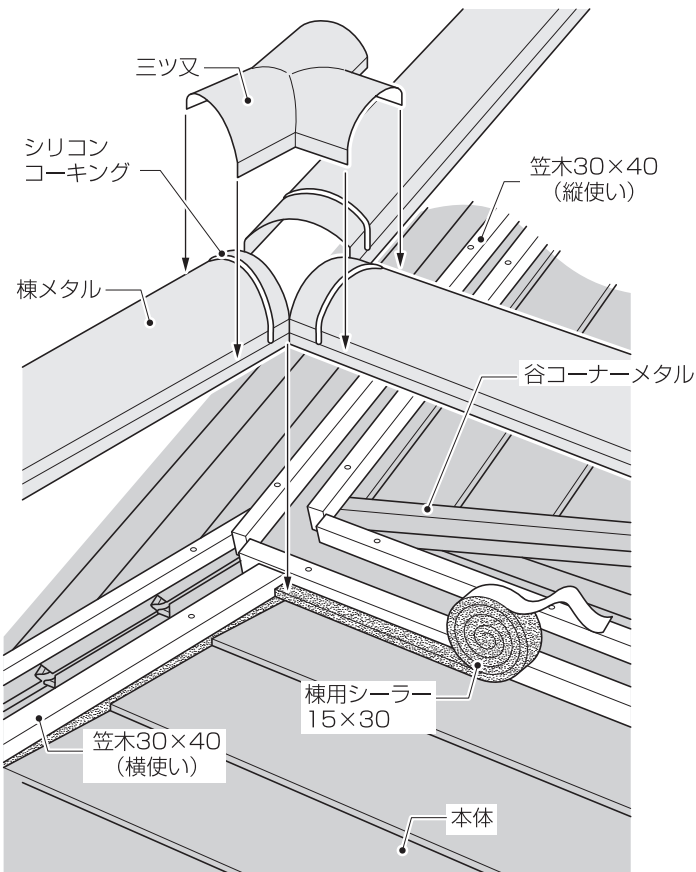


▲印の所は、コーキング処理をしてください。



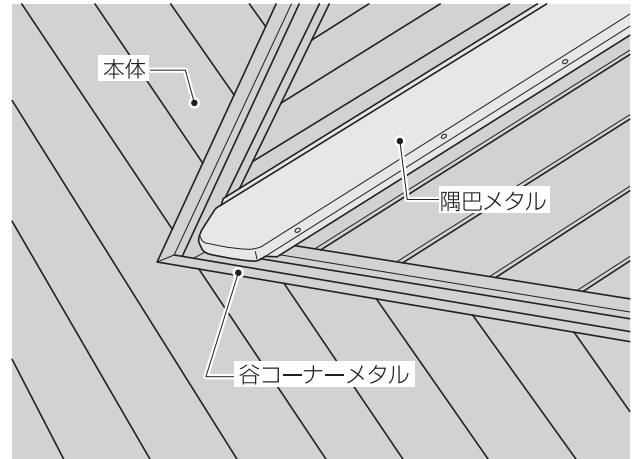
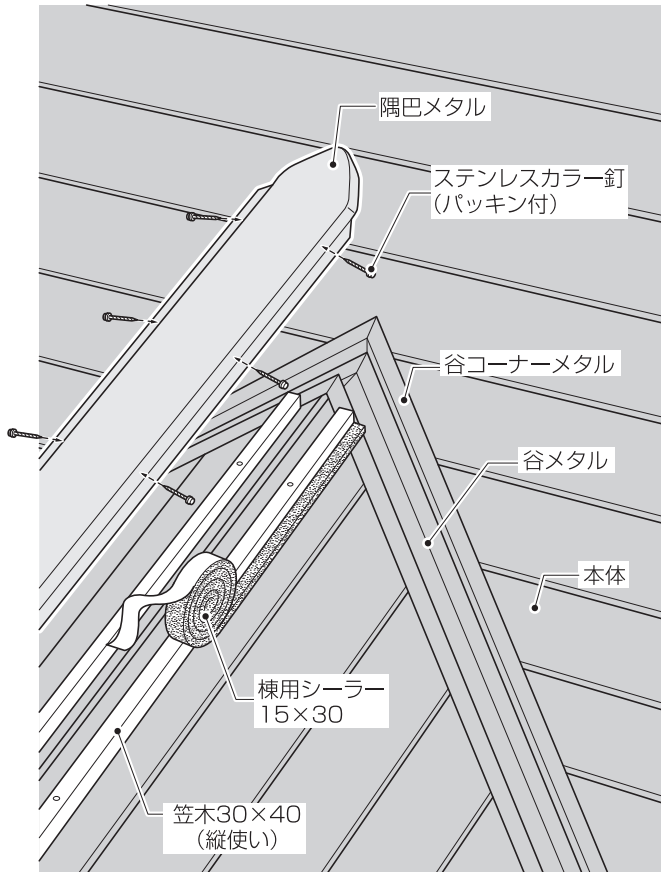
陸隅曲がり部 施工完成イメージ

■陸棟曲がり部



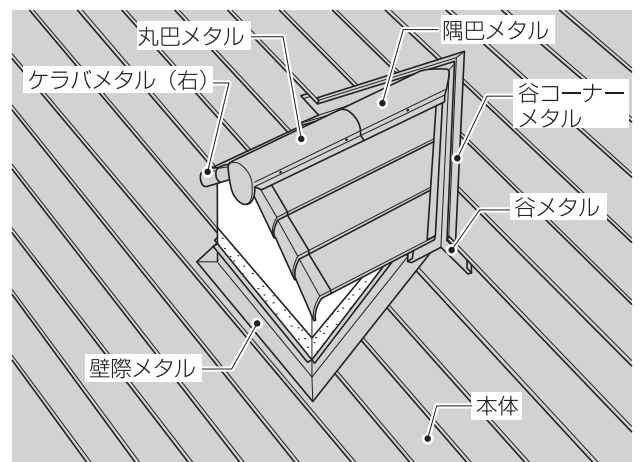
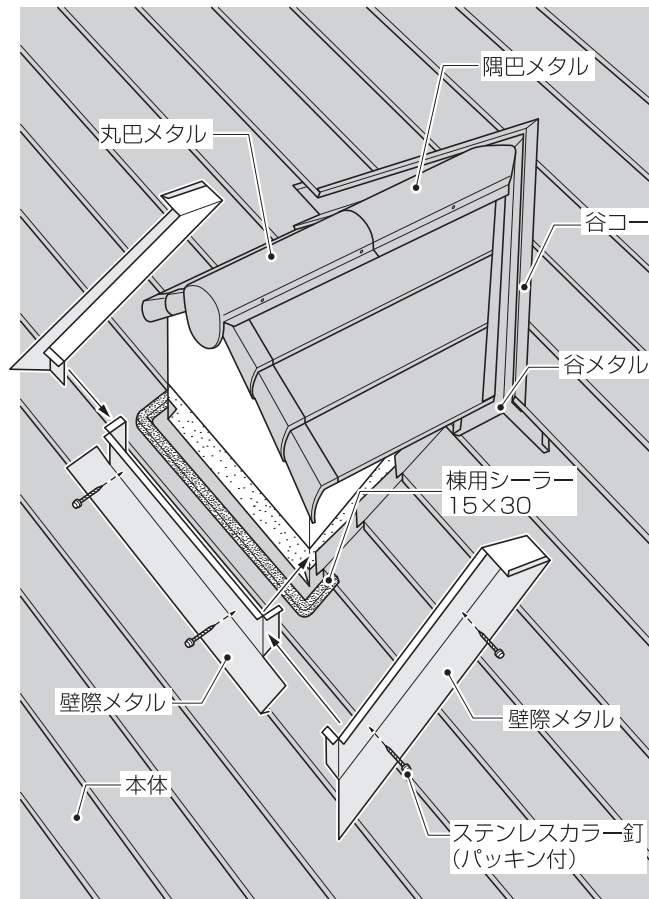
陸棟曲がり部 施工完成イメージ

■V谷部



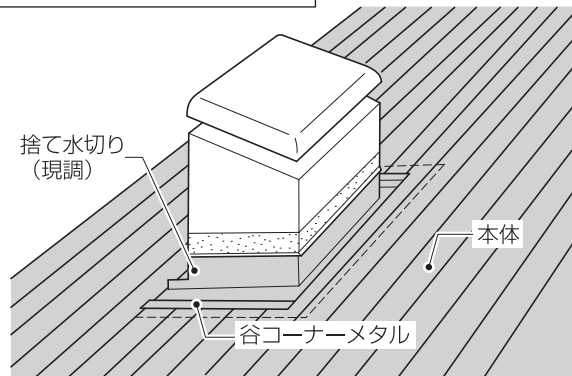
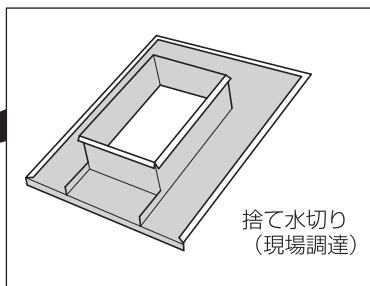
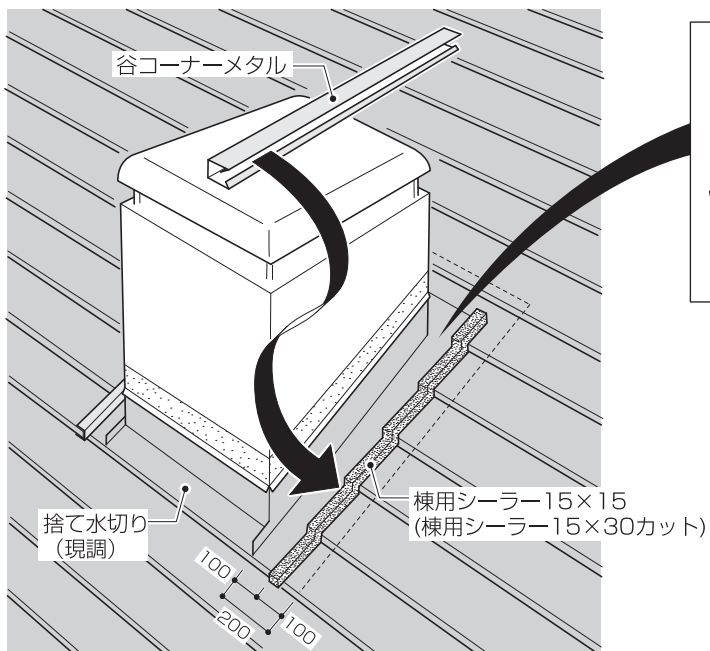
V谷部 施工完成イメージ

■ドーマー部



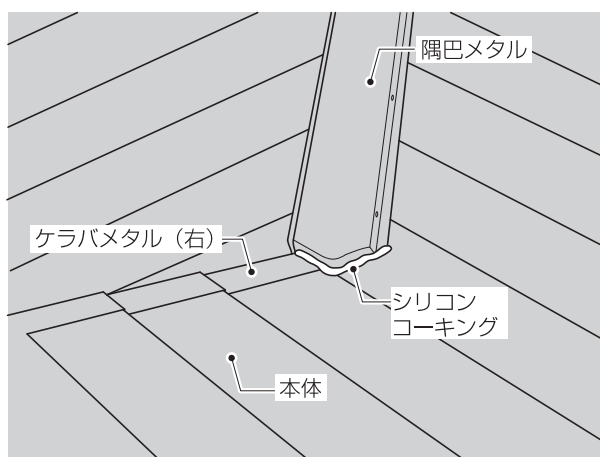
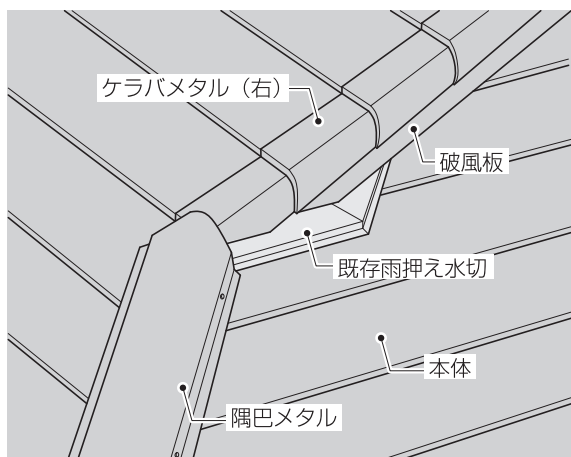
ドーマー部 施工完成イメージ

■煙突廻り(トッライト廻り)部



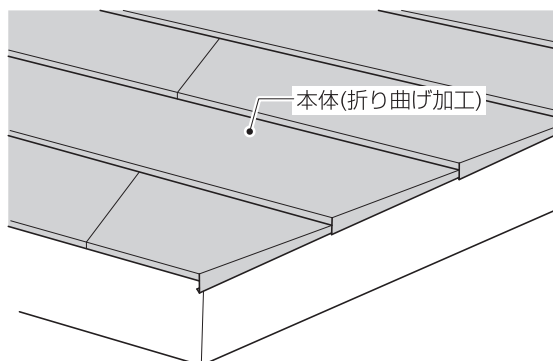
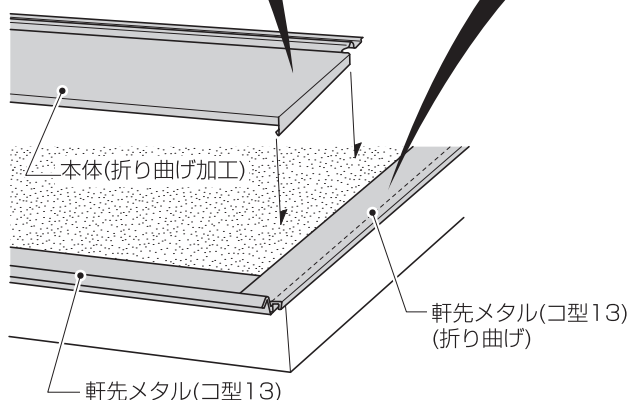
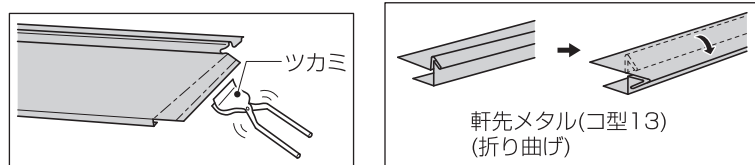
煙突廻り(トッライト廻り)部 施工完成イメージ

■入母屋



入母屋 施工完成イメージ

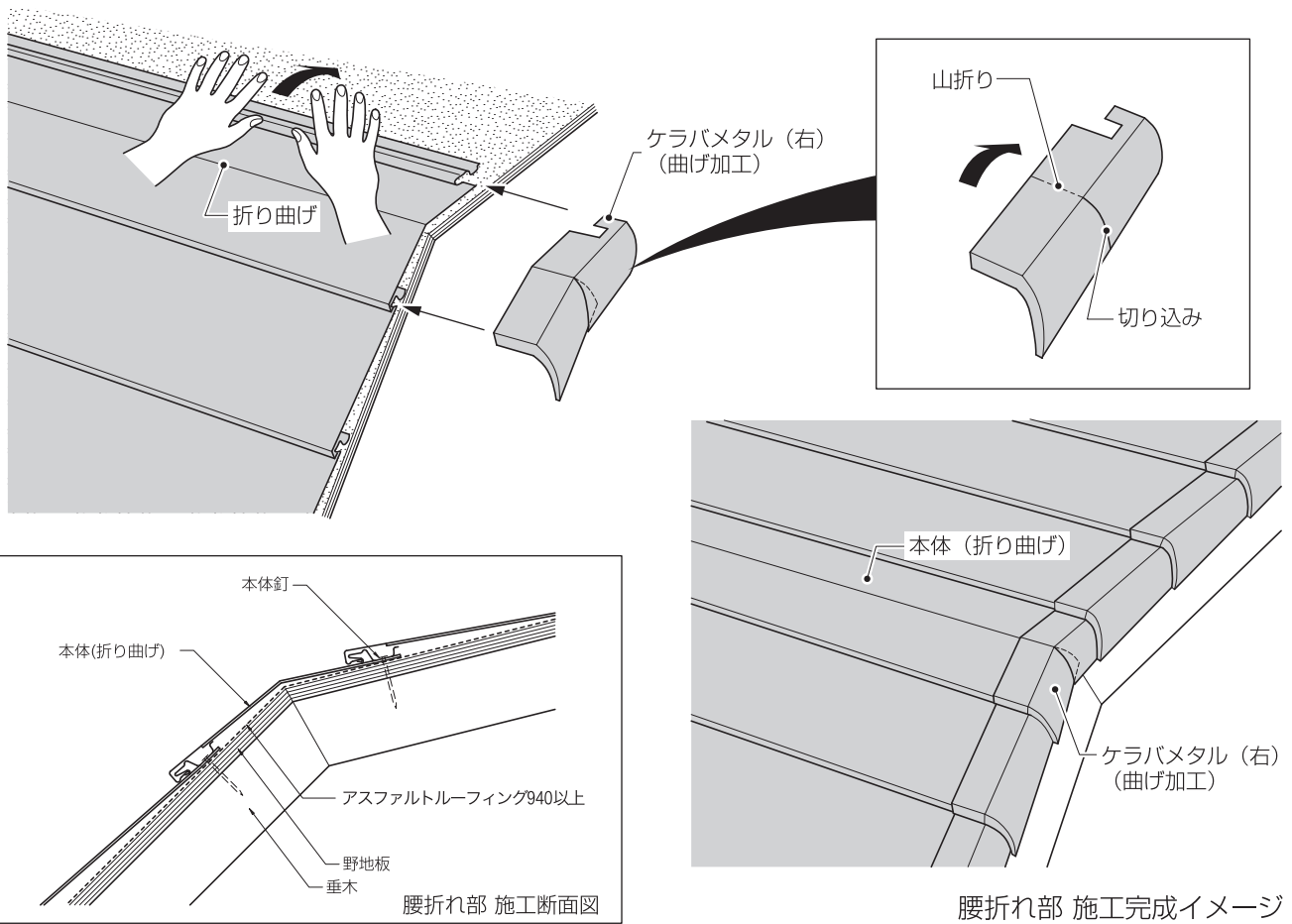
■斜めケラバ部



斜めケラバ部 施工完成イメージ

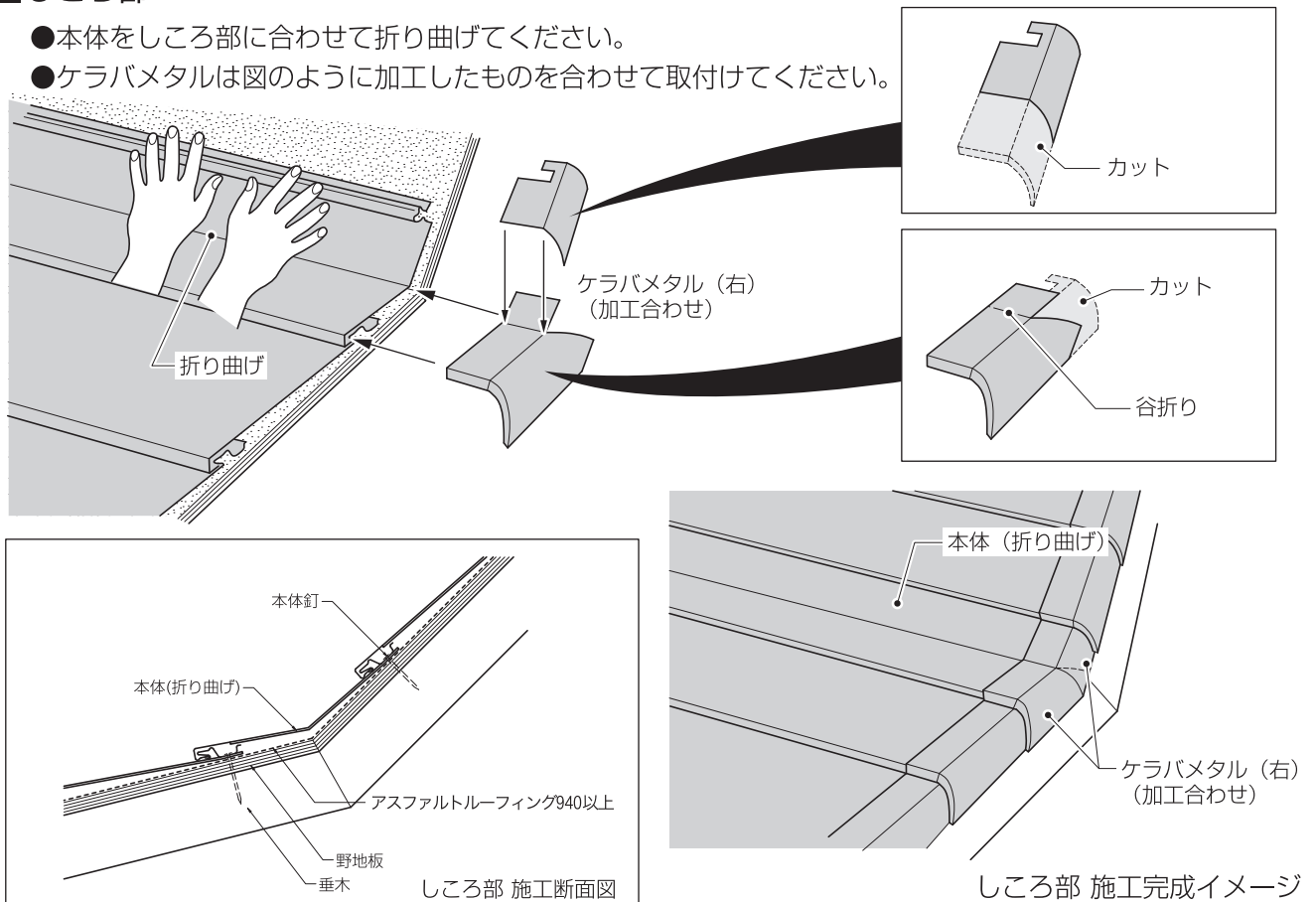
■腰折れ部

- 本体を腰折れ部に合わせて折り曲げてください。
- ケラバメタルは図のように曲げ加工したものを取付けてください。



■しころ部

- 本体をしころ部に合わせて折り曲げてください。
- ケラバメタルは図のように加工したものを合わせて取付けてください。



9. 特殊工事 (オプション)

■廻し棟の施工

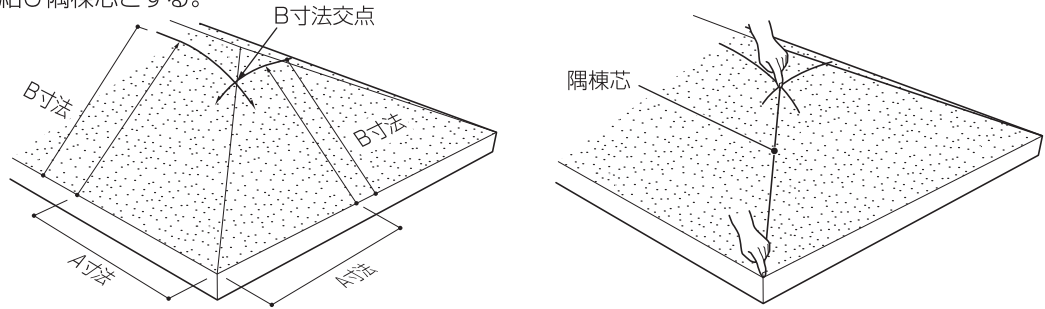


注意

- 廻し棟が使用出来る勾配は、2.5寸～5寸に限定とします。
- 廻し棟には必ず本体ジョイント(S)を使用してください。
- 各面とも同勾配でないとう施工できません。

●廻し棟を正確に納めるために、次の要領で隅棟芯をとってください。

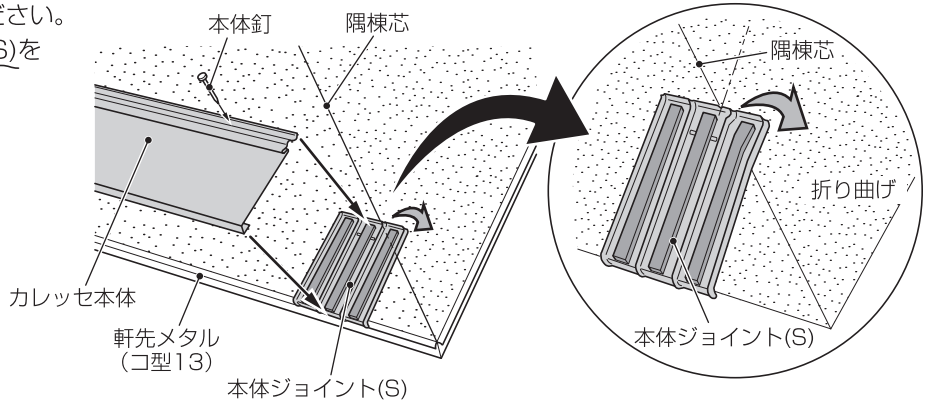
- ① 隅棟軒先端より各面でA寸法をとる。
- ② その点より流れ方向でB寸法をとり隅棟芯に向かって点をとる。
- ③ 交点と隅棟軒先端を結び隅棟芯とする。



●廻し棟は、次の要領で取付けてください。

●廻し棟には必ず、本体ジョイント(S)を使用してください。

- ① 本体ジョイント(S)のセンターシーラー部端の延長線上に、隅棟芯がくるようにジョイントを折り曲げてセットする。
- ② カレッセ本体を本体ジョイント(S)のセンターに合せセットし、本体釘にて固定する。

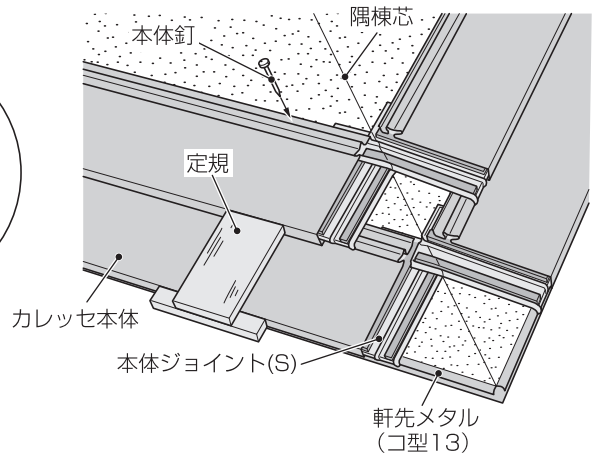
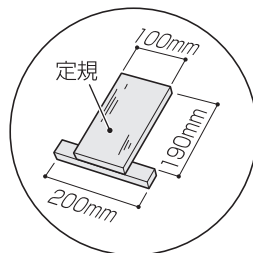


③ 2段目以降①・②同様に施工していく。

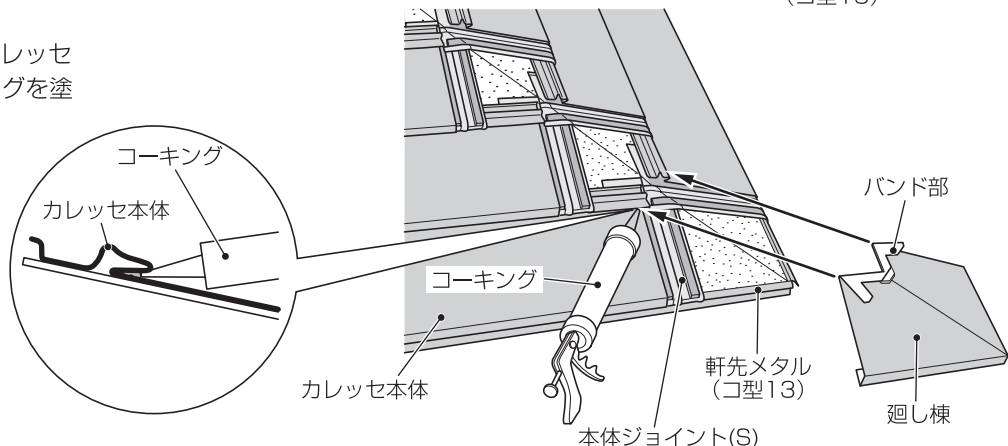
※ その際、カレッセ本体を正確な動き寸法で納めるため、右図のような定規を作成する。

④ 定規を使って、2段目以降の本体を正確に固定していく。

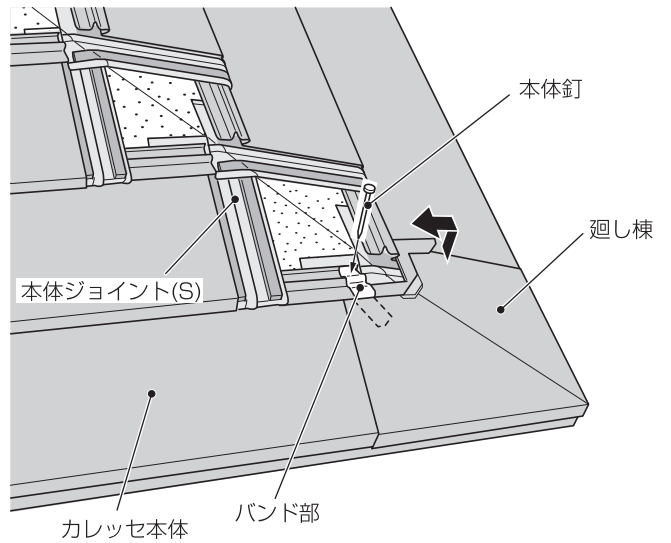
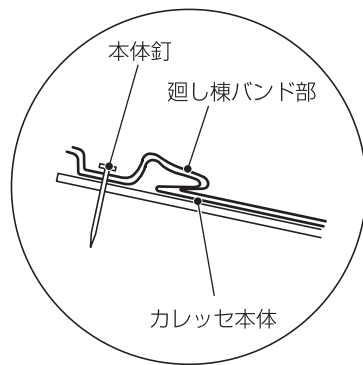
※ 両面のカレッセ本体の葺き足は、必ず揃える。



⑤ 廻し棟を取付ける前に、カレッセ本体かみ合せ部にコーキングを塗布する。

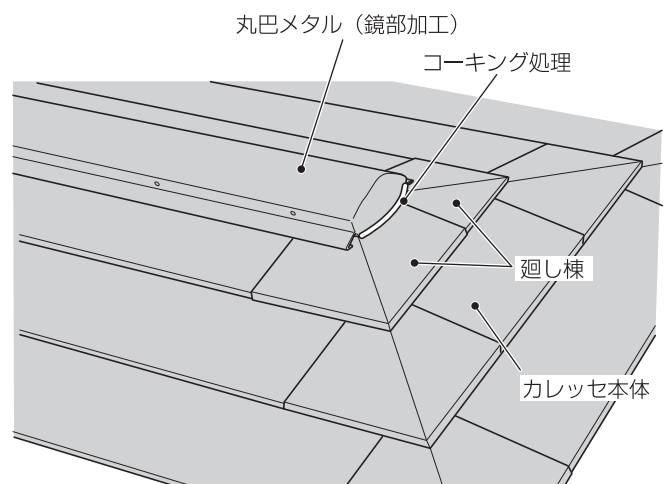
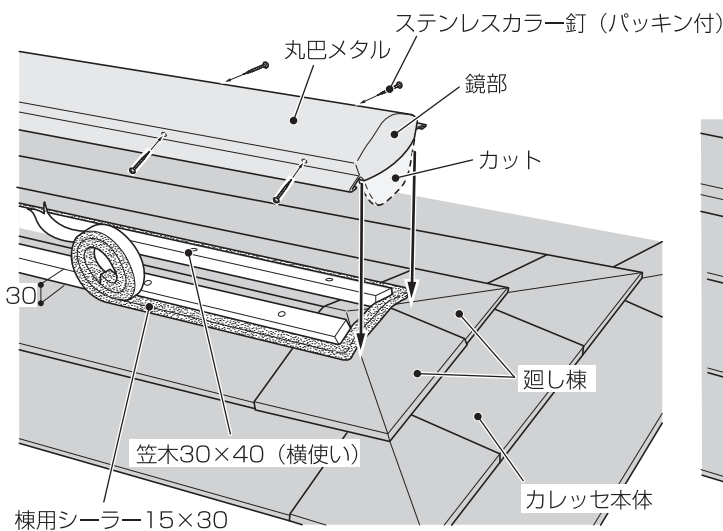


- ⑥ 廻し棟をカレッセ本体の葺き足と揃うようにセットし、廻し棟のバンド部を本体に折り返し、本体釘にて固定する。
- ⑦ 2段目以降同様に施工していく。

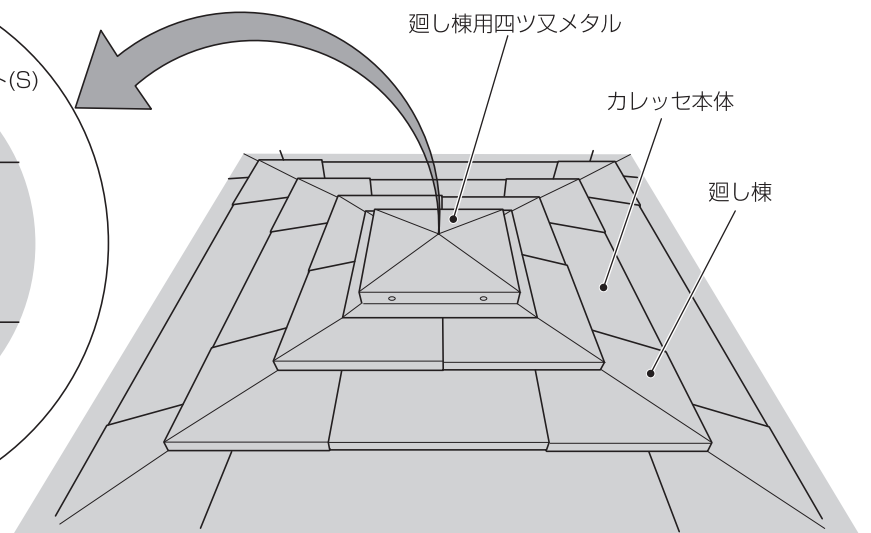
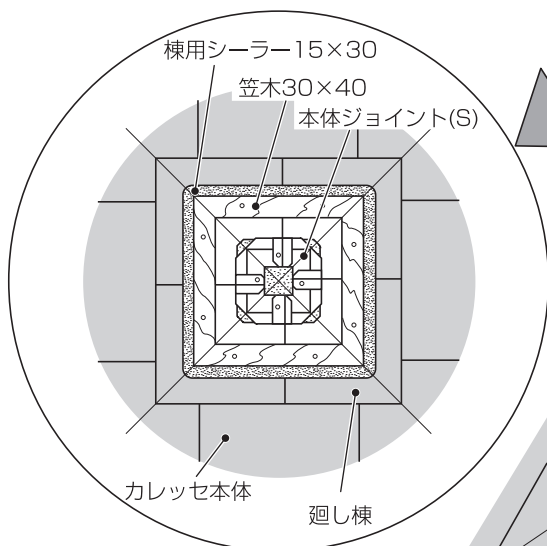


■三ツ又部の施工

- ① 三ツ又部では、笠木30×40を横使いで固定し、笠木に沿わせ棟用シーラー15×30を貼り付ける。
- ② 丸巴メタル鏡部を加工し、廻し棟の芯と丸巴メタル鏡部下端を図のように合せ、ステンレスカラー釘(パッキン付)で固定する。
- ③ 丸巴メタル鏡部と廻し棟の接合部は、コーキング処理する



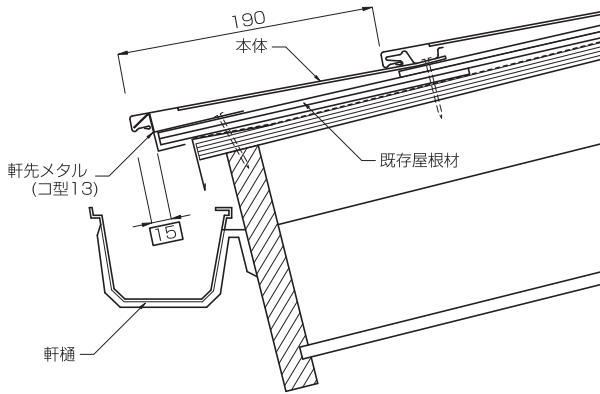
■四ツ又部の施工



■軒先メタル〔ゼロ〕の施工

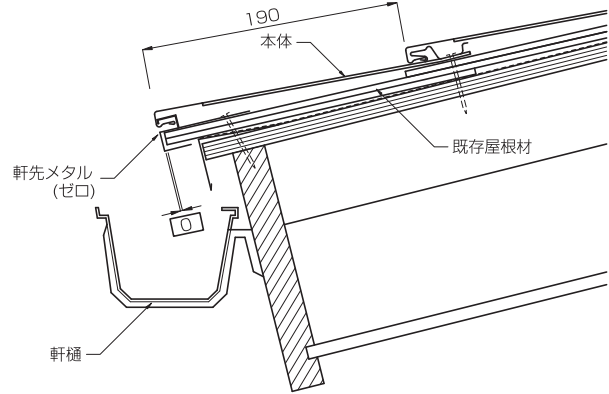
《軒先メタル(コ型13)の場合》

- 既存屋根材より15mm前へ出る

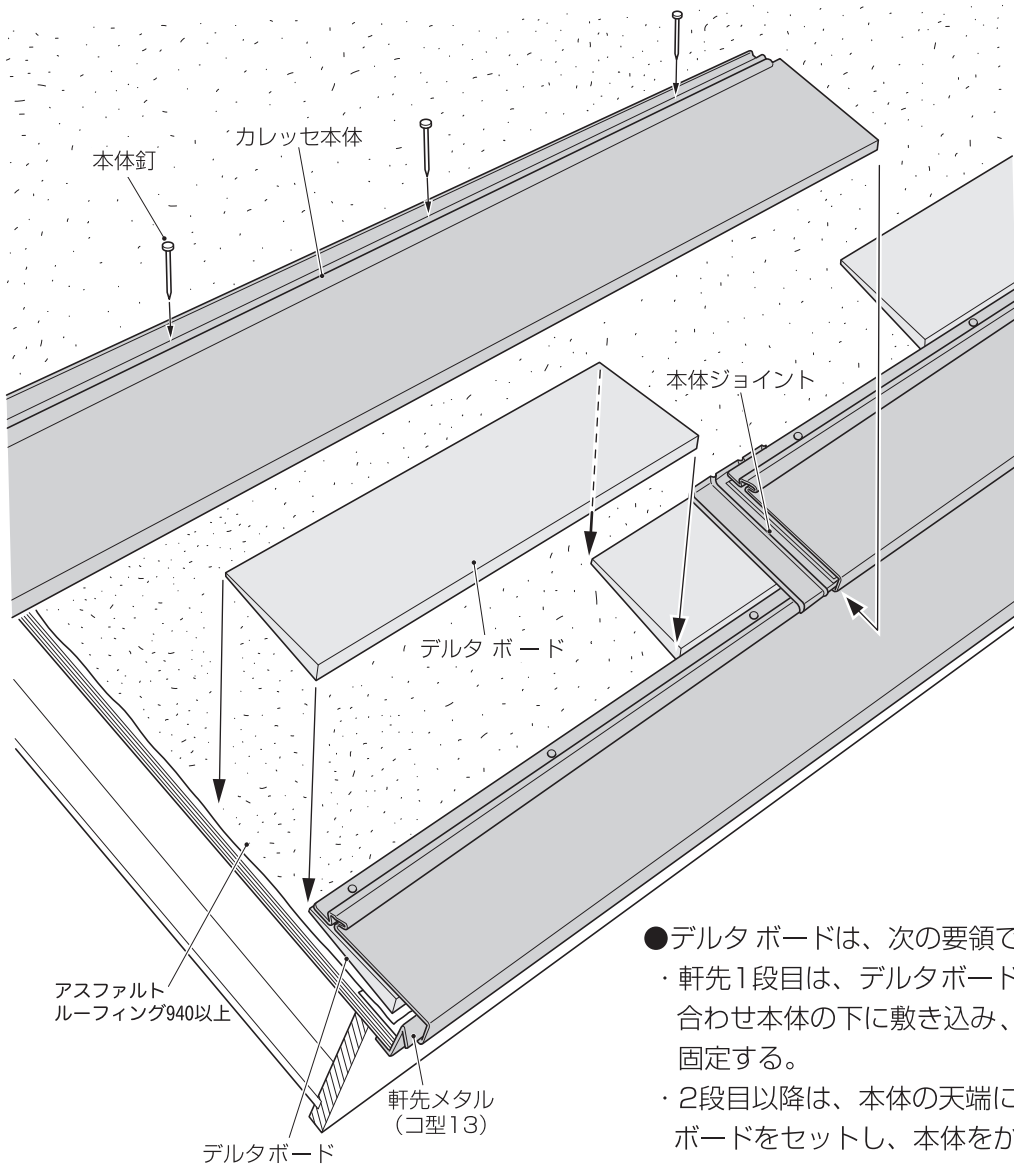


《軒先メタル(ゼロ)の場合》

- 既存屋根材の出寸法を変えないで施工できる



■デルタボードの施工



- デルタボードは、次の要領で施工してください。
 - ・軒先1段目は、デルタボードをカレッセ本体の天端に合わせ本体の下に敷き込み、本体と同時に本体釘にて固定する。
 - ・2段目以降は、本体の天端に突き当てるようにデルタボードをセットし、本体をかぶせ本体釘にて固定する。

■カレッセ換気棟の施工

●棟換気設計基準

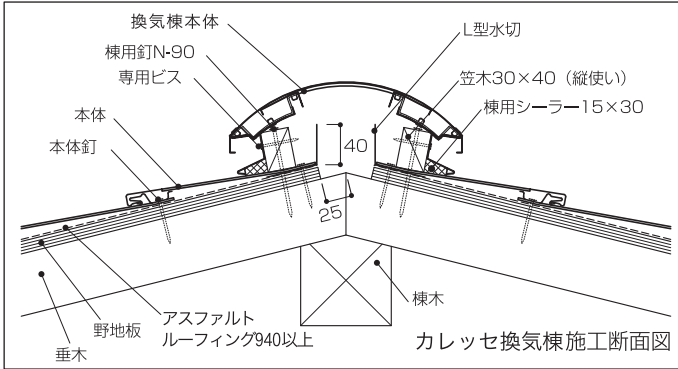
① 換気棟本体の換気孔面積とカバーできる天井面積(住宅金融公庫による「小屋裏換気」の定義引用)

- 排気筒その他の器具を用いた排気口は、できるだけ小屋裏頂部に設けることとし、排気口の有効換気面積は天井面積の1/1600以上とする。
また、軒裏等に設ける吸気口の有効面積は、天井面積の1/900以上とする。

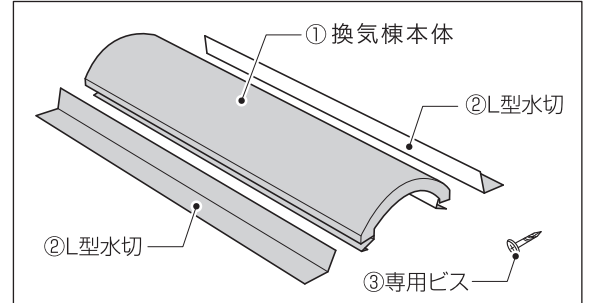
サイズ	800mm	1710mm
換気孔面積(㎡/本)	0.016㎡	0.0342㎡
天井面積(㎡/本)	25.6㎡	54.72㎡
材質	高耐候性カラーGL鋼板 *TF(ブラック)のみタイマフロンGL鋼板	
使用可能屋根勾配	2.5寸~10寸	

② 設置・施工基準

- 取付け位置は陸棟の中央付近としてください。
- 陸棟長さは800mm以上が必要です。
- 換気棟本体をカットしての施工はできません。
- 天井面積が54㎡を越える場合は、2本以上使用してください。



●部材

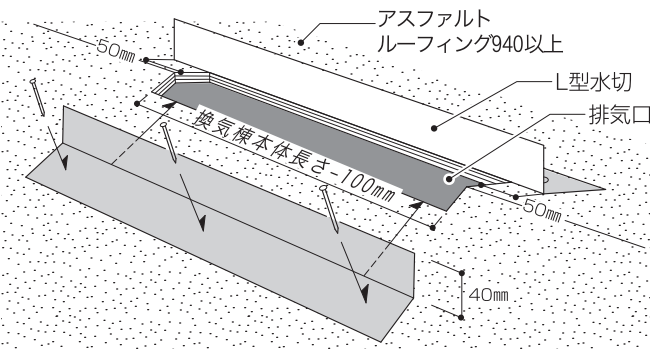


●梱包

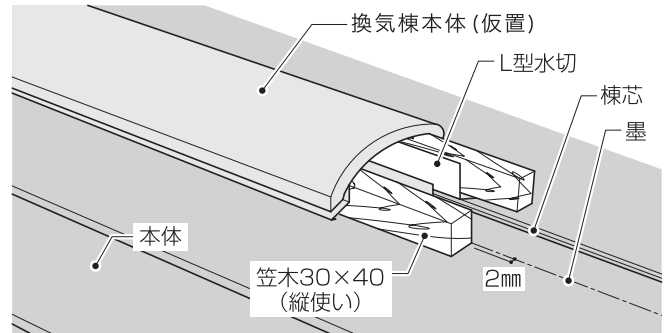
タイプ	換気棟800	換気棟1710
①本体	1本	1本
②L型水切	L=800 2枚	L=1710 2枚
③専用ビス	6本	10本

③ 施工手順

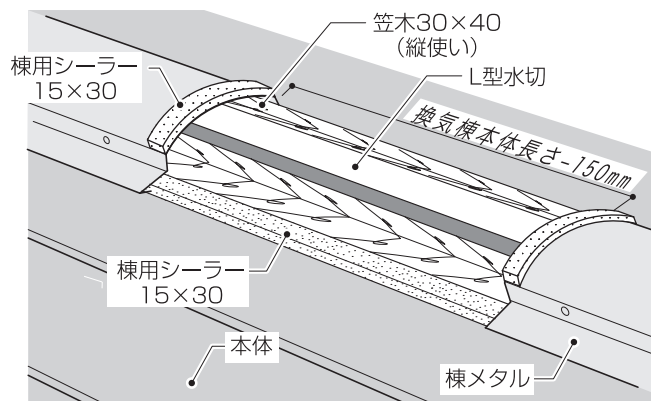
- 排気口寸法は、換気棟 本体の両端からそれぞれ50mm短くしてください。
- アスファルトルーフィング940以上 を排気口まで張り、排気口に合わせL型水切を取り付けてください。



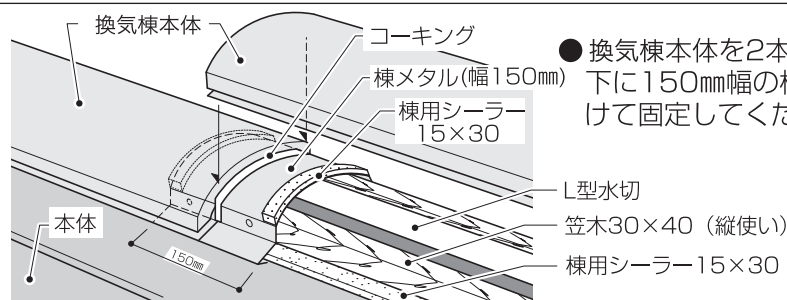
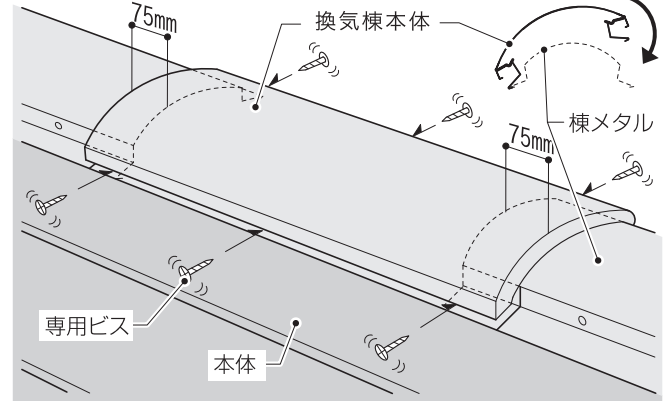
- 排気口際のカレッセ本体は、排気口に合わせてカットし固定してください。
- 笠木取り付け位置は、換気棟本体のガイドに合わせて仮置きし、その位置より棟芯方向にマイナス2mmの所で墨打ちし、固定してください。



- 棟メタルは排気口端に合わせて取り付けてください。
- 棟メタルの端に棟用シーラーを貼付けてください。



- 換気棟本体は棟メタルに重ね、専用ビスで固定してください。



- 換気棟本体を2本以上ジョイントさせる場合はジョイント部の下に150mm幅の棟メタルを取り付けた後、本体どうしを突き付けて固定してください。

10.積雪地工法

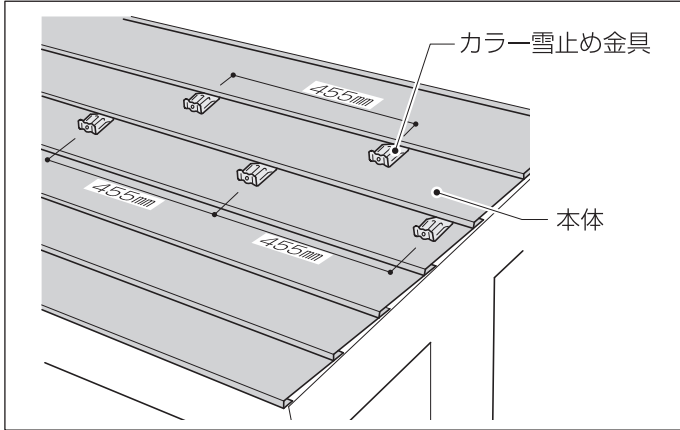
■雪止め金具

■取付け基準

- 積雪が予想される地域では取付けの要否を充分確認してください。
- 雪止め金具は、積雪量・屋根勾配・流れ長さによって取付け本数が異なります。
- 積雪50cm以下の場合の取付け本数を右表に示します。
- 積雪量が50cmを超える場合は、次の係数を右表に乗じて使用本数を求めてください。
 - ・75cm以下・・・係数1.5
 - ・100cm以下・・・係数2

屋根勾配	流れ長さ			
	3m	5m	8m	10m
2.5寸～3.5寸	1本	1.5本	2.5本	3本
4.0寸	1.5本	2.5本	3本	3本
4.5寸～6.0寸	1.5本	2.5本	3本	4本

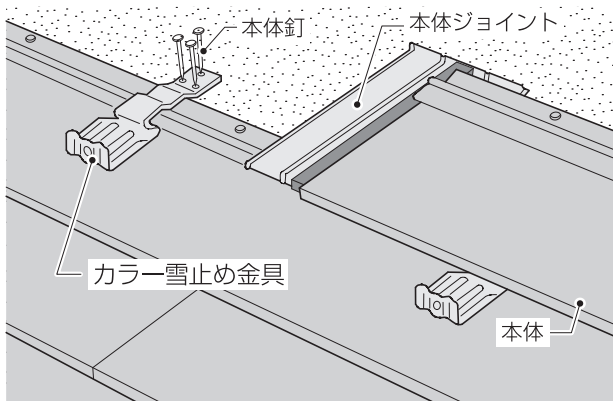
※上表は垂木間隔(455mm)の使用本数です。
この本数に桁行垂木本数を乗じて、屋根全体の使用本数を求めてください。



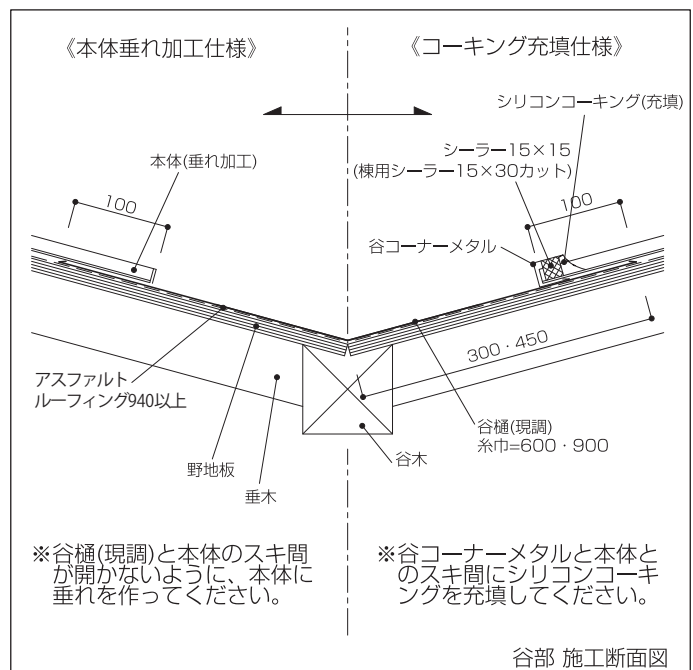
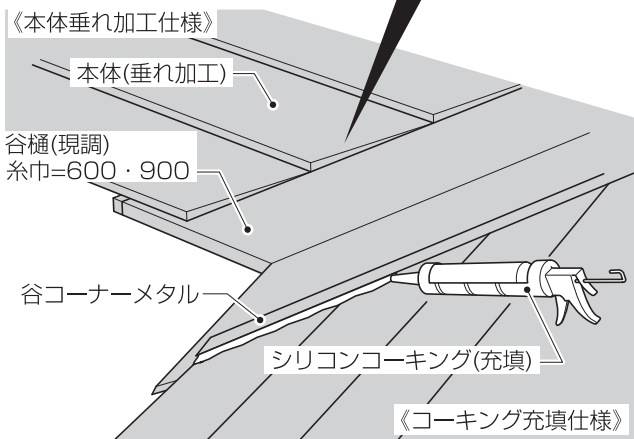
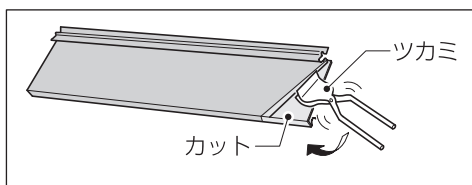
- 雪止め金具は外周壁面より内側に455mm毎で配置してください。
- 2段以上の場合は千鳥になるように配置してください。

■取付け方法

- 雪止め金具の受溝を本体の受溝に奥まで押し込み、3箇所釘止めしてください。

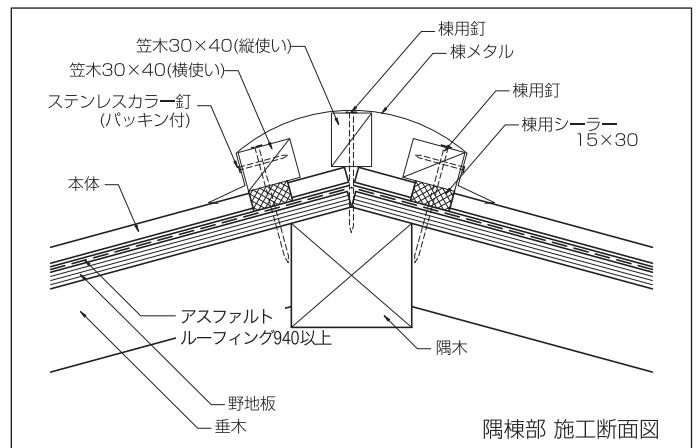
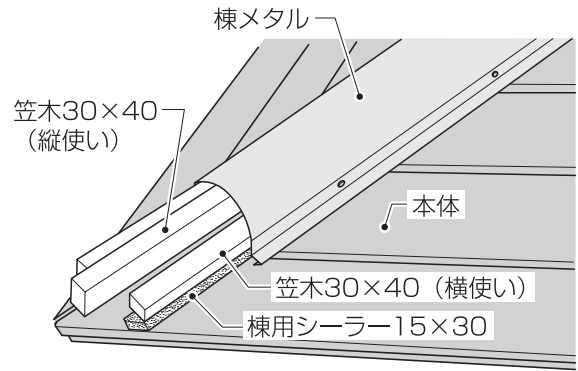
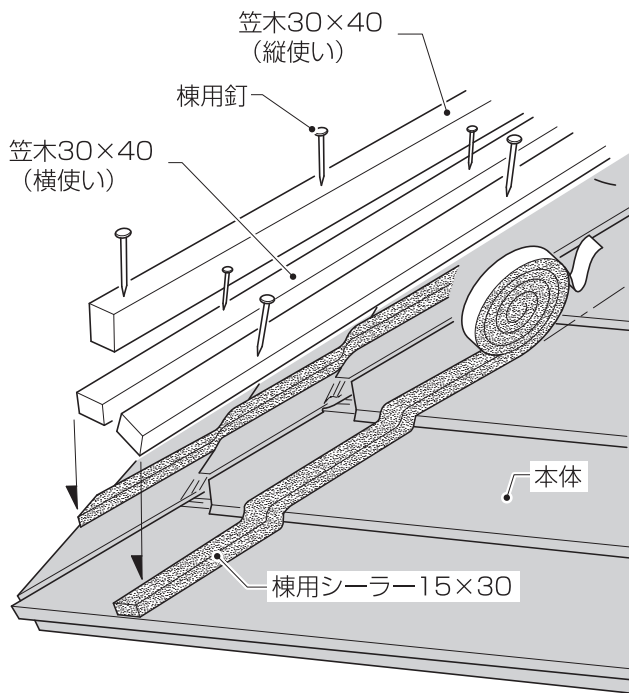


■谷部補強



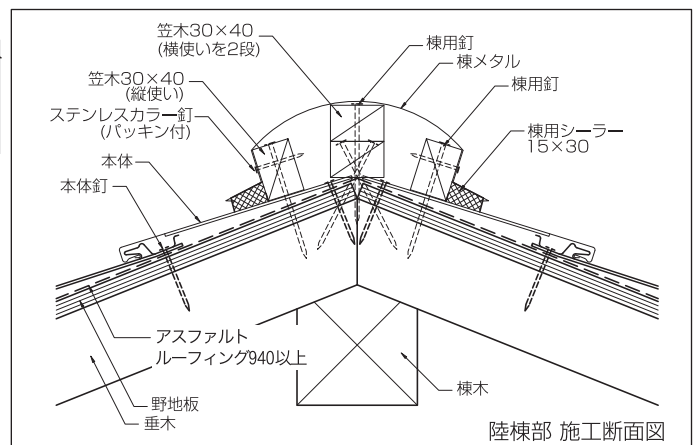
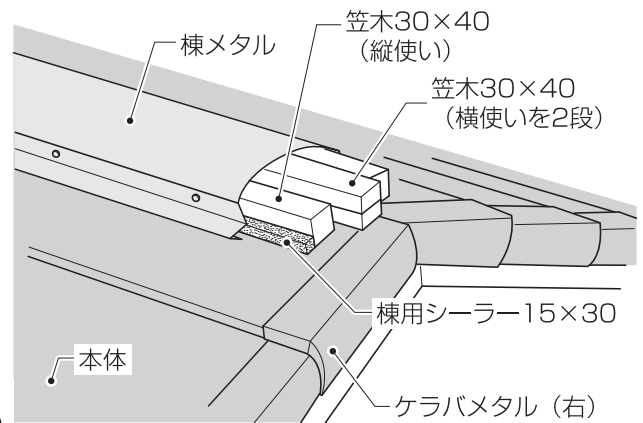
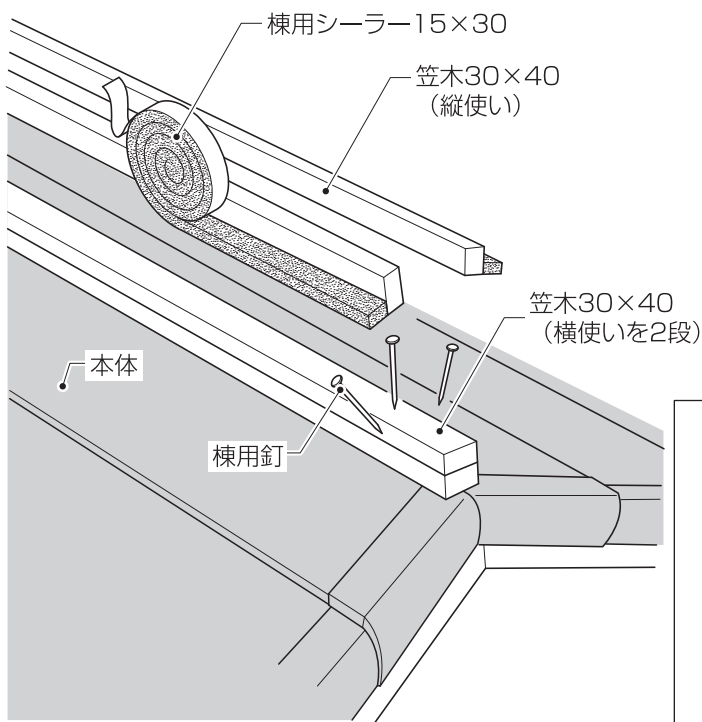
■隅棟部補強

●隅棟芯に笠木30×40を縦使いし、棟用釘にて900mm毎で固定してください。



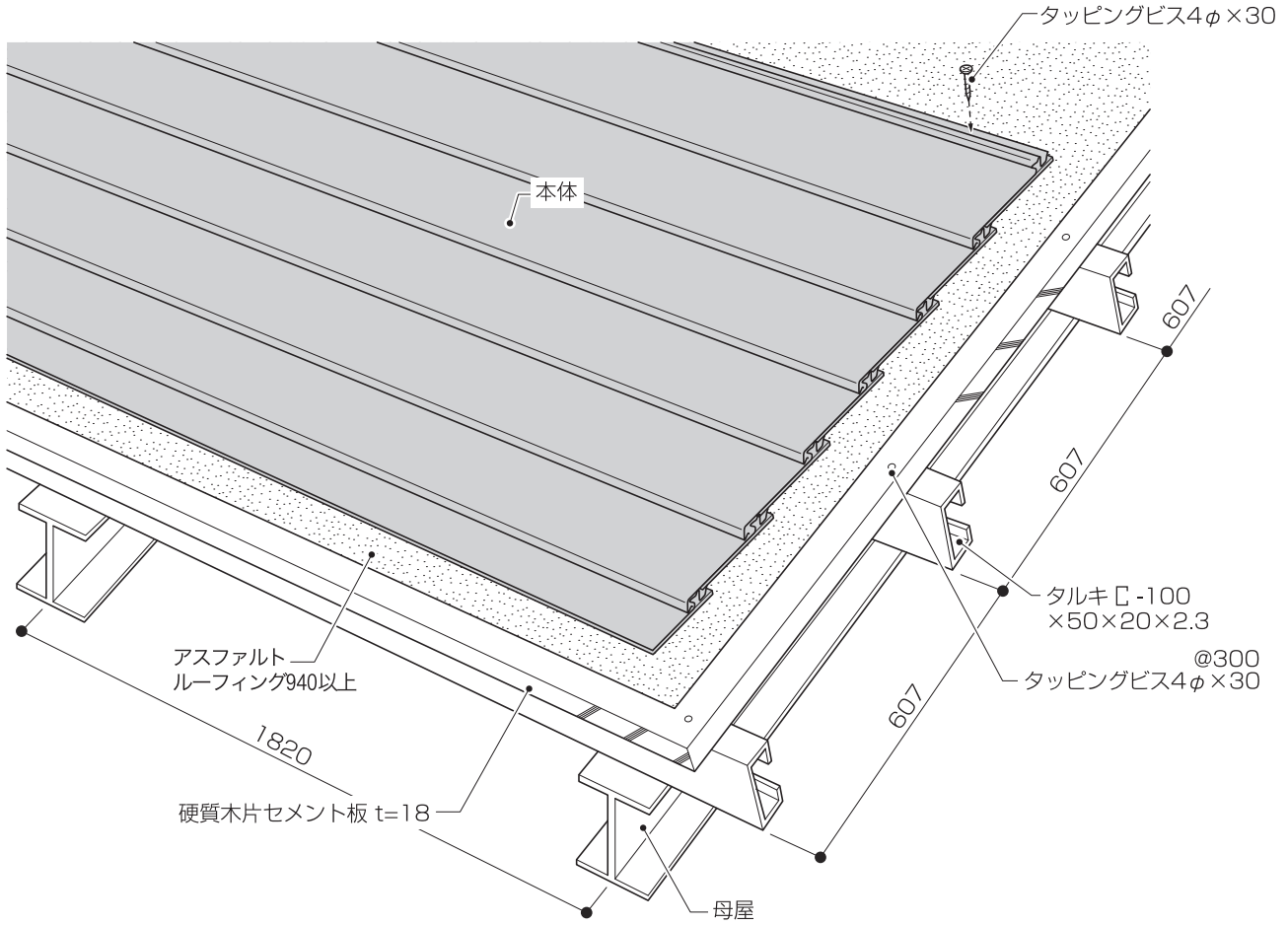
■陸棟部補強

●棟芯に笠木30×40を横使いで2段に重ね、棟用釘にて900mm毎で固定してください。

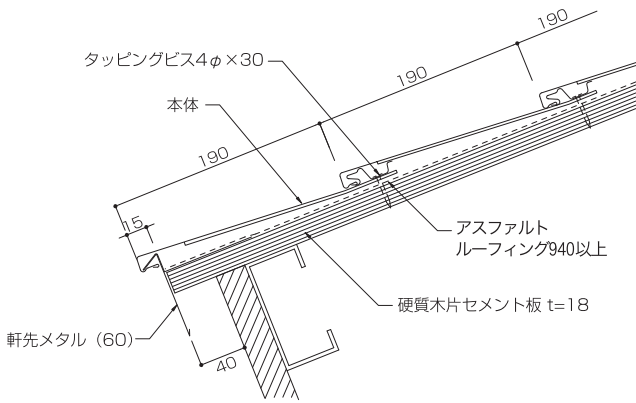


11. 鉄骨造（硬質木片セメント板）仕様

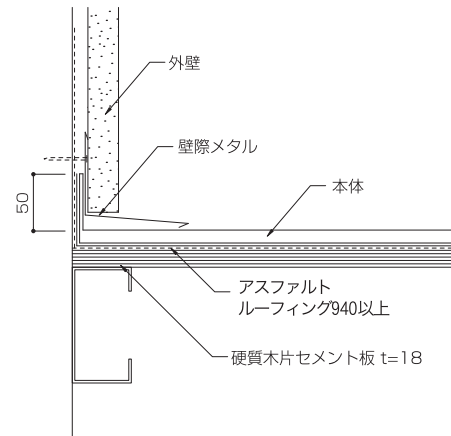
■下地の仕様



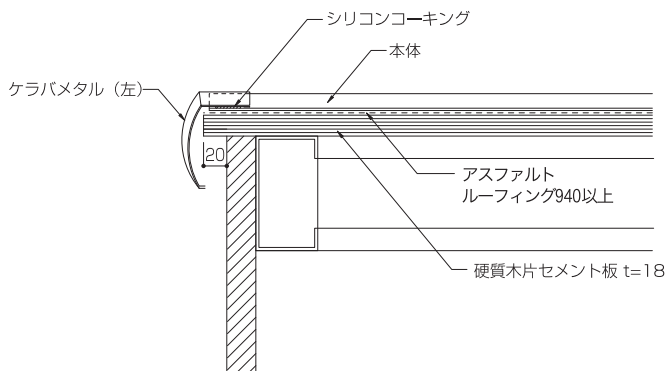
■軒先



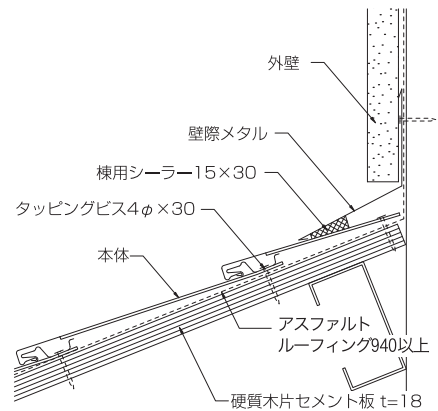
■流れ壁



■ケラバ

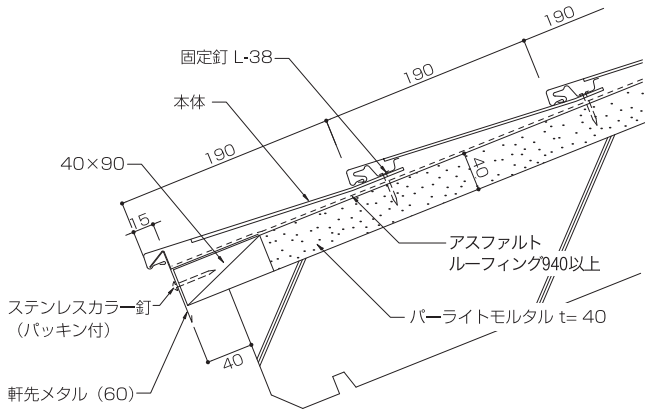


■平行壁

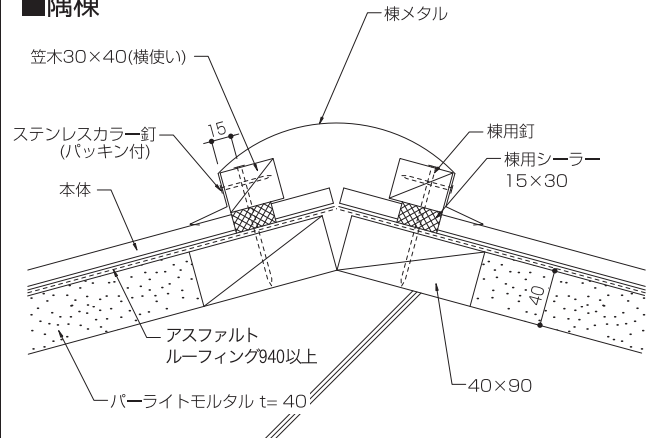


12.鉄筋コンクリート造仕様

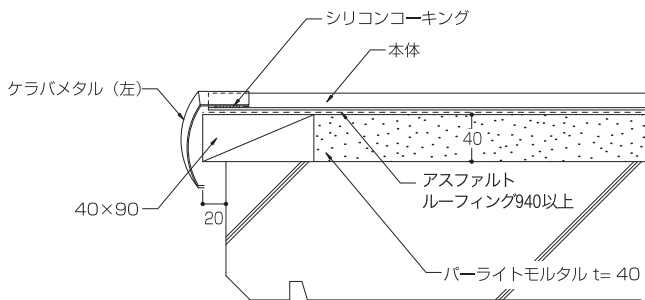
■軒先



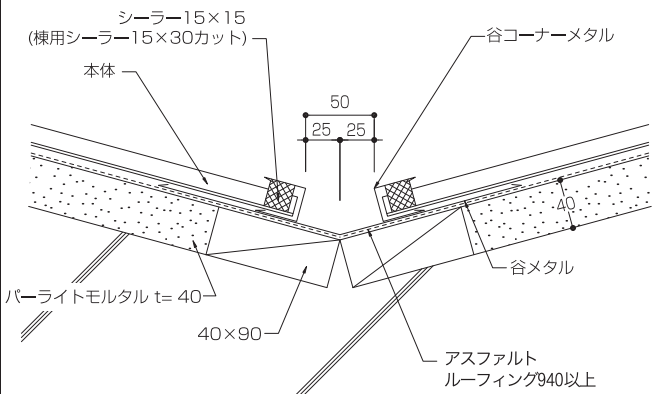
■隅棟



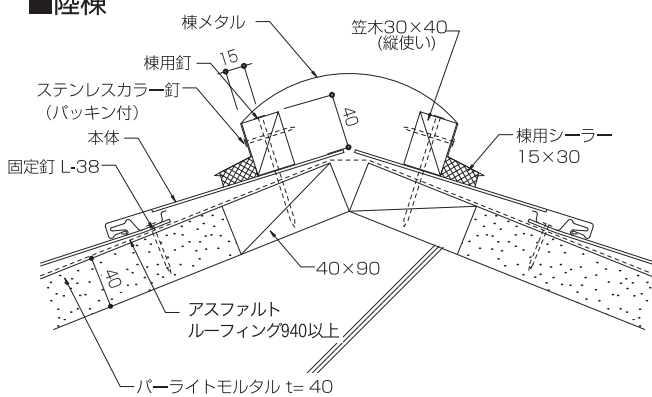
■ケラバ



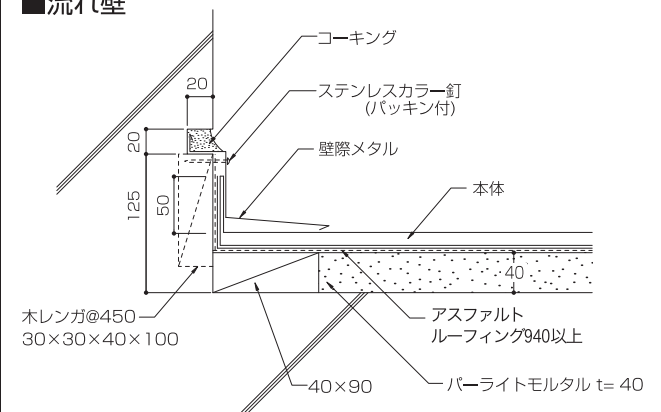
■谷部



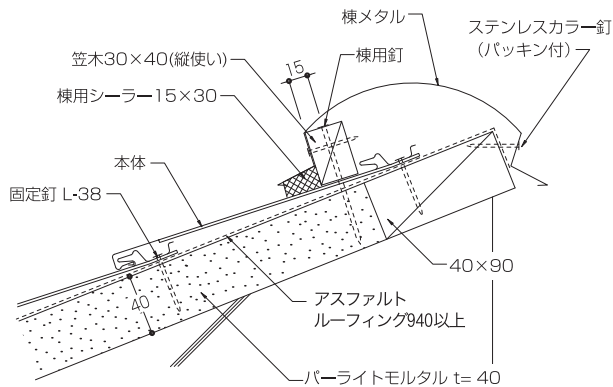
■陸棟



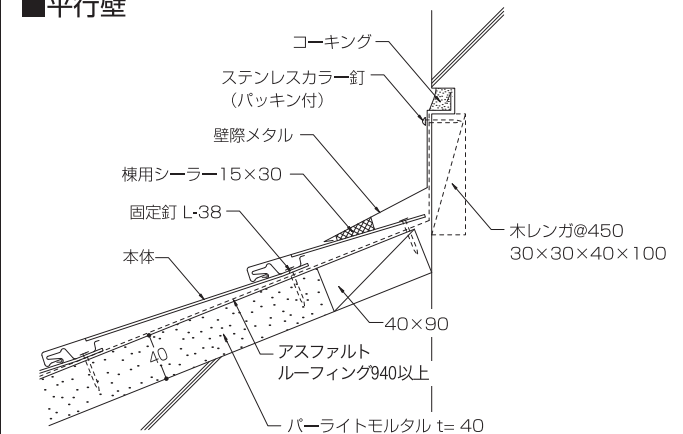
■流れ壁



■片流棟



■平行壁



13.カバールーフ

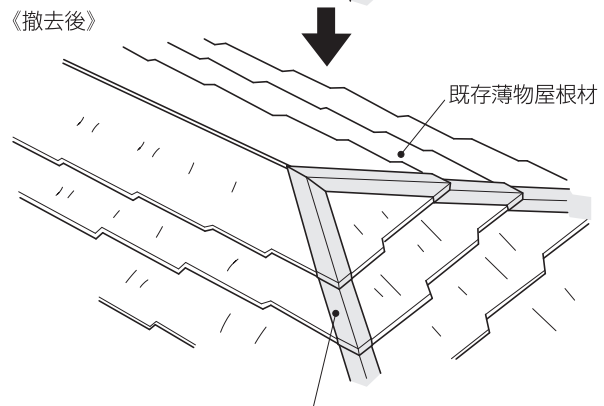
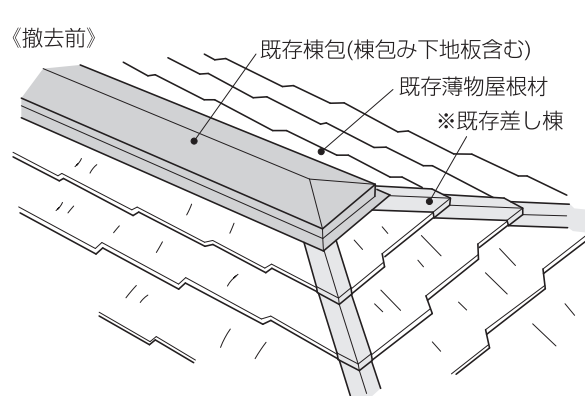
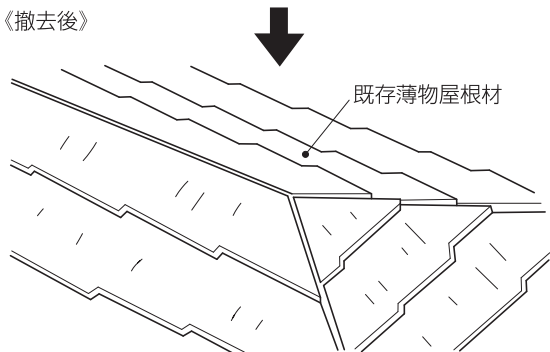
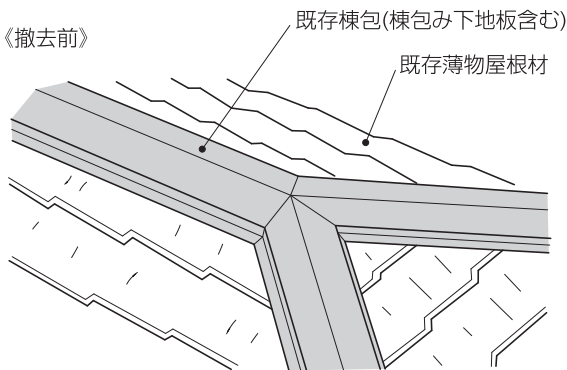
事前調査

●効率よく作業を進める為に、物件について事前の十分な調査をしてください。

調査項目		調査方法	対処方法
建物の構造	・木造 ・鉄骨造 ・鉄筋コンクリート造	・タワミがないかを確認 ・天井裏に入り下地材の確認 ・新築時の設計図面にて確認	・タワミの大きい場合は下地の補強を行ってください
屋根材の種類	・彩色石綿板 ・シングル ・瓦棒 ・日本瓦	・現場確認 ・新築時の設計図面にて確認	・種類により工法の選定を行ってください。
屋根勾配	・勾配	・勾配計による実測 ・新築時の設計図面にて確認	・2.5寸未満の場合は勾配増しを行ってください
屋根寸法	・必要部の寸法	・現場で実測	・詳細ディテールの決定
外壁材の種類	・モルタル塗り ・サイディング張り ・パネル吹きつけ ・タイル張り	・現場確認	・壁立ち上がり部の工法決定
瓦棒の場合	・真木の有無 (有) (無) 	・外観で判定(ハンマーでたたき音感で確認)	・真木無しの場合は本体の固定はL-90の釘を使用し直接垂木に固定してください
その他	・アンテナ ・室外機 ・ソーラーパネル ・ベランダ ・足場の有無	・現場確認	・取り外しができないと施工不可となる場合があります

既存棟包み撤去

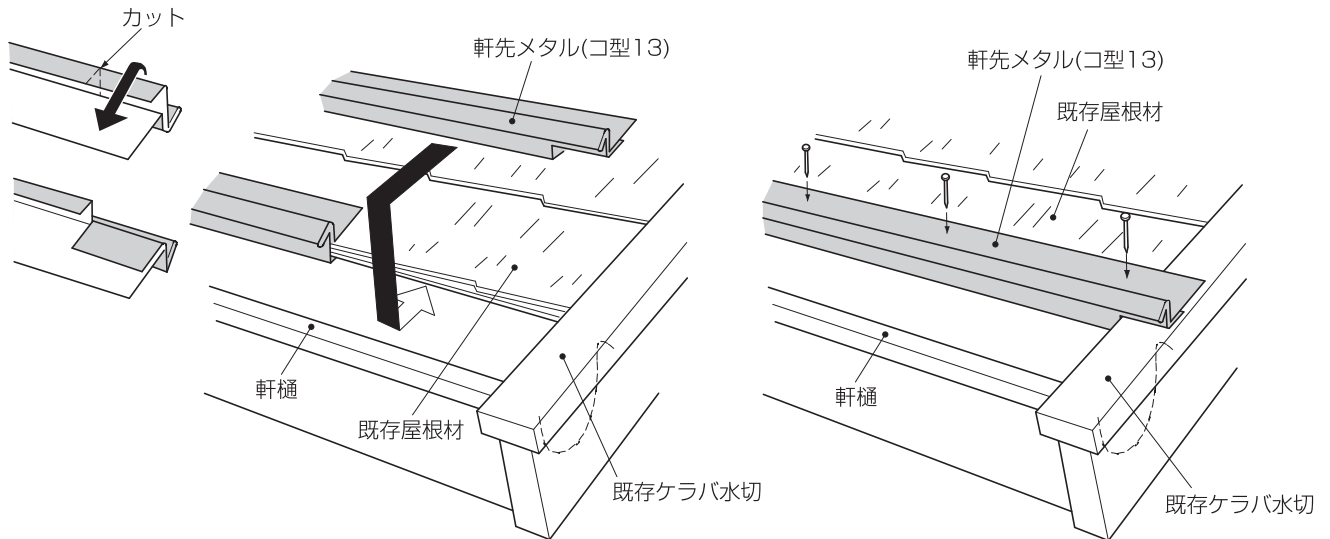
- 既存棟包み及び下地板を取り除き、きれいに清掃してください。
- 屋根材表面にコケ、ほこり等がある場合もきれいに清掃してください。



※既存差し棟は撤去不要です。

■軒先メタルの施工（内樋形式になっている場合）

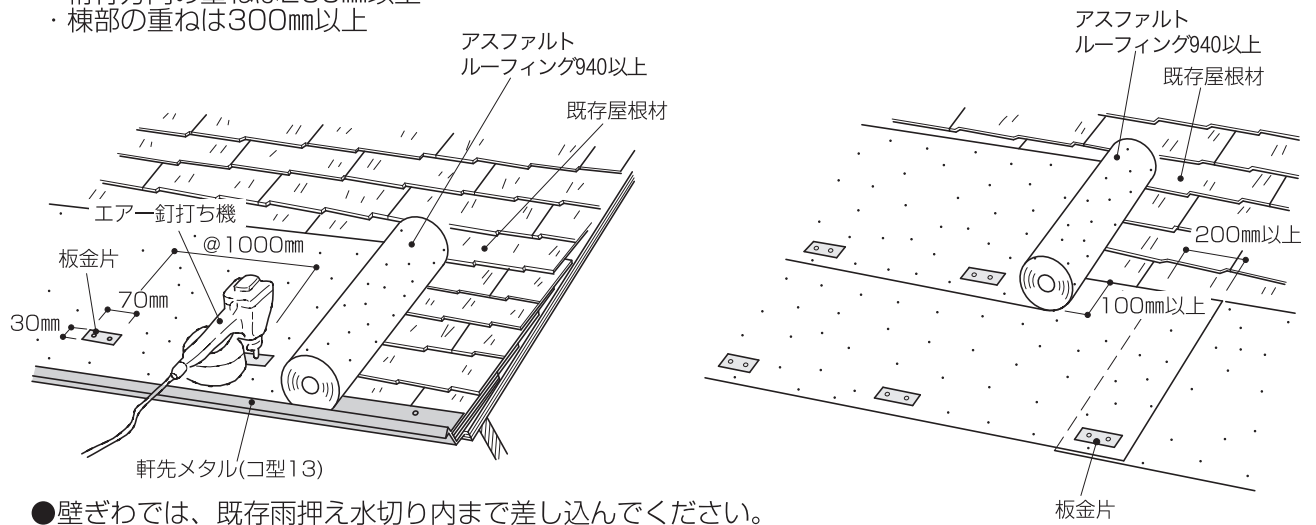
- 軒先メタル(コ型13)を既存屋根材の先端に引っ掛け、上面から固定してください。
- 既存ケラバ水切に当たる部分は、図のように加工してください。



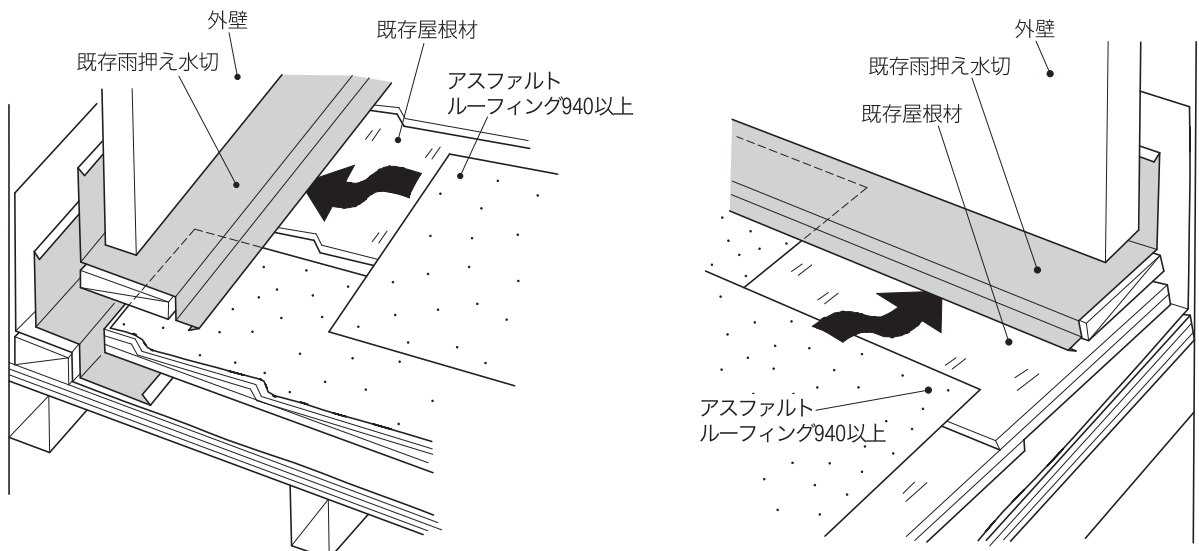
■防水シートの施工（オプション）

（※一般的にカバー工法の場合は不要です。念のために施工する場合、仕様・価格等はビルダー様と打ち合わせ願います。）

- 板金片(30×70)を使って、アスファルトルーフィング940以上を張ってください。
- アスファルトルーフィング940以上は、次のような要領で重ねてください。
 - ・流れ方向の重ねは100mm以上
 - ・桁行方向の重ねは200mm以上
 - ・棟部の重ねは300mm以上

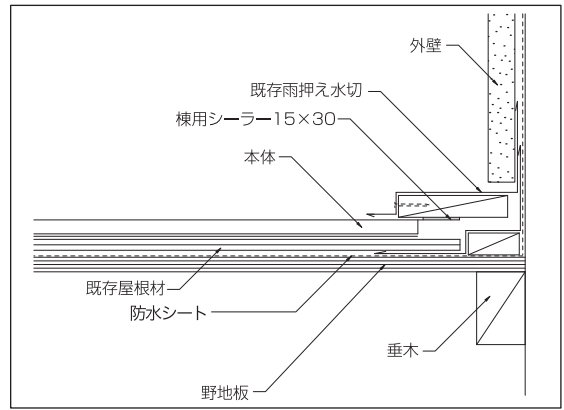
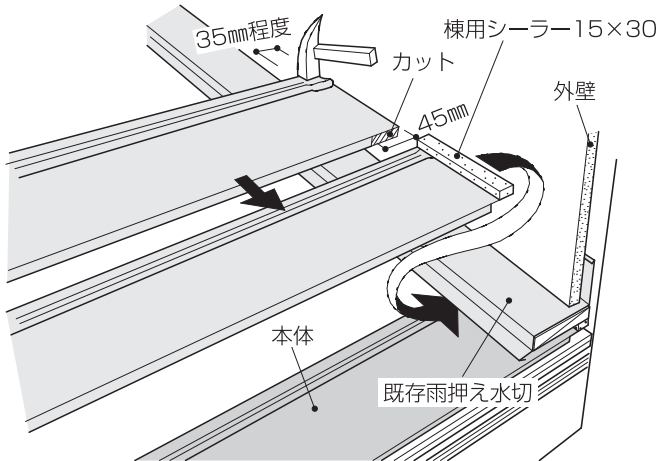


- 壁ぎわでは、既存雨押え水切り内まで差し込んでください。

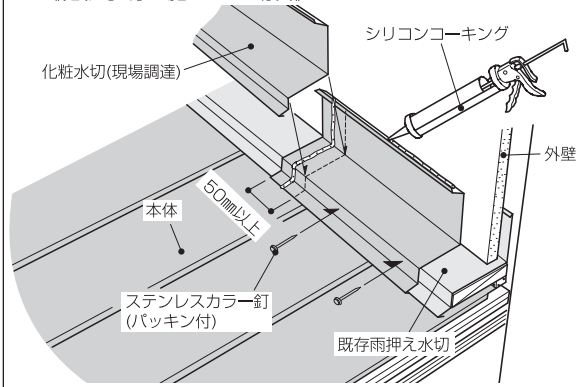


■流れ壁際部の施工

- 本体の立上部の溝をつぶし、引っ掛け側小口部をカットした後、棟用シーラー15×30を貼り付けてください。
- 本体を既存雨押え水切の下に差し込み固定してください。



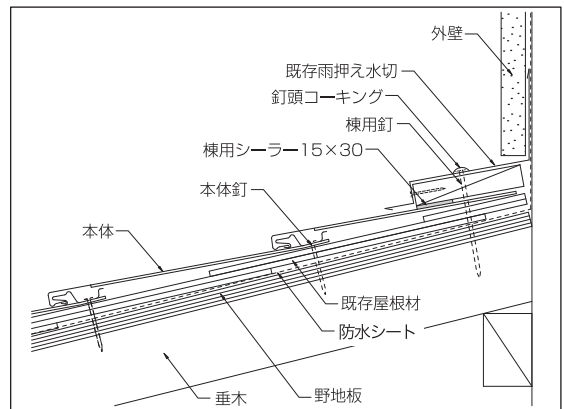
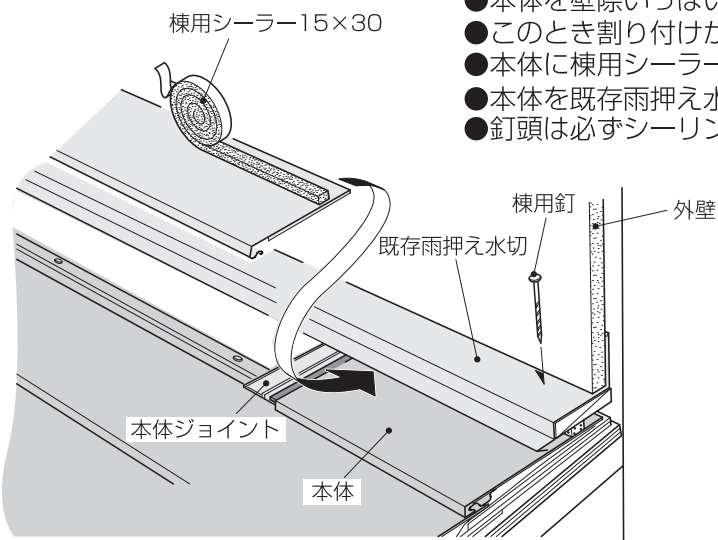
《化粧水切を施工する場合》



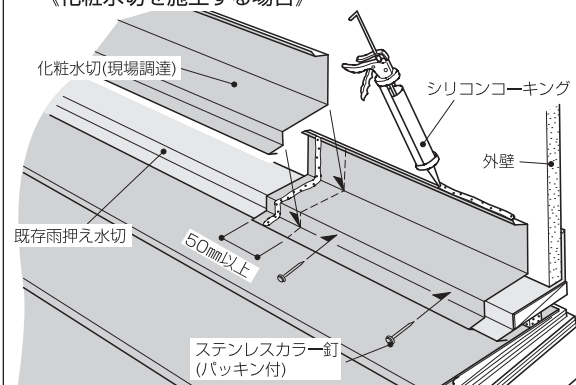
- 化粧水切を既存雨押え水切の上にかぶせ、ステンレスカラー釘(パッキン付)にて側面より固定し、外壁との接合部分はシリコンコーキング処理をしてください。
- 化粧水切のジョイント部は、シリコンコーキングを施し50mm以上重ねてください。

■平行壁際部の施工

- 本体を壁際いっぱいまで施工してください。
- このとき割り付けが合わない場合は、本体をカットしてください。
- 本体に棟用シーラー15×30を貼り付けてください。
- 本体を既存雨押え水切の下に差し込み、棟用釘にて固定してください。
- 釘頭は必ずシーリング材処理をしてください。



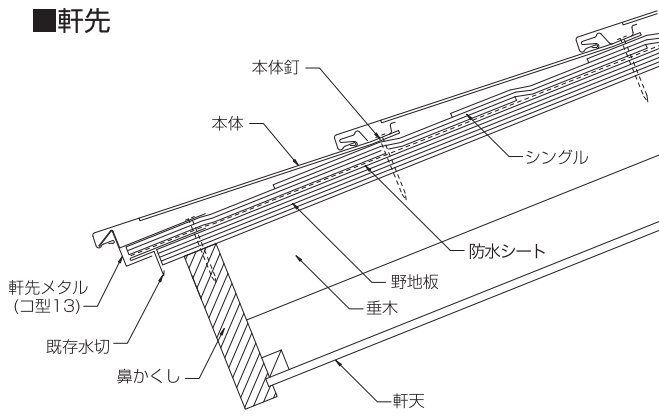
《化粧水切を施工する場合》



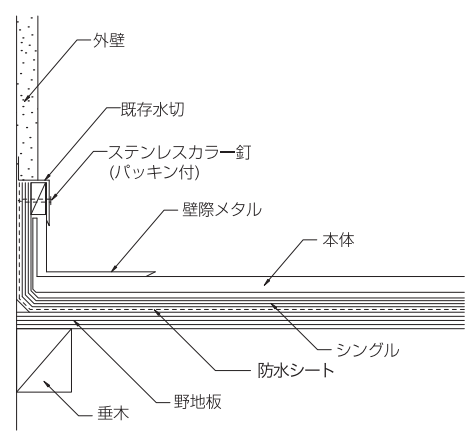
- 化粧水切を既存雨押え水切の上にかぶせ、ステンレスカラー釘(パッキン付)にて側面より固定し、外壁との接合部分はシリコンコーキング処理をしてください。
- 化粧水切のジョイント部は、シリコンコーキングを施し50mm以上重ねてください。

■シングル

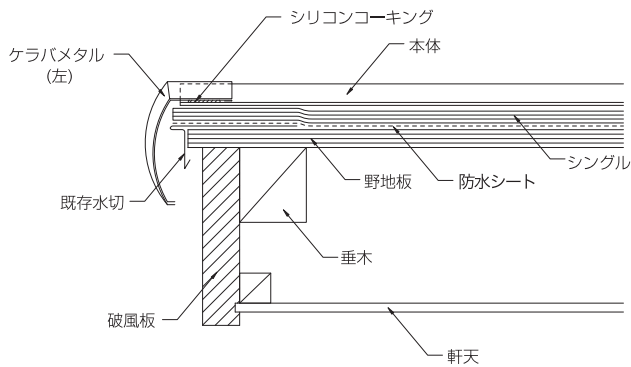
■軒先



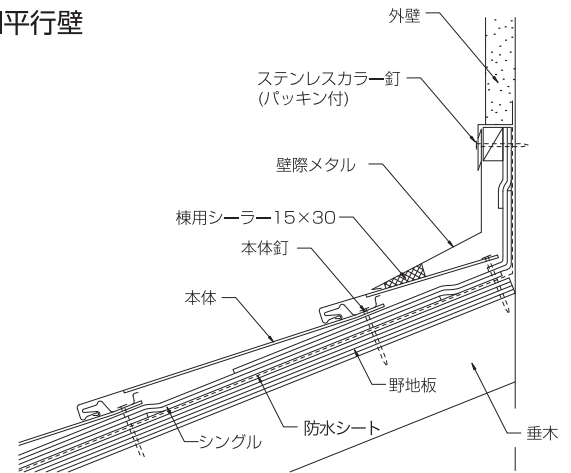
■流れ壁



■ケラバ



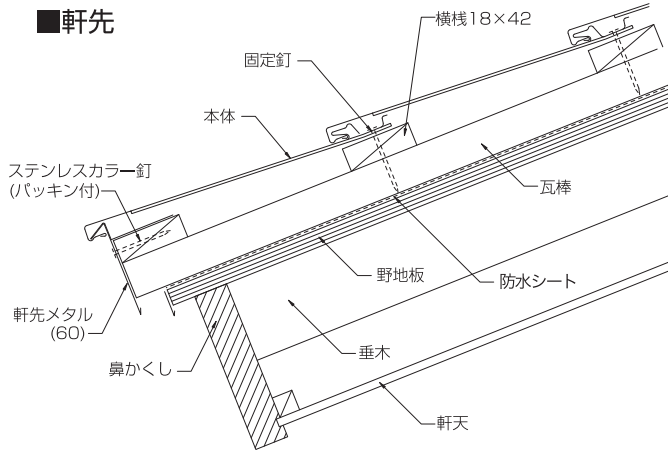
■平行壁



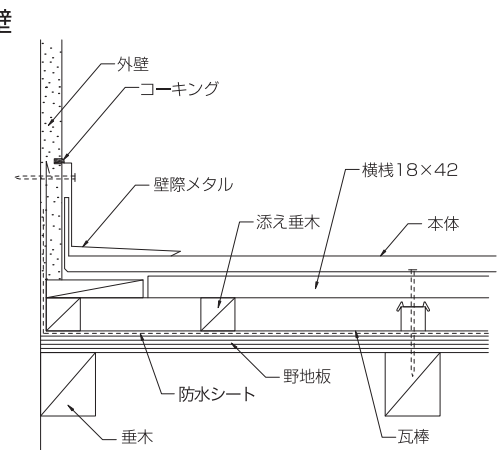
■瓦棒

※真木無しの場合の本体の固定は、L-90の釘を使用し直接垂木に固定してください。

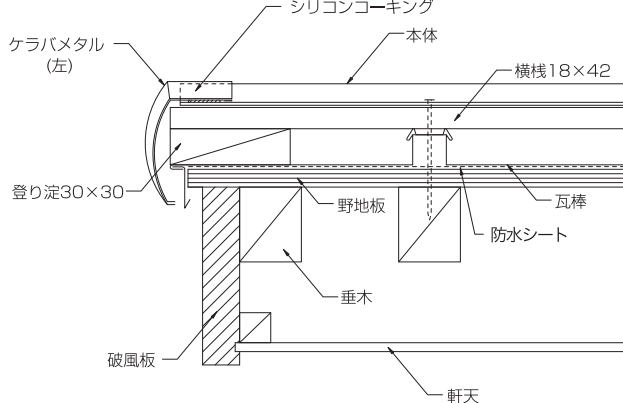
■軒先



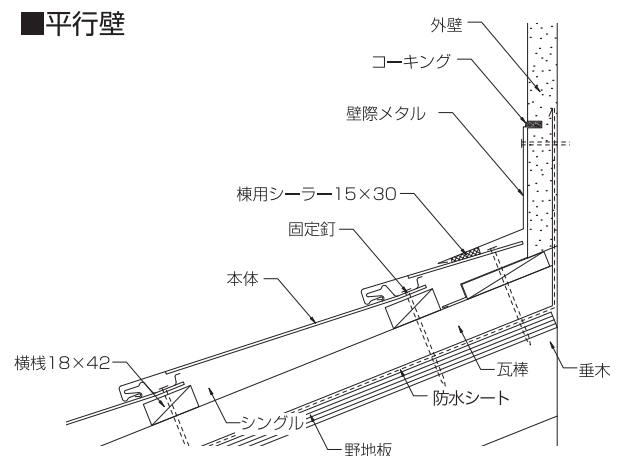
■流れ壁



■ケラバ

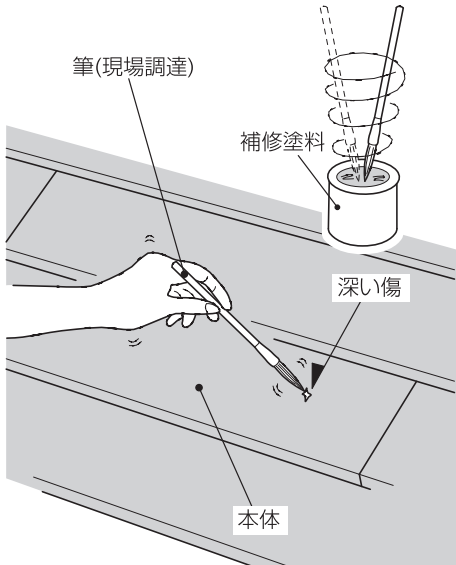


■平行壁



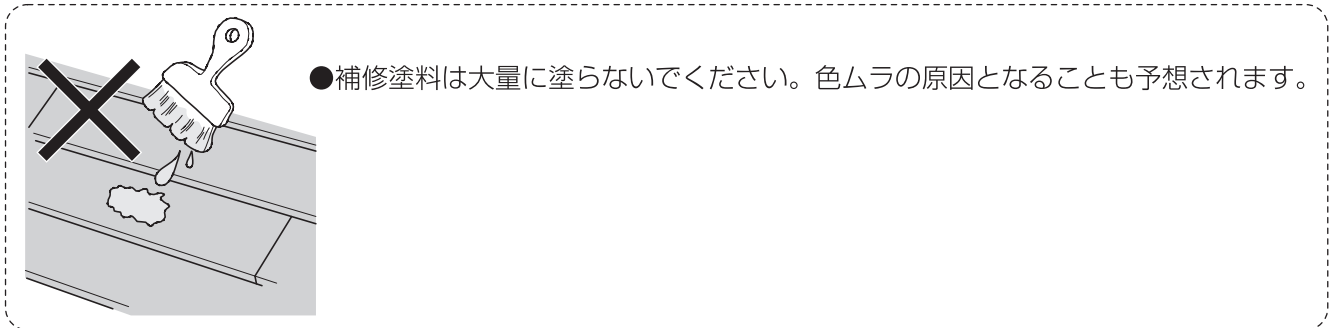
14. 補修方法

■ 補修塗料の使用方法・取扱上のご注意



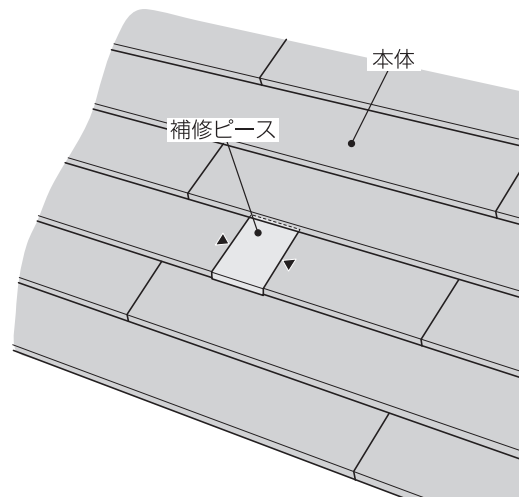
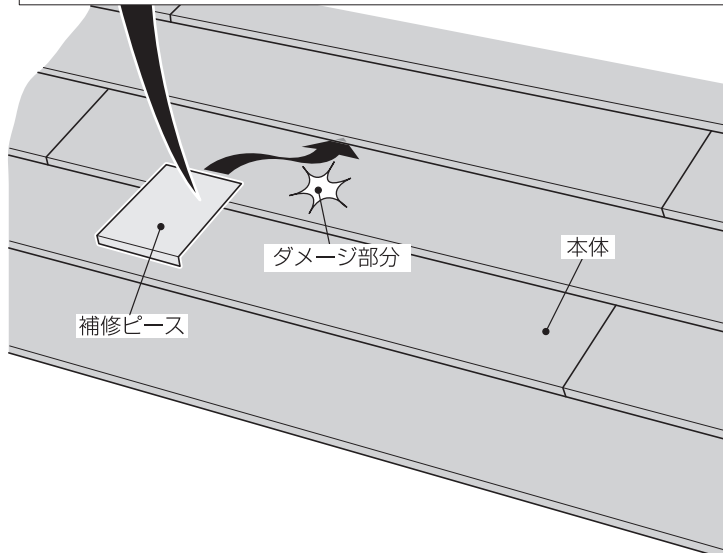
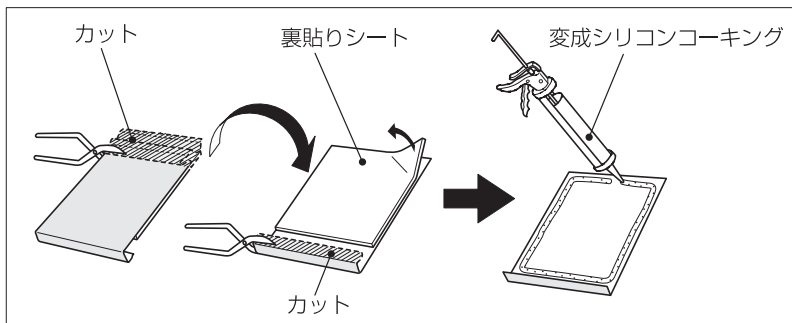
- 開封時に塗料が分離している場合があります。その際は色が違って見えることもありますので、開封後に必ずよくかき混ぜて(3~5分程度)からご使用ください。
- 補修塗料は基材が露出するほどの「深い傷」が入った場合にご使用ください。表面塗膜のみの「軽微な傷」の場合は塗らなくても原板の耐候性には影響を及ぼしません。
- 補修塗料は原板の色調に合わせて調合しておりますが、塗料自体の耐候性の違いにより将来色ムラのクレームに発展する可能性があります。予めご了承ください。
- 補修塗料はできるだけ細い筆などで、傷部分のみの最小範囲でご使用ください。傷周辺も含めた大きい面積に塗りますと塗料の耐候性の違いにより色ムラが発生し、数年後に目立つことが予想されます。

※補修時に使用する筆は、施工業者さまでご用意ください。



■ 本体がダメージを受けた場合の補修方法

(※本仕様は「やむを得ない状況」による際の解決法ですが、本仕様での補修を実施する場合は「事前に」
施主様やビルダー様の了解」を必ず受けてから実施してください。)



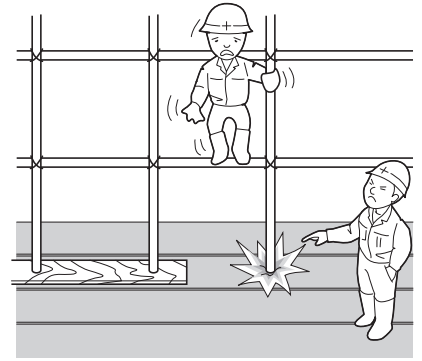
- ① 図のように本体上部及び下部をカットし、裏貼りシートをめくって補修ピースを作成する。
- ② 補修ピース裏面に、変成シリコンコーキングを塗布する。
- ③ 補修ピースを、ダメージ部分をカバーする位置に差し込み十分に押さえつける。

※ ▲印部のスキマに注意し必要な場合はマスキングの上、変成シリコンコーキング処理をする。

15. 使用上の注意点

■養生

1. 小運搬時は、部材表面に疵をつけないよう、また泥などによる汚損がないよう、注意してください。
2. 施工時の切屑、ごみ、泥などを放置しておくると錆発生の原因となるので、施工終了後は、必ず清掃してください。
3. 本体の差し替えはできませんので、屋根施工後テラスなどの設備を取り付ける場合あるいは、モルタル壁工事を行う場合は、関係者と十分打ち合わせて、適切な養生をしたうえで実施してください。



■安全作業心得

施工は高所作業となります。災害を出さないよう、安全作業の徹底に努めてください

1. 正しい服装と保護具
地下足袋・ヘルメット・命綱などの着装
2. 作業規則の徹底と健康状態の留意
3. 足場の安全確保
材料置き場の安全と、下地（木毛セメント板）などの踏み抜き防止
4. 電動工具、一般工具の安全操作と漏電、感電防止およびそれら工具の落下防止
5. 整理・整頓
6. 玉掛作業の安全確保
7. 降雨、積雪。強風など気候変化の対策
8. 現場標識の重視
9. 公衆災害の防止措置



■使用不可能地域

下記のような地域での採用は、お断りします。

1. 波しぶきが当たる等の海水が直接付着するような海岸に近い地域。
2. 酸・アルカリ・その他腐食性物質が存在する腐食性雰囲気地域。
(火山灰・農薬を含む土壌の堆積する地域・基礎コンクリートと直接接触するところ)
3. 金属粉末の直接付着する場所。
(鉄道沿線沿い等、鉄粉の常時かぶる場所、特殊工場等)
4. 温泉や、絶えず蒸気などにより鋼板が濡れているような環境の地域。

特約販売店

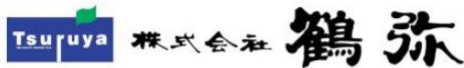
ご使用に際して

カレッセ本来の性能を発揮するためには、屋根工事専門業者による各仕様、施工基準に基づく施工が必要です。寒冷・積雪・強風地域などでは、特殊な工事を必要とする場合があります。

※商品は、改良のため予告なく変更することがあります。

カレッセ・シリーズ施工マニュアル 2023年10月19日 現在

禁無断転載



本社 〒475-8528 愛知県半田市市の崎町2番地12

☎ **0120-817-268** ホームページ:www.try110.com

営業部 TEL.0569-29-4999 FAX.0569-28-5566 (販売・価格)

北陸支店 〒932-0136 富山県小矢部市平田3102番地
TEL.0766-69-1268 FAX.0766-69-7268

仙台営業所 〒983-0013 宮城県仙台市宮城野区中野5丁目3番地の35
TEL.022-254-1580 FAX.022-254-1581



太平産業株式会社

本社:大阪府門真市北巢本町35-8
TEL:072-882-0055 FAX:072-882-0063
<http://www.taiheisangyo.jp>